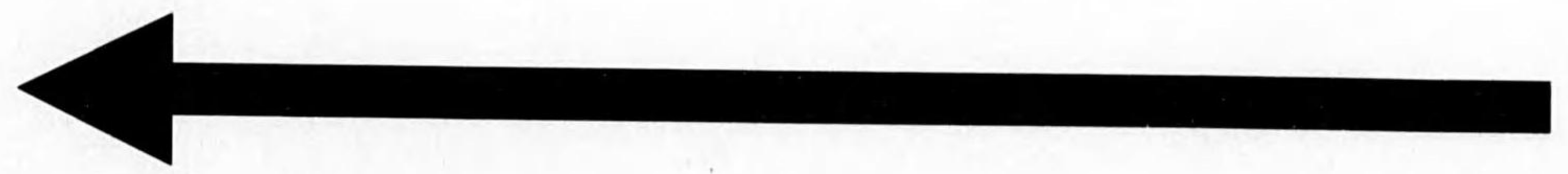


291. 3-34  
1200501364016

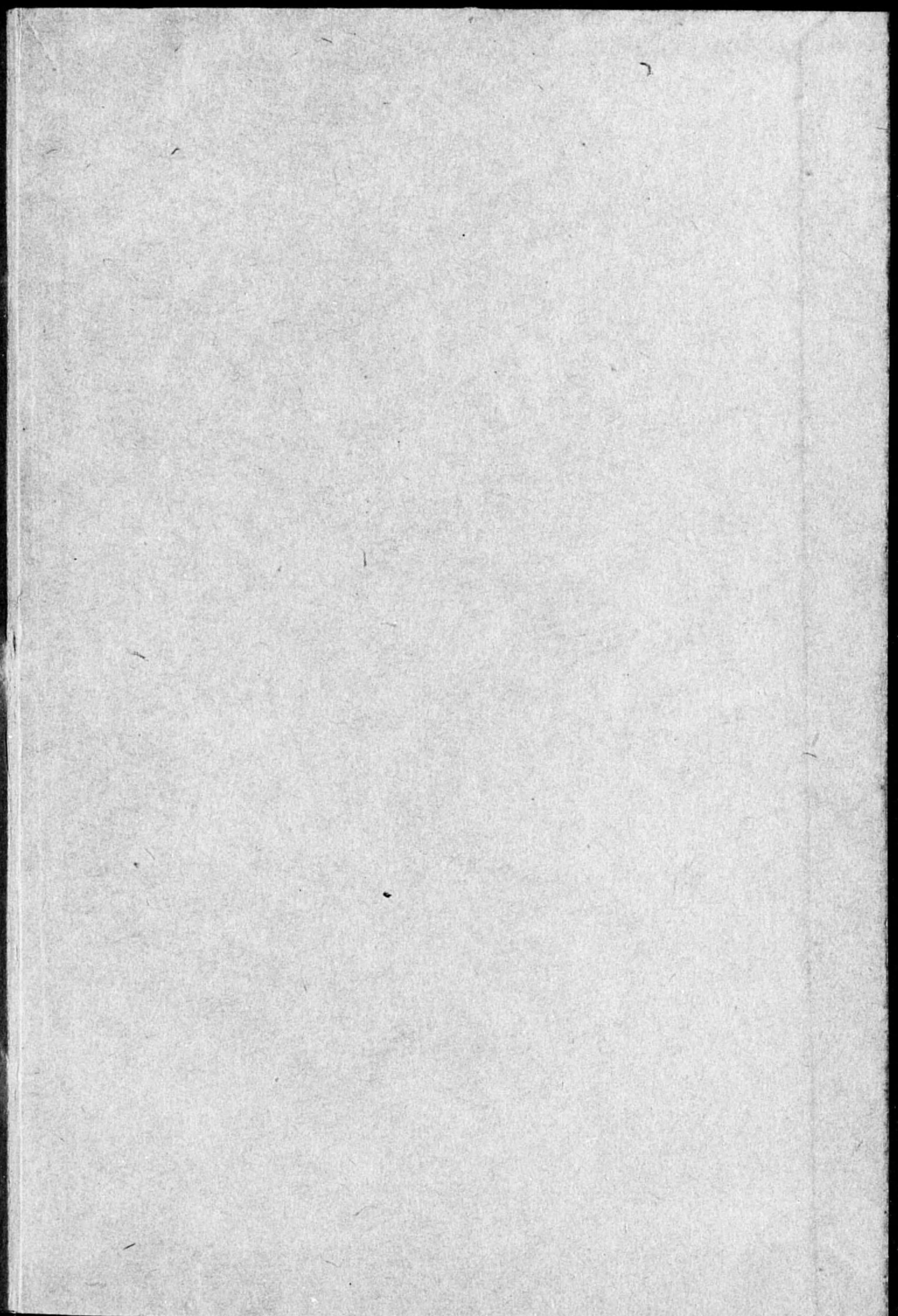
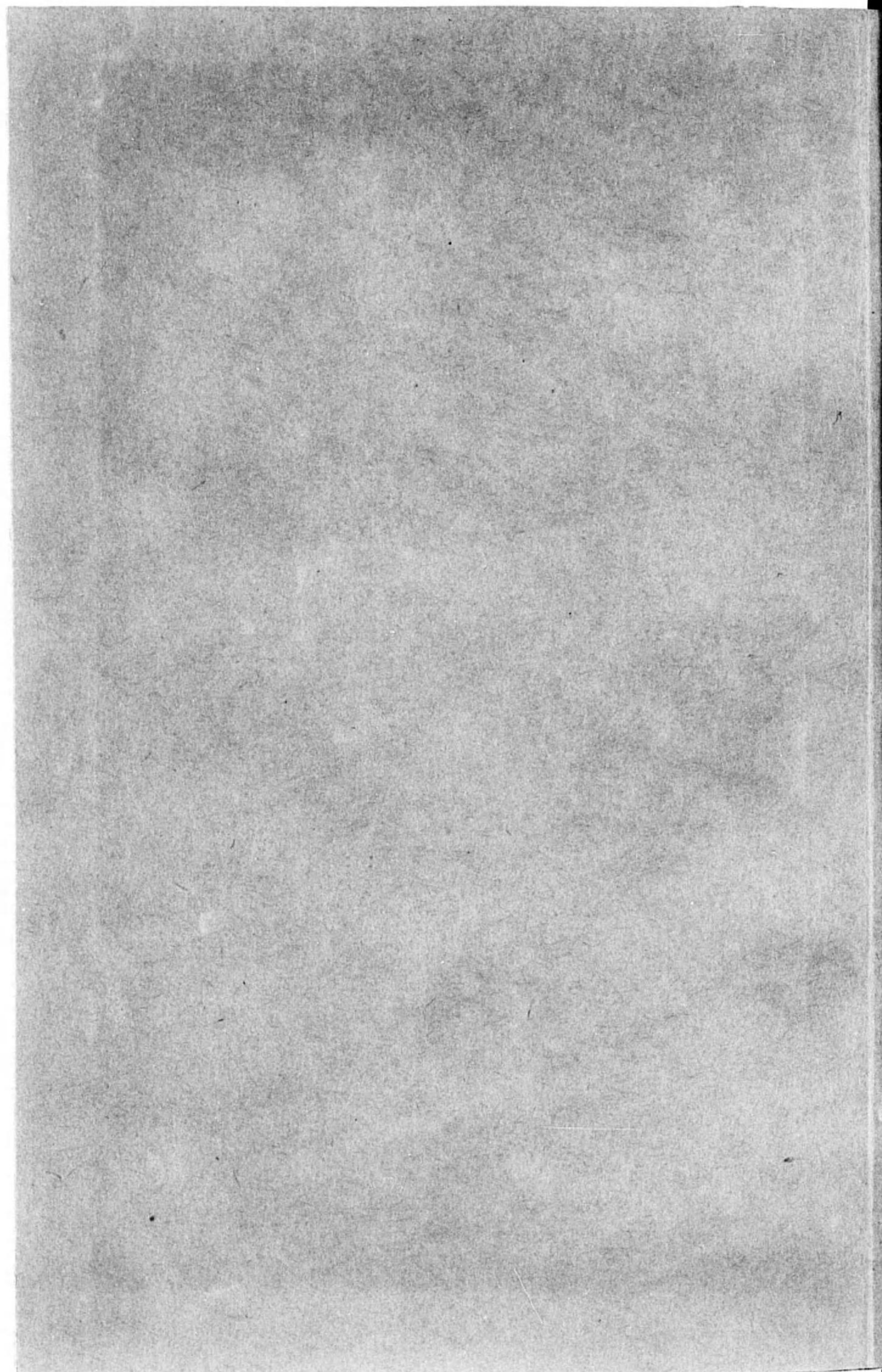
291  
34



始









北郡教育特輯號

懸賞  
論文

農村教育振興論

北津輕郡教育會





村教育振興論





# 農村教育振興論

目次

發刊の挨拶……………北津輕郡教育會長 木村吉三郎 一  
農村教育振興論……………

松島尋常高等小學校長	三上直太郎	三
七ッ館尋常小學校長	工藤金徳	三
五所川原尋常高等小學校訓導	横島英夫	三
梅澤尋常高等小學校訓導	阿部昌夫	三
五所川原尋常高等小學校訓導	秋田修次	三
板柳尋常高等小學校訓導	尾崎一定	三
鶴ヶ岡尋常高等小學校訓導	乘田一郎	三
金木第二尋常小學校訓導	坂本庸一	三
松島尋常高等小學校訓導	清野晴四郎	三
鶴ヶ岡尋常高等小學校訓導	平山時寶	三
五所川原農學校教諭	葛西國四郎	三

審査所感……………

## 發刊の挨拶

北津輕郡教育會長

木村吉三郎

一、農村更生の根本的對策は何としても農村教育振興具體案を確立することが最緊要であると堅く信ずるので懸賞論文にこの趣旨を選定した理由も全く是に存するのである。

一、論文募集當時の課題は「農村教育振興方案」としたが應募原稿十雄篇を得た爲、特輯號を發行する關係上其の内容に於て何等變化なきも「農村教育振興論」と改題することにしたのである。

一、論文及講評は俱に多年農村教育に従事した各位が熱烈な研鑽と尊い體驗とに基いて物せられたので農村教育振興上裨益するところ洵に甚大なるを確信するのである。

291.3-34





農村教育振興論

松島尋常高等小學校長

三上直太郎

一、應募者及審査員各位が眞に多忙の御身にも不拘本會の目的を達成せしめてくれた御誠意に對しては深甚の敬意と満腔の謝意とを表するものである。

一、本會會員各位にはこの特輯號に載せた懸賞論文と審査講評とを對照しつつ熟讀の上疲弊困憊に喘ぐ農村更生の參考資料に供せられるやう希望する次第である。



第一章 農村教育の意義	七	第六章 農村教育建設の指導精神	四三
第二章 農村教育實際の諸種相	九	第一節 農民人格教育の徹底	
第一節 農村教育の錯覺		第二節 建國の精神に復歸せよ	
第二節 離村教育の實情		第三節 民族精神の顯揚企圖	
第三節 教育亡村の聲の起因		第四節 生物愛の長養に意を用ひよ	
第四節 誤れる秀才教育の實態		第五節 生活教育の強調	
第五節 其の場かぎりの教育の真相		第六節 意志教育の高唱	
第六節 一知半解の村議の態度		第七章 農村教育建設の特相	三
第七節 教員寄附問題		第一節 教育の家庭化につき	
第三章 農村の特質及個性の考察	三二	第二節 農村教育建設としての教科經營策	
第一節 農村の全體的性質の考察		第三節 實科教科目の尊重	
第二節 部分的性質の考察		第四節 農村教育に於ける職業指導	
(1) 道徳的生活の性質		(1) 職業指導の沿革	
(2) 法治生活の性質		(2) 農村職業問題	
(3) 經濟生活の性質		(3) 農村職業指導原理	
(4) 藝術的生活の性質		(4) 農村職業指導の特質	
(5) 保險的生活の性質		(5) 農村職業指導者	
(6) 理智的生活の性質		第六節 四位一貫的教育	
(7) 宗教的生活の性質		第七節 農村學習團の經營	
(8) 教育的見地から見た性質		第八節 農村の生活改善と家事教育の重視	
(9) 其の他の性質		(1) 革新すべき家事教育	
第四章 農村調査の主眼目	二六	(2) 農村生活を對象とした家事教育	
第一節 農村調査の方法に關し			
第二節 農村調査の眼目			
第五章 農村教育の理想	四〇		
		第八章 農村教育振興の重點たる農業教育に關し	一〇五
		第一節 農業教育の地位	
		第二節 農業教育と農村産業是の確立	
		第三節 小學校に於ける農業教育	
		第四節 青年教育に於ける農業教育	
		第五節 農村民を對象とした農業教育	
		第九節 農村教育の經濟的管理	
		(1) 教育と經濟との對立觀	
		(2) 使用價値の創造	
		(3) 農村教育の經濟的管理	
		第十節 所謂綜合教育	
		第九章 農村青年教育の振作	二八
		第一節 中等教育の考慮	
		第二節 實業補習學校と青年訓練所の充實	
		第十章 農村社會教育の振興	二四
		第一節 農村社會教育の回顧	
		第二節 年中行事と社會教育	
		第三節 將來すべき農村社會教育	
		第十一章 農村教育者の使命	三七

緒言

國運の消長は、懸つて農村の隆替にあるを申しても、過言ではあるまい。吾人は之を世界興亡の歴史に徴し、更に健實なる社會發達の要因に稽へて觀て、疑はぬものである。今や我が農村は、疲弊困憊の下に呻吟しつゝ、ある状態にある。即ち經濟的破局は第一思想的頹廢を伴ひ、時局は將に極度に逼迫せる状態に到達しつゝ、あるやに思はれる。之を如何にして救済し如何に指導し、以て希望に満ち輝ける農村たらしむべきかは、刻下緊急の問題で、單に我國の問題たる許りではなく、之は廣く申さば、世界を通じての問題である。現下の農村に一新生氣を興へ、局面を打開せんがために採るべき手段方法は、政治的、社會的、經濟的等各方面に之を求むべきも、之は畢竟農村民自身の自覺に俟たねばならぬと思ふ。即ち人材養成言ひかへれば人間の改良がすべての問題解決の根本であつて、之は獨り農村振興のみの問題では勿論ないのである。

農村民の教化を高め、自覺と奮起を促すべきは、農村教育の振興充實を企圖することによつて得らるゝのである。農村教化指導の第一線に立つ農村教育者の使命は、蓋しきはめて重大であると思はれる。農村教育の振興の叫びは、學校當局の指導獎勵と農村教育熱心家の努力によつて、體かに一般的注意を喚起した事は事實である。然しその實績に至つては、見るべきもの、少なきを思はざるを得ない。蓋しこは思ふに從來の、指導者中心の教育形式は社會的意識となつて永續し、因襲に囚はれて、容易に舊殻を脱却し能はざるのも其の一因である。主張者が制度組織設備の上に走つてその内容に於ける教育事實の建設に於て冷淡であつた事もその一因である。農村教育實務者に、特殊の天分を存する人格者少なく、多くは信念に乏しく、眞劍なる努力を拂はなかつた事も確かにその一因である。かくて農村教育の不徹底は、農村問題を永久的不解決に導くもので、國家の前途、まことに憂慮



にたへない。茲に於て、吾人は過去明治、大正に於ける教育の業績を省察し、國民教育としての普遍的な要求に備ふるに共に、農村の特質農村自らの母胎内より生ひ出づるものを育て上げねばならぬといふ、特殊なる教育を併せ満たさるべき獨自な特殊相のある農村教育を建設し、以て愛郷愛國の熱情にもえ、農村にありては大地を踏まへて動ぜず自ら額に汗して耕し、天地の化育に參するといふ崇高な「農」の使命を了得し、出でては異域の曠野開拓に先驅し奮闘する、眞に自覺ある農民の教養に、邁進する事は、蓋し農村教育者としての最喫緊の實務であるに信するものである。余はかゝる念願の下に、余の實驗せる體驗を基調とし、且つその間より得たる理想と斯道の文献とを之に配し、農村教育建設且つ農村教育振興について抱負の一端を披瀝し、以て一般識者の高批を仰がんとするものである。

昭和九年十月十三日

### 三 上 直 太 郎 識

## 第一章 農村教育の意義

現下國內で問題にされてゐるもの、中最も大きなものこそされてゐるものは何にしても、農村問題であらう。農村問題そのものについては可成りの複雑多岐に事柄の研究を要する。即ちその解義の主眼が經濟的方面にあるか、思想方面にあるか、社會問題として取扱はれるか、將又政治問題として取扱はれるか、これは觀る人によつて夫々輕重本支の差異があるが、とにかく今や農村問題は獨り我が國の重大問題になつてゐるばかりではなく、世界を通じての大きな問題であると信する。農村の萎靡沈滯、農村の窮迫荒廢の因は世界的不況等外部的の影響はもとよりであるが、農民の無氣力、無節操、無計畫、無自覺によること等最たるものであらうと思ふ。従つて農村問題解決の基調たるべき農村振興方策の樹立實行は、畢竟農民自身の自覺にまたねばならぬ。即ち人間の改良がすべての問題解決の根本であることは獨り農村振興のみの問題ではない。農民の教化を高め、農民本來の自覺を促がし、その奮起によつて農村を榮えしむべき教育に於て、從來の教育があまりに都市模倣の教育になつて農村振興の意義と信念を培ふことに努力されず、一半の責任を負はざるべからざるの今日、過去農村に於ける教育を清算して眞に農村独自の實際的教育に目醒め、今後の農村輿論により多くの貢獻をもたらさんことを希求する處に農村教育の叫びが存するのである。抑々農村教育とは農村に於ける學校教育のみを指すのではない。又單なる農業教育を指すのではない。即ち農民に對する學校及び學校以外に於ける教育の全部を總稱して言ふのである。故にその中には技術的、經濟的教育も、法制的、自治的教育も、人格的教育も、その他農村の社會的施設並に娛樂、社交等一切を含有するものである。而してこれら農村教育は、一面に於て普遍的な國家的要求に備ふるに共に、農村個々の要求に基く獨自な教育であらねばならぬ。普遍的國家が要求する國民教育の目的は、善良有爲なる國民を養成するを以て目的とすべきであることは多く言ふを要



しない程明瞭である。即ち善良有爲なる國民は言ふまでもなく、社會運営のある一部分を分擔しその天職を果すこと、即ち一定の職業を通して自己を社會に實現することに對して眞摯熱烈なる國民である。只單なる道德的教養を有する善人たるに止まらず、尙職業的資質能力を充分に具備する有爲有能の全人であらねばならぬ。従つて職業的勤勞は國家社會の成員としての人格の積極的要素である。農民が自己の生活する農村に於て農業に従事し、その職業たる農業に目醒め、日々の勤勞に對して眞摯熱烈なる信念を持ち、自己の農業を通じて國家に貢獻することに於て、明確なる自覺と、これに精進することに無限の歡喜を覺える農民の教養は、正に國家的要求に農村独自の要求とを備へ得たるものと言ひ得るのである。米國教育界の泰斗にして農村教育の世界的權威者ミ稱せらる、フォード博士は、我が國の農村學校を視察してその所感を公表し

「日本の農村學校はよく組織されてゐる。教育費は潤澤であると申されぬ。勿論校舎は最上であるとも申されぬ。而して之を一般から批評せばよろしいといふべきである。然るに彼等の學びつゝある學科内容は不幸にして概して大都市に於けるものと大同小異たるにすぎない。何れも農村生活をにぎらしむることに缺陷があると思ふ。即ち兒童を自然及び環境に接觸せしむる上に於て缺陷がある様に思ふ。學校園の利用法、農業のプロセクトメソッドの適用の如きはこれである。米國では小兒を蝗ならしむるの必要ありといふ諺がある。日本では小兒をしてまづ土地に親しましめ土壤を理解せしめよといふ事を高潮したい」と申してゐる。

寔に幼兒の時代から土にたしませ、青年の時代に於ては土を愛し農業を尊重するの至念を啓培し、やがて成人となるに及んでは田園生活の中に喜の泉を發見し、自然と一致し融合したる生活を以て無上の歡喜とする人たらしむべく教育するといふことが農村教育の本領であらねばならぬ。まづ大自然のふところに歸れさせよ。教育の眞諦を認識せんには教育が人類生活に浸透する全的事實であり、したがつて生活の内容の全部が教育である。生活即ち

教育である。これを以て一國民生命の根源である農村の生活そのものを指導するに農村に於ける國民教育の生命である。かくの如く農村教育は國民教育の地方化、郷土化をはかり、教育方針を農村の實情に即せしむることである。即ち教育の目的から見れば、農村に立脚し、將來農村を双肩に擔つてその進歩改善向上を期する、善良有爲な農民を育成することであり、方法上からは農村に適切なる教育の材料なり方法によつて教育の能率を向上せんとする國家的、濟世的眞摯なさげびそのものである。

以上の如く農村教育の意義を限定して余の態度を示したのであるが、之が實際に當つては現在の農村教育は如何にあるかを打診する必要がある。以下述ぶる處のものは即ちそれである。

## 第二章 農村教育實際の諸種相

### 第一節 農村教育の錯覺

現在では農村教育の實際も餘程自覺的になつてきてゐるが、これまで教育を唱ふるものは何人も上流支配階級の教育、即ち閑人の道樂的教育を主張してゐたやうなものである。この事實を東洋特に支那の教育思想に求むるに、孔子が古來の聖賢即ち、堯舜、禹、湯、文武、周公の思想を集めて大集した儒教教育思想は、所謂修養は「修己治人」の道德的、政治的兩面の意味を指し、窮極の目的を治國平天下なる治人に置いた。随つて、教育修養も意味を此處に置き、人は何れも支配者たらんことを目的とし實業につくことを賤しきこととし、實業には教育は不必要なりと考へたのである。我國古來からの教育法も亦全く此の儒教的の考へ方に基くもので、學問教育に志すものは何れも古典に依る聖賢の道の研究に没頭したのである。生活に必須なる實用教育は、徳川中期以後の平民勢力の増加するにしたがつて、漸く主張せらるゝに至つたにすぎないのである。更に又歐洲に於て、先づギリシヤ時代を考へるに、ギリシヤに



は國家の生産事業は全て奴隷に委し、社會の優者階級とも稱すべきものは何れも政治學問道徳藝術を司り、これ等の文化の創造につとめて居たのである。換言すれば、歐洲文化の源泉であるヘレネ民族文化は、その根本はこの奴隷の賜ものこいふべきである。次に歐洲中世に至つては、封建制度なるものが起り、農業及び工業の必要が痛感せられた。しかしこれも單に若干の自由を附與せられた奴隷にすぎなかつたのである。而しこの農奴によつて諸侯や僧侶は社會の上層階級として政治宗教に携はり、したがつて教育もこの方面の修養を目的としたのである。近代になつて産業革命により、封建制度は破壊せられ、又我々の自覺と共に庶民教育のことが叫ばれる様になつたが、しかし古來からの状態は他の形に於て依然繼續せられてゐるのである。しかしこの片手落なる制度及び教育が理智の進める現代に於て眞に國家社會の幸福をもたらすものであらうか。少數な明敏なる指導者と共にこの指揮者の許により働く多數實際人たる兵卒を必要とするのである。徒らに頭腦のみ發達して四肢のこれに伴はないものは健全なるものはいひ得ないのである。而して現時の農村に於ける一般農民の教育観はまだ古代の教育思想を出でざるものが非常に多いのである。百姓の子に農業を教へることは珍重せぬと言つた論や、手工や家事の教育を輕視する所謂、よみかきそばん主義の教育主張が出るかと思へば、教育をさへいへば上流支配階級の仕事、閑人の趣味と解し、所謂教育一般陶冶の思想で實業は社會劣敗者の從事すべきもの、實用教育職業教育を受くることを卑下することの甚しきものがある。教育は不生産的なものですぐに目に見えぬといつては冷淡視するなご現代教育の意義や使命について理解がない。かうしたあやまれる教育観の許に於ては如何にしても教育の實際的效果をあけることは困難である。この根本なる教育思想の改革は何としても先決の問題といはねばならぬ。教育は支配者を作るのみではない。教育は勿論月給取りを作るのが目的でもない。教育は閑人の趣味では勿論ない。今日の教育は人間として且つ亦社會國家の一員として全靈を其の社會國家のためにさへて活動貢獻する實際的有用な職業人を作り出すことで、實に農村の死活を制する貴重

且つ根本の重大事業たるこゝを明瞭に認識せしめ以て之に當らしめねばならぬ。

## 第二節 離村教育の實情

之を實際についてのべてみよう。昭和五年十月に施行された國勢調査の結果によるに、我が國の總人口は六四、四五〇、〇〇五人で、これを大正十四年の調査の五九、七三六、八二二にくらべると四、七二三、一八一一人即ち、七分九厘の増加で、大正九年より同十四年までの五ヶ年間の増加率六分七厘よりも著しく高くなつてゐる。一年平均増加率は人口千人に付前期十三人一四に對し今期十五人三〇を示し、五年間に九四二、一八〇人を増してゐるのである。而してこの人口増加を市部と郡部とに分けてみると市の數は一〇九で市部の人口は左の割合を以て増加してゐるこゝが判る。

	市 數	市 部 人 口	總人口(千)
大 正	九 年	八 三	一〇、〇九六、七五八
同	十 四 年	一〇一	一二、八九六、八五〇
昭 和	五 年	一〇九	一五、四四二、二一五

右の如く市部人口は五年間に二百五十四萬を増加してゐる。これは勿論前回調査後新たに市制を布いたもの及び隣接町村を合併したものもあるが、今次の調査區域に引直して計算するに、大正十四年は市部百七十三萬(一割二分五厘)に對し、郡部は僅に二百九十七萬(六分三厘)の増加にすぎない。更に同様の計算で大正九年に對比するに、市部は三百十七萬(二割五分九厘)郡部五百三十一萬(一割二分二厘)の割合となつて、出生死亡に基づく所謂人口の自然増加の割合の高い郡部に比べて、市部の増加が二倍すると言ふ現象は人口の都市集中の結果で如何に農民離村の率の高低かを最も具體に示すものである。猶又農林省の調査によれば、農漁村の離村者(昭和二年)は總數約九十萬



に上り内一時的離村者約四十萬人、長期にわたる離村者約四十一萬で之を職業別に見れば、農業者が最も多く、總數の七割を占めて二十九萬人に達してゐる。而してこれらの離村者歸村状態は如何に言ふに、概して都會附近の諸郡に於ては歸村するもの少く、尙注意すべきは男子より女子の方に歸村者の少ないことである。全國平均して見るに、離村者百に對して歸村者の割合は三五、〇〇で約三分の一と見ることができるのである。これが原因として見るべきものは主として經濟的原因によるものが頗る多い。即ち資本主義發達の段階に於て科學及び農業技術の發達は、農業以外の人口増加従つて生じた農産物需要の増加と相俟つて當局の指導獎勵も與つた結果各種農産物の増收を見、その價格も農業の獨占的性質の障害なき具現によつて年々騰貴したため農家は一時的にせよ生活の餘裕を見たのであるがこの現象は一時的の現象で農業は性質上、特にわが國の如き小農組織に於ては到底營利的生産には適せず、且つ巨大なる近代の機械工業は年々農業に代つて近世社會を支持する重要産業となり、加ふるに商工業資本家階級が政權を支持する様になつたために、農業は全く商工業に隸屬する結果を示した。かくの如く農業衰退による農村疲弊は資本主義進化途上の不可避免的現象で、殊に數年來の農家恐慌は直接的には國際的經濟恐慌の影響と金輸出の解禁によつて巻き起された國家一般の不況に加へて農産物生産の増加を見、漸落の傾向にあつた農産物價の急激なる崩落を來した結果農業収入を以ては實際支出相償ひ得ず、更に返済の見込のない多額の負債を負ひ前途暗澹たる生活から都市又は他地方に生活の樂土を求めんとする有力な原因たらざるを得ないこと、次に心理的原因であるが、一般に一攫千金の機會が都會の到る處に轉つてゐるやうに考へられてゐる。實際企業や就職の便は田舎よりも都會の方が便利である。従つて都會生活が名譽や權勢と結びつけられてゐる。更に都會は何といつても農村青年男女を誘惑するものが多いことは事實である。劇場、ダンスホール、カフェー、博物館、公園等種々の競技場青年にこつては都會はバラダイスのやうに思はれるのは當然である。以上の經濟的、心理的の二つは農民離村の有力な原因たることは見透すことには

きないが、更に吾等はこの重大なる原因の一として誤られた農村教育の結果が有爲有能の青年を農村から離れしめつゝ、あることを憂ふるものである。山崎延吉氏は「現在の農村に於ての教育は、第一手間のかゝる教育をし、第二時間のかゝる教育をし、第三に費用のかゝる教育をしてゐる。その結果働かぬ人を作り農村を嫌つて都市に出て行く人間を養ひつゝ、ある。手間がかゝればかゝるほど、時間と費用をかければかける程、勤勞をいぢひ、農村を忌む人間を作つてゐる」と言はれてゐる。この言葉は今日の農村教育者が特に反省せねばならぬ警鐘である。事實程度の高い教育を受けてゐる人程農村にあつても農村の興隆につくさうとする人はない。意志の強い力量のある青年は見ればいつの間にか都會に走つて、遅進劣等な役にもたゝない者ばかりが農村にこまつてゐるさういふ有様である。これで農村振興も農村改善もできる譯のものではない。農村教育が善良有爲なる農村民を養成し將來農村隆昌の因子原動力となつて活動する青年を作るべき目標の下に教育された青年が農村を去つて他につくといふことは他に種々の原因もあることで、一概に教育にのみ罪を荷すべきではないが、たしかに重要な一原因となつてゐることは何としても否めない事實である。吾等は何も農村に生れた青年を悉く農村に止まらせようとするのではないが、政治家も官吏も軍人も商工業者も將又海外に發展する青年も今日の農村から出ることを見望むものであるが、然しそれらの青年はその農村にこまる必要のない青年で、一面有爲有能な青年が地を守り、餘剰のものを他に發展せしめるさういふことが農村教育の自然であり又その目標であらねばならぬ。

### 第三節 教育亡村の聲の起因

今みんな僻地へ行つて見ても巍然としてまづ目に入るものはあの堂々たる學校の建築物である。そうしてその傍には誠にみすほらしい草屋の民家がならんでその對照の如何にもと思はせらるゝ事がしばしばある。かうした立派な結構な學校から歸りくる兒童の服裝は實に立派なものであるが、その路邊の田圃に働きつゝある村民の服裝との對照



は丁度建物に見るやうな極端さはいかないまでも、その対象に視線をうばれてしばし立ちまざる事も決して珍らしくはない。かゝる學校の設備や兒童の服装がその學校の教育精神を最も雄辯に物語つてゐる様に思はれる。一村の兒童が集つて勉強する修養の殿堂が、その修養に充分であることは誰しも望ましい處であるが、しかし、かくも立派な設置がなければ教育は施されないであらうか、かく立派な服装でなければ修養は出来ないであらうか、鐵筋コンクリートや赤れんぐわ堀、挑発的色彩の校舍、豪華な洗面所、科學的に考案された特別教室等が農村の教育にどれ程重要な役目をもつものであらうか。知識を授ける教育としては隨かに至便至寶であらうが、農村教育の根本精神に至つては誠に枝葉末節のものにすぎない感がある。畢竟之は都市教育の主外來教育實際の模倣であつて、一般に苦しい經濟の内から無理矢理に才算段して作つた設備で、むしろ目障りになるか不調和な事に多くの經費をかけたにすぎない感がある。詩人クーバーが「神田園を作り大都市を作る」をいつた如く、實に田舎の特質は純真なる自然、何等の飾り氣のない無汚な神意そのものである。この崇高なる田園には亦正直質素勤勉敬虔親切なまの精神文化が培はれる。この農村の自然の歴史的存在を認識せしめ、この農村郷土を愛し、その開發向上に努力させる農村民を養成するのが即ち農村教育である。以上徒らに都市文化に心酔し歐米の模倣を念ひするが如きは實に農村教育の冒瀆ともいふべきである。農村に於ける校舍は鐵筋コンクリートの堂々たるものを、又一條の水をながしてお仕舞になる様な洗面所を望むべくあまりに非農村的な設備を必要とはせない。よしやそれらの設備は便利といふ言葉で簡単に片付けてしまへばそれまでであるが、教育的に設備そのものが役立つことを思つたら、誠に安價なそして虚榮、流行、打算、嫌勞、なきといつた所謂精神的、全身的衰弱性の誘因たらずんば幸である。たゞ粗末な板張であらうと掘立であらうとそれでむしろ結構である満足であると思はなければならぬ。それが立派に拭ひさられすりみがかれて木質本然の光を放つて居るのは之こそ正に農村的な精神の尊い光であると思ふ。所々の修繕が行届いて、質素なそして利用更生の心構へ

が表はれてゐるさういふことは如何に貴重な教育に貢献してくれるか圖り知れない。その昔古釣瓶の歌をきいて吾等が小學校の時代苦むす古井戸から水くみあけて清淨な清水をのんぎをうるほした學校の古井戸、又そのあたりに流れてゐる小川をせきとめて、ころがり相な臺石の上で手を洗ひ足を洗つたことの強い印象を想ひうかべて、現時農村小學校に莫大の金をかけて設備されたものが、單に便利といふだけで親しみの少ない従つて印象づけられない教育設備にかはりつゝあることは、如何にも時代の所産乃至趨勢さには申せ充分に再検討するの要がある。學校經營費は少くも村費の五割以上にのほつてゐる現今の状態無理さ苦痛さを忍びつゝ、之に多額の費を投ぜられてゐるが、果して所期の目的に如何程近づきつゝあるか、學校は成程立派で行届いてゐるが、反面に村民は借金に首のまはらぬ様になつてゐるは、ここに農村教育何物ださういへはれても仕方がない。或る人は教育亡村といふ言葉を使つたが、觀方考へ方によつては左様考へられないこともない。興農振村の本尊たるべき教育もその施設や方法によつては亡村を將來するを保し難いと思はれる。

#### 第四節 誤れる秀才教育の實態

この事に關しては事實を以て語らう。これは私は先年ある方面から學事視察の命令を受けて出張した時に聞いた實話であるから紹介することにする。

男子のみ六人を持つたさういふ子福者があつた。この實話の主人公はその子福者の二男である。彼は小學校時代は頗る懶口で常に首席であつたさうだ。しかし彼の家庭は左程裕富ではなかつた。只夫婦二人の農稼さう一人の老母が夜の目もねずに飼ふ養蠶の収入で一家を支へてゐたのだ。彼は尋常小學校を卒業するとき、學校の先生はわざ／＼家庭を訪問し、彼は實に秀才です。このまゝ、高等科を終らせて百姓させることは誠に惜しい、ぜひ中學校に入れた方が本人將來のためだと、口をきはめてすすめた。親は心中うれしくてたまらない、その先生の言ふがまゝに中學校に入ら



すべく決心したが、學資は如何しようと後顧の觀念にせめられた。外にまだ四人の弟がある、兄が中學校に行けば弟達も亦何とかせねばなるまい。然し果して之は將來出來うる事なりや否やと、一應は思うたが、可愛い子に、お父さんどうかやつて下さいと頼まれて見れば親の情に切々の苦衷やみが見え、つひ附近の中學校にやることになった。元より性來懶口者であるから、勿論中學校でも始終上席で通した。彼が中學校を卒業すると、元の先生の處に相談にいつた。先生は中學校を出ただけでは中途半途な教育で社會に出ても使ひ途が少ない、まして彼は秀才だ何か専門の教育を受けなくてはならぬと、百万奔走して縣の育英資金を毎月二十圓宛四ヶ年借りることにきめ、ある専門の學校に入學せしめた。月々二十圓といふ資金による丈の學資としては東京の學生生活は餘程困難であつた。月謝もいる書籍もいる、交際費何々といふ風である。さればいつて今更親元へ御願ひする勇氣もない、遂に彼は少しでも學資の不足を補ふ意味で儲け口をさがし始めた。一方ではこんな魚はないか、ちやんと待ちかまへてゐる恐ろしい網が張られてある。それは赤い國ロシヤからくる赤い思想の書籍を「ほんやく」することによる小遣錢とりであつた。○社といふ本部から宣傳費をうけて普通の文學から詩歌劇の脚本といつた種類の書籍を譯しては宣傳すると言つた仕事である。最初は單なる翻譯であつたかも知れぬが、段々自分の思想まで變化してゆくことに氣がつかなくなつた。彼の學校でも何となく心情の變化に氣づいて注意をしてゐた處、はからずもその學校の改革問題が生徒間にもち上つた。生徒達の主張はさして過激なものではなかつたらしいが、數ヶ條の決議文をもつて學生總代は學校當局に要求すると言つた調子であつた。此の學生の總代として活躍したのが彼であつた。その昔小學校時代秀才ではあつた彼は、性格的に別に危險とは思はれなかつたが、變れば變るものである。遂に校規にそむくものとして退校處分にされた。こんな事とは夢にも知らぬ國元の先生は、學校からの通知をうけまつてまづ驚いた。早速旅費を調べて上京した。彼の父も同道した。たづねくわが子の下宿屋へ行つてみるに、彼は已に數日前ある疑ひで警察署に檢束されてゐる。

いふ女將の言葉をきいて二度びつくり、恐る／＼警察署へいつて引取り方を歎願した。彼は退校處分をうけるや眞正の赤い社員になつて、父のくる數日前、街頭に宣傳のビラを撒布してゐる所を署に引致されたのだといふ。取り調べが容易に済まないのその後五、六日間毎日の様に警察署にかよつたこの事である。

署内で自分の教へ子にあつたときその先生は泣いたといふ。そして故郷へ歸らう、そして父と共に働くことをすめ、榮華ならすも、お前の生活は保證さるゝのだ、あゝ何たる間違つた勉強してくれたのか、併し今迄はせんすべもない、早く正直に白狀して改心せよ、これは父の願ひだと親の涙で彼に説きかされたといふ。彼は今更に後悔の色が見えた。係の警官にこん／＼と説諭されて白日の下に出された彼は、父に伴はれて下宿屋に歸り荷造り萬般を済ました。久し振りで風呂に入り暖かいおやさんにしみじみと親のありがたさを感じた。然し已に蝕んだ彼の心はこんな事では到底眞正無垢な昔にたち歸へる事は出来なかつた。故里にかへつて今更をめぐると歎とる氣にはさうしてもなれなかつた。いよ／＼出發の時間がきて、彼は下宿屋から六、七丁もある自動車屋へタクシーをたのみに行つた。だが十分、二十分、三十分まつても歸つてこない。不審に思つて先生は自動車屋をたづねてみた時彼は已に何處へいつたか影も形もみえなかつた。落膽と腹立たしさにこみ上つた先生はしばし聲すら出し得なかつたといふ、先生は自分の心から嘆聲を出して言つた、己の教育方針は悪かつた、教へ子の秀才なりといふ事に目がくらんで月給取りなごとの考へが第一間違つてゐたのだといつたさうである。世は廣い人は多くなつた。こんな實例は世の中にざらにあると思ふ。思ふに信念のない教育程恐ろしいものはない。只秀才なりといふので、知識のつきこみ教育程恐ろしいものはない、農村の現状をみつめ、本人の將來を考へ、家庭の實狀この三位一體的の考察の下に深甚に行はるゝにあらずんば輕々にやるべき筋合のものではない。青年をして思想的狂人にするのは獨り社會そのもの、罪ばかりではない。教育擔當實務者の最も意を用ふべき處だと思ふ。



## 第五節 其の場かぎりの教育の真相

此の事も一つの實例によつてのべて見よう。農村のある尋常六年生の大切な一人息子、ふとしたところから發熱した。彼の両親は大いに心配してやれ醫者よ薬よこはしりまはつて近所の醫者に診察してもらつた。醫者はみだ後肋膜炎を申し、おそろいた両親は家中總動員をして一心に看護するに共に、あらゆる手當を施した。處でそれ共にかうした病氣にかゝる原因について考へてみた、事實彼は六ヶ年中一日も學校を休んだことはないし、體格もさうらかと申さば十人並勝であつた。平素父母の不注意で不衛生をすとか乃至は過激な運動をすとか言つた事もない。全く不思議でならない。十五日あまりすぎた或る日往診した醫者は子供に尋ねた。あなたは學校かどこかで胸をひざくうつた様な事はありませんか。子供は、はい一度胸をうつた事があります。それはたしか一學期の終り頃學校で體操の時間機械體操の最中でした、一寸したはずみにあやまつて落ちたのでした、何處をさうしたか分かりませんでしたが、氣が付いたときは學校の宿直室で先生方に介抱してもらつてました。私が目をあけたとき、皆の先生は氣がついたか、安心したといはれました。その時胸の邊がざくざくいたんでましたので、初めて胸のあたりを打つたのだなと氣付きました。午後の授業がすんだ頃には大分よくなつて歩けば少し位いたむ程度でした。先生は一人であるいて歸れるかを申しましたので、はいあるけますといつてかへりました。別にはけしくいたまないので、お父さんにもいはずにそのまゝ、すぎましたと答へた。醫者は、はたと膝を打つて原因は判りました、その時の打撲が原因ですと断定した。この一事は現在の教育者がその場のがれの教育しかやつてゐないといふ確かな證左である。左様いはれてもおそらくは答辯はあるまいと思ふ。今日よりも明日の教育、兒童生涯の教育として考へたならば、決してかゝることは放任されべきものではなからう。子供はこにかくあるいて歸つてくれ、ば萬事はすんだと思惟する。刹那教育が彼の子供に重に肋膜炎を發せさせたのだ、こいへる。眞の愛、わが子としての教育であるならば、たゞこ

烈しいいたみは訴へずとも、將來そんな障碍をかもす出すかも知れない内部的の傷害について、一應醫者の診断をうけるに、それでなくとも父兄へ逐一事情を通知して善後の手當を促す丈の注意をすべきが學校教育者としての責任である。子供の將來を慮らない一時のがれの教育も實におそろしい。現時論議されてゐる入學準備教育者にしても眞にその子供の生涯をいふことを考へないで、學校に入りさへすれば學校の面目は立つなご、偏知な一方的な、兒童の養護も訓練もそつちのけの教育を施してゐるこなき正にそれである。學校時代では、模範として表彰された兒童が卒業後墮落して不良青年の隊長となつたり、法にふれる様なことをでかして、あれで、學校時代は優良模範の生徒であつたのか、なきと言はれる様な例も可成り多い。要するに農村にあつて農村將來の計畫と、それに參畫する人物の養成たる大眼目に考慮せず、兒童に對し兒童の生涯を想定せずに、一時のがれの教育が如何に多くの兒童をあやまらせてゐるこであるか計り知れないと思ふ。教育の眞使命を充分心に體して之が運営を遺憾なくせしめねばならないと思ふものである。

## 第六節 一知半解の村議の態度

輓近普通選舉法が實施される様になつてから、地方農村に於ても所謂從來の教養あり家産のある旦那衆の村會議員組織が崩潰し初めて、無産大衆とも言ふべき部分を代表する村議さんが顔をならべて、村會席上で名論卓説をきかされる様になつた。かれらの議員連中は所謂無財階級の代表と氣取つて負擔軽減が社會施設がいかいふ方面に旦那衆を論難攻撃するに一生懸命である、就中村費の削減といふ點に於ては大なる程戦功の勇士そのものである。村費の削減といつても、村費の五、六割を占める教育費に向つて攻撃する。そうして部落の寄合なきで、何々を削減した、戸數割の負擔をきれ丈減じさせたなき、如何にも手柄顔で報告する。それを勿體がつて讚辭を呈するこいふ風である。實に困つた傾向である。教育費の削減が差引眞實に彼等無産階級にきれ丈原因してくるかを知らしめたい。多くのか



これらの子弟がうくる教育機関は村費をもつて經營する小學校、實業補習學校、青年訓練所などの教育機関ではないか。資力ある有産階級のもの、更に中等高等の教育機関に待つことをうるのであるが、かれらにはそれがない。農村經營の教育機関はかれら無産階級の子弟の唯一の貴重な教育機関であると同時に、それらの負擔に於ても事實かれらは一日かせけば優に果しうる程度の負擔である。教育費削減で重荷を卸すものはむしろ有産の階級である。就中農村大衆教育の大本尊たる實業補習學校教育や青年訓練所などの教育に關して、生徒數の割に教育費が多いか、乃至は成績はあがらぬとかで種々口實を擧げて經費の削減を叫んだり、専任教員の設置廢止を稱ふるなど全く沙汰の限りと申してよい。今日村に於ける教育費の審議にあつて禍されてゐるのは、かゝる村議の跋扈によることは可成多い。現在の學校教育程あらゆる階級を超越した無差別平等の樂園はないと思ふ。即ち富めるもの、貧しきもの、貴きもの、賤しきもの、樂しきつゞひ、校門内は他に見ることの出来ない淨土である。此の實相を知るを得ないために色々な不都合が出来るのである。負擔する出資に應じて利益の配分をさるゝ、營利を目的とする會社と異つて、平等に均霑さるゝ、學校教育の惠澤に關して、むしろかれらに親しく教へたいと考へるものである。

#### 第七節 教員寄附問題

從來農村民にとつては、小學校はありがたい所であり、なつかしい所でもあつた。學校を卒業してからも、同窓會とか學藝會とか父兄會とか講習會、講演會、祝賀會などから運動會等の諸行事には校門をくゞつて、更に深い尊敬と愛慕の情を起してきたものであつた。しかるに一度大不景氣がくるや、農村民の感情はさうも過去のそれの如くではなくなつた。それは主として教育費についてのなやみであり、それから起る不平であり反感もなつたのである。然もいよゝゝ不況になり、その生活に非常な不安を感じるやうになると、村費を一番多く使ふ教育に對しては、一番に反感をもつやうになつたやうである。然も今までの教育は主知主義に流れて、役にたつ人を作らなかつたといふ點

にも大きな問題をなげだした形となつた次第である。その上、自分達が苦しい生活をしてゐるのに、學校の先生達は高い月給をとり、その上税金も少なく、おまけに遊んでばかりゐるといふ様な不平も起つてきた。現在農家の實情をしらべてみると、およそ農家位税金の重いものはないと思はれる。早い話が年收六百圓の農家の税金は年額二百圓、年收千圓の農家になると少くとも三百圓の税金はとられる。これに反し、年收七百圓の小學校教師はたゞの十五圓で済み、年收千四百圓の校長でもわづか五十圓ですむ。又一年の純益五百圓の小賣商にした所で、税金は四十圓は納めない。勿論不動産の關係もあるかも知れぬが、現在の農村位税金の重いものは斷じてない。月給生活者が四割も五割も税金をさられたらきつと恐り出すにちがひない。それほゞ經濟上割の悪い農業者には同情せねばならぬ。而もその五割六割が教育費となり、學校の先生はその中から俸給をもらつてゐるといふので、今では先生にまで不平をもつやうになつたやうである。その結果おこつたのが、所謂教員俸給問題や、俸給寄附問題乃至は減俸問題等がほつゝおこつてきたのは、昭和四年以來のことであつた。

ある縣下ではこれ等に關して實にいまゝしい事件の起つた事は吾人の記憶に新なる所である。さにかく現在の不況に對して全く世間が教員に對し昔日の如き感情からかはつて、目の上の仇の様に考へてきた。しかもこの問題には地方農村に於けるむしろ無産階級の人がまづ第一線にたつた様な所が多い。しかしこれは果して當を得たことであらうか、さういふならば、しかりと答ふべくあまりに皮相であり、國家國民教育を毒する之より甚しきものはなからう。教育費及び給料を減輕さすことは直ちに農村を更生させるが如く見えるも決して無理からぬことである。これにかへて、農村では生産物の非常なる下落を來してゐるに拘はらず、教員及公吏の俸給は好景時代にあげたそのまゝであるから、年俸千二百圓の校長は米百五十俵に比較され、月俸八十圓の訓導の年收額は米百貳拾俵に相當するの羨望の的となつてゐるのである。それやこれやの問題で今日この問題がおきてきたもので、突發的ではないことを思



はなければならぬ。今日農村更生の根本ともなるべき農村教育を破壊し、その成績向上を阻止するが如きは誠に遺憾千萬なことである。しかしこゝに考へてみねばならぬことは従来の教育者も過去に於てはあまりに村の経済といふことに無關心であつたし、我が國以前の教育も已にさうあつたのであつた。だが考へてみると教育とは決してかゝるものではない。即ち教育は社會をはなれて存するなく、政治をはなれて存するなく、且つ經濟をはなれて勿論存しないのである。この點を教育者たるものは大いに自覺せねばならぬ。而して村民も區々たる問題をさらりとやめて、教師と共に提携し、殊に農村教育の發展向上を中心とする根本的な村の振興を計るべきであらうと信ずるものである。以上述べし處のものは農村現在に起りつゝあるもの、中から拔萃したのだが、これらの事柄は何もしても不問に附せられない問題で、これらの問題の解決は、やがて農村問題解決の端緒を得る便となるものと思はれる。更に私は農村の研究に論を進めて行かう。

### 第三章 農村の特質及個性の考察

何としても農村には農村としての一般的な特質も、亦農村個々に作りなされた個性と云ふものがある。この特質や個性は各個人に外から關係しその素質と具體的な現實に變化せしめる力を有してゐることが事實である。此の事實を名づけて環境と稱する。然もこの環境には教育上、人間形成上、非常な助けとなつて働くものも、有害な支障物もがある。それで農村教育に於てはまづこの一般的な特質も個々の農村に存在する個性とを明かにして、その現實の上に立脚した方針をたて、而して助となるものは大いに取入れ教育上に役立たせると同時に有害な支障物は之を艾除して教育能率を高める方法上の特相をのみみだすべきである。しかして特質や個性には自然と人間社會と其の社會文化とがあるが、今茲に申しのべるのが、此の中の人間社會並にその社會の文化を社會的環境として研究の中心を置き、以て農村

の特質を主として都市と比較的に考へて之を明かにして見たいと思ふのである。

#### 第一節 農村の全體的特質の考察

一般的に申しますと、都市は人口も稠密で、一方轉住も多く、外からの新來者も多いから、接觸する人々が、たえず變化し、従つて未知へ接觸することが頻發すること、他方では職業が多く、交換、貸借を主とする所から自然に人々が利害の打算の上になつた所謂利益社會的の生活をする。

然るに、之に反し農村では人々は大抵定住し、人口も稀薄であるから接觸する人が一定し、自然の間に友誼が生れる。亦一面ではその職業が大抵は生産的のものであつて、交換的のものでないから、自然に人々は利害の打算によつて生活するといふことはなく、むしろ感情的に情味的に協同社會的な生活をしてゐる。又職業の分布の上からみて、都市の職業は商業工業を主とし、それに文化が進む程、専門的に分派して單純な機械的技術を以て職業をなす様になり、交通機關も整備してゐるからその生活は一面に於て高く概して分化的である。

農村に於ては職業は農業といふ職業で一人で生産もすれば、販賣もする多種多能の經營をやつて行く關係上、又人口が稀薄で交通機關も整備してゐないから、その生活程度は概して地味で質素で且つ綜合的である。之を要するに都市の生活はあはたしく情味薄く、農村の生活はゆつたりとして情味あふれてゐる。

#### 第二節 部分的特質の考察

##### (1) 道徳的生活の特質

道徳的生活の特質について見れば、都市に於ては、接觸する人々に知人が少ないので、道徳上の統制力が弱い。社會機構が複雑であるから、誘惑にかゝる機會が多く人々は概して輕薄に流れやすく、不親切に傾きやすい。接觸する人々は多く知人でないの且つ接觸する度合が頻發するために作法が比較的に發達するが、形式的に流れ易くその精



神がかげやすい。又職業の影響から個人主義に傾き家族主義的な道徳が衰微し物質主義に傾いて思想の堅實をかくことが多いため未だ一攫千金を夢みる輩多く功利的な投機的で亦模倣的傾向が著しいのであるが、農村に於ては、人々が多く知人であるから、道徳的の社會意識が非常に強い、従つて統制力が強い、社會機構が比較的單純であるから誘惑に陥る機會も少なく、概して淳朴であり親切であるものが多い。但し精神はこもつてゐるが無作法に流れやすい。職業の特性から原始的な宿命的な道徳觀に立つて、傳統に囚はれ進歩の氣象は少ないが敬神崇祖の念が強く、家族生活本位の道徳である。義理とか人情とかいふ點はたしかに都會の人々よりも優れてゐる。近來これらの美風は漸次衰頹の傾向にある事は誠になげかしい事であると思ふ。

#### (2) 法治生活の特質

都市に於ては情實習慣に乏しはれることが少なく、獨立の判斷力も發達して居る、これは都市生活の複雑性に基くのと、都市人は政治上の知識を興へらるゝ機會が多く従つて政治思想が發達した結果である。而して實際政治に於ても農村に對しては支配的地位にたつ場合は多く地方的輿論も種々な言論、通信機關を通してその根源を作るものである、之に對して農村に於ては、多く實情に乏しはれ、習慣になづみ、法治的判斷力に乏しいと同時に政治的自覺が足りない。黨派根性が地盤的に濃厚で、冷靜に大局から政治の公正を期するといふ態度が足りない。しかしそれと附和雷同に流れず、群衆心理に支配されたい美點がある、習慣的自治の域を未だ脱せないものが多く、政黨的色彩が侵入して自治機關の運動を妨げるこゝが近來は頻發し出した觀がある様に見える。誠にこまつた事である。

#### (3) 經濟生活の特質

都市の經濟的生活は概して發達して居り且つ複雑であり計畫的の力もある。併し冒險的な投機的な事業が多く組織状態は安全をかいて盛衰興廢が顯著である。交換消費の經濟が主であるが、資本主義貨幣制度の現時に於ては地方に

於て支配的中心地位にたつてゐるが、農村に於ては經濟生活は概して幼稚であり、單純であり、計畫的の力に乏しく都市の經濟事情に支配される状態におかれてゐる、しかし概して住宅や土地を所有し、資本家の立場であり、亦勞働者の立場でもあると云つた有様で自給自足の經濟を本體としてゐるがために經濟的支配力は少いのである。金融機關に乏しく僅か頼母子講又は無盡講といつた様な經濟的事象を見る丈である。職業の性質上自然力の支配におびやかされるこゝが多いため、自然に經濟持久力が陶冶されて居る。要するに農村は精神的協同力はずいといが、經濟的協同が乏しく排他的個人的經濟思想のあることは否むこゝはできない。

#### (4) 藝術的生活の特質

都市に於ては文化的藝術的生活が概してその程度が高く、住居は群居稠密であり、非獨立的であり、轉住的である。娛樂機關、交通機關その他諸種の文化的施設機關が備はり藝術的教養の機會も多い。且つ各種人工美の表現發達し、趣味の涵養に益する所が多い。しかし人為的環境であつて、感覺的趣味娛樂に耽りやすく、こもすれば享樂に墮落するおそれがあり、刺戟強く不健全なものが多い。之に對し農村に於ては住居は散在し獨立的であつて定住的である。藝術娛樂の機關は不備であり、したがつて趣味は單調であり、野卑なものである。藝術は多く農村を中心とした農民文藝であり、土の藝術である。農民は職業柄その勞働と享樂とが接近してゐる。然し田園趣味、自然美鑑賞に恵まれて大自然の偉大に接するこゝが多く、自然直觀に不足せず、尙且つ危險性の娛樂が少ない。將來農村の美化といふ點に關し、この藝術的娛樂や自然的、人為的の施設を攻究する必要がある。

#### (5) 保健的生活の特質

都市社會に於ては自然日光や新鮮なる空氣に接する機會が乏しく、塵埃多く樹木が少ない、併し衛生上の設備が行届き食物も概して多様であつて營養が優れて居る。又醫療的施設や保健が整備して健康の保護と増進に利用の便が多



い。職業上からは健康に不適で住宅店舗は栞比し、加ふるに工場多く空氣混濁且つ騒然として健康を損ふことが多い。殊に貧民窟の健康状態に憂慮すべきものは相當に多い、農村社會に於ては自然に接する機會が多く塵埃少く空氣清く樹木多く、日光に浴しやす。その環境に勞働によつて健康の状態は良好である、しかし衛生的、醫療的な施設が乏しいので、保健上困難な事情もある。就中食物が偏しやすく、營養にかくるものが多く、勞働の關係から不均齊な發育が多く、衛生思想の乏しい處から、トラホーム、「むしば」にいつた病氣は農村にはかなり多い様である。之が對策には一層注目し且つ出来る丈施設をしてより更に健全な農民を作るべくせねばならぬと思ふ。

#### (6) 理智的生活の特質

都市人は思惟が發達し何れかといへば推究的であり、直接生活に關係なきが如き點にも關心をもつものも少くない。併し知識は豊かであるが、やゝもすれば智的過程が粗に流れて居るものもある。環境も興味も性格なごも多種多様であるから個人的差異の發達が概して著しい。環境があまりに人為的で刺戟が多いために精神缺陷が生じ易い。表面主義で、主智主義的傾向も有してゐる。農村人はその思惟概して幼稚であり、直覺的であり、生活近接的である。何等か實用的な意味をもたない事項に對しては關心をもたないものが多い。知識も乏しく發表も拙劣である。環境も興味も性格なごも多く類似して居るから素質の差を除いては、個人的差異の發達が概して充分ではない。併し環境が自然的であるがために精神缺陷者が少ない。亦科學的知識に乏しいために迷信に陥るものが多いやうである。

#### (7) 宗教的生活の特質

都市人の宗教的傾向は多くは批判的で迷信も少ないが、併し信仰弱く生活を動かす力に乏しい。外面の人へのみ重きを置いて内面的に神を輕視し、人の刑罰を恐れても神の戒しめを仰ぐ心に乏しい。雑多な宗教が混同して地方的儀式を輕んずる傾向がある。亦物質によつて信仰を求めんとする傾向があるやうである。農村人の信仰は素朴的ではあ

るが堅く、迷信も多いが生活上有力である。職業上から諦めの宗教信賴の宗教は多く偶像崇拜の宗教が多い。併し何と申しても敬神崇祖の念が強く、敬虔なる國民性に培ひ來つた宗教的威力は都會の比ではない。

#### (8) 教育的見地から見た特質

都市には學校教育、社會教育の機關が發達して教育の便が頗る多いのと、子女教育に就ては切實に關心をもつために教育施設は益々擴充せられると、一面見聞廣く、人材を得易く生徒の就學に便なるために各種高級の教育機關が充實して學問技術は進歩してゐる。併し學問技術の教育には長じて居ても人格修養には不適當な場合が多く常識は廣いが體験的でない。各種の誘惑が多く、危険思想を見らる、不備不完全な思想の發生地となり、宣傳地となり易い。職業が複雑なために職業教育は多種に分化される傾向である。農村に於ては教育的機關が乏しく特に社會的機關に於て然りである。現在の農村教育は都市教育の模倣で農村獨特の教育相が見えぬ。家庭教育に無關心で見識乏しく特に婦人の教養の度が低い。然し自然を直觀する便利があり大自然の裡に偉大な人物を養成するに適し、學問技術の教育には不便でも人格修養には適してゐる。

#### (9) 其の他の特質

農村は實實剛健の氣風にこみ思想概して健實であること、經濟的活動に家庭的、社交的生活が不可分の關係にあること、自己の職業を卑下するものが多く、向上心と自我意識に乏しく放漫な盲從的生活をしてゐること、封建的氣分が濃厚で家柄を重んじ家族的生活の情趣が豊かであり農村の家は我が民族精神の根源をなすもので、亦物質の生活地で産業盛衰の震源地であること等であらう。

惟ふに農村にも近時都會市の文化の影響は著しくその特質を消滅せしめんとし、青年の思想に動搖を與へつゝある。農村に於て最もなやんでゐる點は何としても經濟問題であらう。農村の中心者たるべき優良分子が都市にあこがれ、



農村郷土をすて、去りつ、ある現状は眞に憂慮にたへない。これには時勢の影響もあらう、がしかし従來の農村教育が負ふべき罪も亦決して尠なしとしない。大いに三省し、更生し、改善して眞に農村興隆のための農村教育を今よりもつと深刻に實施し以て所期の目的達成に精進すべき必要のあることを痛感するものである。

## 第四章 農村調査と其の主眼目

### 第一節 農村調査の方法に關し

すべて事業そのもの、實績向上は最初に於ける調査そのもの、粗密に重大なる關係のあることは申すまでもない。農村教育が農村そのものに直接した獨自性を強調する上に、その立脚點の一つはそれをその農村の自然人文に涉る實態の上に求めねばならぬ。農民自身も農村指導者と共に意識的に現實の農村を見窮め、その上に批判を下す時こそ初めて農村の理解と農民たる自覺が湧出するものであり、且つ指導の原理も發見せらるゝのである。茲に於てまづ農村教育の基礎として農村調査をなすべきである。この農村調査の基礎の上にたつて農村の認識が初まり農村愛も生れ農村の發展向上を企圖する意味も生ずるのである。

然るに従來多く行はれた農村調査なるものを見るに、眞に上述の目的にかなつたものが少ない様だ。その多くは單に調査のための調査に終つて何等の活用も出來ず戸棚の隅に無用の邪魔物としてしまはれてゐるものが多い。その内容についてみても共通の缺陷とも云ふべきものは平面的一時的調査で歴史的、發展的でないことは斷片的、部分的であつて相關的、綜合的な觀察が出來てゐないこと、數量的、外面的であつて内面的、因果的の考察が拂はれてゐないこと、行政的、統計的であつて特相把握に困難な點なきあけられること思ふ。従つて農村發展の過程特殊の生活狀態現在の傾向荒廢の眞因等農村の眞相を見きはめ將來農村教育の進むべき道を見出す基礎たらしめんとするものでなければならぬ。それがためには少くも左記の事項に關し充分なる調査と研究をして置く必要がある。

- (一) なるべく他方面の調査研究によつて農村の一般的個性と特殊の個性との究明に努むること
  - (二) 歴史的、發展的に調査し現在に及んだ過程を明かにして將來の進路を洞察すること
  - (三) 調査項目相互の相關關係を究め綜合的に斷案を得るに努むること
  - (四) 數量的、統計的なものに終らずして内面的、因果的の考察を怠らざること
  - (五) 調査は教育的な立場に立ち理解を與へ指導の基礎を得るに主眼を置くこと
  - (六) 訂正と補遺とを機敏になす様努むること
- 等は重要なる方針として計畫しこれが方法に於ても

- (1) 農民一般の共力的調査を主義とし、調査の目的と活用方法を説示し有目的なる調査方法であること
  - (2) 極限された小範圍のみに止まらず隣接部他地方の調査と比較研究して特相を抽出することに努むること
  - (3) 年次的調査計畫を樹立して連續實施してその正確と完成を期すること
  - (4) 特相の究明により農村發達擴大の原理を究め根底のある農村計畫にまで發展するを期すること
- 等は調査上特に心すべき事と思ふのである。

次に之が調査研究の範圍であるが、現在農村の行政の區域たる町村は之より一單元として調査すべきであるが、更に類似の成因を有し地勢、産業、風習等に於て、分割し又は他町村と結合して調査研究するのが、かへつて眞相理解の上に都合のよい點もあるから、或は小分して或は隣接町村が共同して調査するなご農村の事情によつて適宜になすべきである。就中町村にある所謂部落は徳川時代まで長い間一つの村として又農民の共同生活として有機的、傳統的な活動をして來たものであるから、それが行政上一村の中に合併されてゐる今日でも尙獨自の個性をもつてゐる。従



つて行政上の町村の研究はそれらの部落々々を個別に調査研究して更にそれらを比較統一するといふ方法は頗る有用な調査方法であるを考へる。この部落調査に關しては、小田内通敏氏は部落の臨地觀察の上に調査研究することを唱へてをられるが、實際世の調査が多く机上の調査に終つて只筆やそろばんの上での統計になつてゐる點から見て實際にその部落に出かけて個々の家につき觀察するといふ事は誠に意義深い本當の調査が出来ること、思ふ。茲に小田内通敏氏の部落臨地調査の概要を引用して參考とする。

氏はまづ臨地觀察の準備として

- (1) 其の部落について文献を涉獵し繪をよく見ること
- (2) 部落の地圖を手に入れること
- (3) 研究計畫をたてることを必要とし

次に臨地觀察の方法として

- (1) 行程に於ては標式的な場所々々に於ては細密な調査をすること  
地理上の諸標式を確め盡くなきをいはれて居り
- (2) 觀察の要點は其の部落の對照と比較と四圍の地域や他の地域に實地に比べること、觀察に誤りがあるや否やを確かめる時間を割いて、置くこと、多くの場合複雑な諸種の條件が存してゐるからその概括をなす場合には慎重な注意を以てすべきであることなし、居住民の見解を摘み出すことについては
- (1) 其所の居住民の仲間になること、もし出来るなら一緒に起臥してみること又彼等の働くときは手傳つてみること
- (2) 地方事務に司つてゐる有力者に交渉を有して置くことをのべてゐる。

ノートを取ることにについては

- (1) 觀察の順序に従つてよく順次よく記入すること
  - (2) 屢々みたときの印象を記入すること
  - (3) 他の場所へ轉ずるとき特色の要領を記入すること
  - (4) 觀察したものゝ推測したものと他人から聽取したものを明かに區別して置くこと
- 等の注意があり、次に地圖の使用については

- (1) 出来る丈一枚の臨地研究用の地圖へあらゆる觀察事項を記入すること
- (2) 部落生活の全體的並に部分的の蒐集をなし寫眞器を利用すること
- (3) スケッチをすること

等親切に注意されてゐる。

次に臨地觀察項目としては、

#### 一、部落の立地

- (イ) 五萬分の一地形圖につき、まづ地形上、水系上、居住上、交通上の位置を觀察すること
- (ロ) 如何なる地域に立つてゐるかを明かにするために附近の高處から部落を見通し、その林野、耕地、居住、道路等の特色を觀察すること
- (ハ) 村役場、その他につき部落の切繪圖には古圖によりて、その地上の特色を明かにすること
- (ニ) 地形、土質動物なきの特色を觀察すること
- (ホ) 總面積、土地利用別面積を測定すること



## 二、部落の定住過程

- (イ) 居住當時の事由、主として部落の環狀に影響ある要因を明かにすること
- (ロ) 現在の居住位置が、居住當時の位置と變化なきか、あらばその理由を明かにすること  
殊にその經濟上(耕地、飲料水、雑用水、灌漑水、山崩、洪水、交通、開墾等)  
社會上(血族、共同、逃避等)の理由

## 三、部落の居住形態

- (イ) 部落の構成、部落の生活(信仰、經濟、社會)等の諸機能を明かにするために、構成要素(氏神、山神、道祖神、古墳、貝塚、居城趾、寺、本支關係、職業關係、地主、自作、自作兼小作、小作、鍛冶屋、大工、自轉車修繕、雜貨商、魚屋、豆腐屋、菓子屋、水車屋、官吏、教員、日雇等、公共建物、共同井戸、娛樂場、廣場、共有地、泉、名木、勝景、史蹟)の所在を明かにすること
- (ロ) 農村として經濟生活の變遷が、部落の居住形態を形造つてゐる各構成要素の上に如何にあらはれてきてゐるか、殊にそれが居住の疎密、職業の種類に變化を來してゐるか
- (ハ) 部落の居住中心地域又は居住地域が、部落内又は部落外の事情によつて移動する傾向はないか
- (ニ) 各民家内はどんな方向になつてゐるのが多いか、夫々の平均距離はどうか。部落の居住高度の最高限度はどうか、それが變化しないか
- (ホ) 舊い民家と新しい民家の間に、屋敷構や家構に著しい變化はないか
- (ヘ) 民家の一般様式はどうか、その建築材料はどこから來るか、家根は、明治以後の變遷は、  
(註) 一分一間の部落圖を複製し、それに以上の部落定住過程並に居住形態をのべ諸項を臨地觀察しそれを部落生活の表現として記入する。

## 四、部落の住民

- (イ) 明治以後、人口の増減傾向、また移動傾向はどうか、部落の古い記録、村役場の統計等から歸納すること  
○明治五年の人口統計と國勢調査の人口統計とは特に比較を要する
- (ロ) 部落の職業別戸數は、農工商林特別に如何なる増減傾向を示しつゝあるか
- (ハ) 出生並に死亡について、特に注目すべき理由と傾向があるか、自然増加の傾向はどうか保險上。
- (ニ) 移出の傾向は何年前頃から多くなつたか、その數は、何處に、何故に(經濟的、社會的、政治的)その出發並に歸來の時季、移出のためにどんな影響を受けてゐるか、移入の傾向、數、原因、影響も併せて明かにすること

(ホ) 人口の移動が部落に及ぼす影響を、特に出先の農村他部落と都市とに分けて見ること

(ヘ) 部落の人口構成と職業構成とを出来るなら表にすること

(ト) 部落民の保健、衛生、教化等について、特に注意すべき事情はないか

## 五、部落の經濟活動

部落は多く農業に依存してゐるが、それらの立脚關係によつて、普通農業であり、また牧畜や林業や漁業をかね營んでをり、其外副業が盛んであつたり、部落工業があつたり特に都市に接近してゐたりしてゐるなどの事情によつて、夫々の經濟活動の内容を異にするから、従つて觀察の要點も違ふことになる。

部落に於ける農業上の階級別を明かにするために、耕地所有の廣狭によつて區別した地主數、また經營の集約度を明かにするために、經營面積の大小によつて區別した耕作者數及び自小作別を明かにする必要がある、―自作農、土地細分の傾向



(イ) 部落に於ける既墾地並に未墾地の割合、林野の大きさ及び使用度、農生産面積の擴張又は制限、農業作業の變遷、新作物又は耕作の新形式の採否の傾向を明かにする。

(ロ) 農業經營(代表農家参照)が如何なる季節的配合か、それが如何に勞力に過不足か、副業の有無と關係あるかを明かにする。

(農業活動季節配合表作製し置くこと)

(ハ) 農産物の生産量、その販路、それらの動きと部落の經濟生活との關係如何

(ニ) 勞力としての家畜、機械器具(特に動力機)の利用度と部落内の生産人員、非生産人員、部落外からの生産人員の勞働率は農業作業の變遷、農業經營の變遷、また運輸交通の發達に如何に關係あるかを明かにする。

(ホ) 堆肥と金肥との消費の趨勢を明かにする。

(ヘ) 農業經營費として現物支出と現金支出との比率の差が、明治以後何年頃より大きくなつてきたか

(ト) 農家の負債が明治以後何年前より多くなつてきたか

林業、牧畜業、漁業、村落工業、鑛業、製造工業、温泉、その他の遊覽施設等の諸關係は特にそれらの諸項目によつて觀察する事を要する。

(チ) 部落の經濟活動を表現する表圖(三圖)

一、土地利用圖(縮尺三千分ノ一)

森林(針葉樹、闊葉樹)原野、濕地、田(一毛作、二毛作、冷水がかり)畑(桑畑、平畑)

(1) 森林中特に多き樹種、特定の場所に適する樹種、明治初年頃の森林地域——その増減傾向、收穫、使途販路、林、薪炭採取の地域——明治以後の變遷

(2) 主要なる果樹の種類及びその栽培地域明治以後の變遷、收穫、使途、販路

(3) 田畑に於ける土壤の種類とその地域、作物及び種類との關係、收穫、使途、販路、土壤と農具との關係——明治以後の變遷、最も廣く行はれてゐる輪作、明治以後の變遷、燒畑、休閒畑の行はれてゐる地域、特に地味の保存、土壤の改良を要する地域

(4) 特用作物の栽培地域、明治以後の變遷、牧草栽培地域——方法、家畜飼育方法、明治以後の變遷、使途、販路

(5) 共有の地域——特質、明治以後の變遷、土地利用圖の作製は少くとも、以上五項目を臨地觀察し、それを部落生活の表現として記入するを要する故に、基圖としての土地利用圖の上に更に二、三の副圖を要し、また二、三部の部分圖(一分一間を要する)

二、土地所有關係並に耕作關係別圖(縮尺三千分ノ一)

(イ) 自部落所有土地と自町村内他部落並に他町村所有土地とを明かにすること

(ロ) 自部落の地主並に自作の所有土地を明かにすること

(ハ) 自部落の地主自作並に小作別の耕作地を明かにすること

耕作關係中、自作並に小作は、自給自給の必要上、自部落に耕地少なき時は、他部落(自町村内又は他町村内)を所有し、または耕作するから、その面積を附記する必要がある。

三、土地賃賃價格別圖(縮尺三千分ノ一)

森林、原野、田、畑、宅地なごにつき、細別するの要あるが、價格の等級別につきては研究の餘地がある。

#### 六、部落の代表農家





(イ) 代表農家は、部落の居住形態、部落の住民、部落の經濟活動の水準(一般性)を明かにする具體例として觀察するから、部落の農業上の階級性(地主、自作、自作兼小作、小作)によりてその選擇の標準は異らざるを得ない

(ロ) 觀察要項

- (1) 宅地の景觀(屋敷構)
- (2) 建築物(家構)の種類と配置、農業上、保健上
- (3) 經濟活動
- (4) 農具―變遷
- (5) 作圖

#### 七、部落の交通

交通機關が、部落の居住形態に、また部落の經濟的活動に如何に關係あるかを明かにする見地から觀察する。従つて、明治以後の變遷をも併せて考へる必要がある。

- 1、牛馬 2、荷車 3、自轉車 4、リヤカー 5、トラック
- 森林、耕地(山地、平野)市場等への時間的距離の變遷を明かにする。

#### 八、部落の社會的結合

現在部落に行はれてゐる社會的慣行は、部落の自然的、經濟的、並に社會的環境に之に依存する部落生活の必要から生ずるものではあるが、今日の部落生活上、それが如何なる意義を有し、また將來如何に意義づけられてゆくべきか、觀察の要點である。従つて明治以前のものに明治以後のものに分つ必要がある。

(イ) 部落内部の結合關係

- 1、結 2、共同作業 3、共同經營 4、講 5、寄合 6、組合 7、共有地 8、共有物 9、共有機關 10、年中行事 11、お正月 12、祭祀 13、お盆 14、農事休業 15、縁組關係 16、姓關係 17、性關係 18、地主小作關係 19、冠婚葬祭關係

(ロ) 他部落との關係

- 1、本支(親村、子村)關係 2、祭祀(氏神、山神)關係 3、姓關係 4、縁組關係 5、用水 6、入會地 7、道路 8、學校 9、紛争出入關係

(ハ) 附近都市との關係

- 1、出寄留 2、入寄留關係 3、娛樂 4、市日 5、劇場 6、その他青年の出入の關係

#### 九、部落に對する意識

部落に對する意識は、明治以前のものと明治以後のものとは如何に異なるか、また近年殊に農村恐慌後それが特に如何なる方面にあらはれてきたか、それは部落研究の綜合的結論として觀察し更に左の諸問題について考察する必要がある。

(イ) 部落の人口問題

(ロ) 部落の經濟的、社會的意識、殊に協同組合の問題

(ハ) 部落の文化的意識、特に郷土教育の諸問題

(ニ) 部落と村との關聯問題

(ホ) 農村對都市の問題



以上農村調査についてのべたのであるが、要する所はその農村の真相を把握し、それに應じた教育を施すことがその眼目である。この真相を知るときは前述の如く一面的な統計や部分的な調査で判るものではない。農村に於けるきはめて簡単な一つの事象でも、決して只單なる一つの原因から生じたものではない。それは多くの事柄が相錯して一つの事象を生じたものである、負債といふ一つの事象でも、その原因は病氣もあらう、怠惰もあらう、學費も事業の失敗も、親族への援助も、道樂息子のためにも、災厄も經濟思想のないためからも、亦それらの内の二つが原因となり、或は數種の原因が重つてゐるものもあらう。亦家庭でいへば戸主が原因をなし、或は主婦が原因となり、親族が原因となり、息子が原因となりしものもあらう。故にたとひ負債が何程に知れた處でその對策は容易に判断が出来るものではない。統計は元よりある意味に於てはきはめて必要であるが、然し凡て統計が真相を表はすものとは言へない。まして前の通り一つの事柄でもその原因は千種萬様で、單にその數字で診斷は下せない。統計によつてある一つの調査をして結果が果して學者によつて、相反する結論を出してゐることは世に多くあることである。これらみれば統計的調査は一面に於てそれを直ぐ信ずることは危険であるといはねばならぬ。一つの事柄は多くの理由が因果の關係によつて、人格的に發生してゐるものである。眞に真相の把握には、人格的に見る必要がある。

又一農村について全體的に數字を出してみても、その數字が直ちに教育の方途を暗示してくれるものは割合に少ない。多くはその全體的な農村を通じこの共通のものしか表はれない。それで前述した様に小田内氏の部落的に見ることも必要となつてくる。同時に、亦多面的に一つのものを表からも裏からも横からもながめて見ることである。前から見れば勝れた美貌も後から見ればてんで見られぬものもある様に、各方面から見直して見ることである。又關からも訪ねて見、亦裏からもこつそりのぞいて見る必要がある。かくして農村の全貌や部落の有様が調査し得られたとして

も、その農村の大體の方針がたつ丈で、眞に教育者が相手とするものは兒童である。兒童のすむ家庭は何物よりもその兒童に對して強い迫力と影響を與へるもので、家庭の境遇に應じた指導が必要である。農村調査の眼目は、何としまつて家庭を知ることである。數字的に知ることではない。人格的に有機的に、その家庭に流れる精神をつかむことである。家庭を知るには、家庭にはいらねばならぬ。一年一度丈の家庭訪問などでその真相が判るものではない。家庭にはいるには家庭の人と親しむことである。胸襟を開くことである。先生が見れば家庭は萬事に警戒する。理解のない家庭では、教員に表面を飾つてなる丈ほろをみせまいとつとめる。自分のわるいことを知られたくないとするのは人情の自然である。この障壁を開いてみるにはうちとけて交ることである。家庭に於ける感情の琴線にふれることである。情の移る處に溜飲も下るといつた様な調子になつて次第に打開けてくる。教師が家の顧問たるの眞情を以て相談のつてやる態度が終に開門となつて真相を知ることが出来る。一軒知ればそのおこしは亦易い。二軒三軒と凡そ、その部落の状態は胸三寸におさまつてしまふのである。

負債のあるのは何故か、ここに經濟上のぬけ目があるか、貯蓄は何が原因か、何處に節約の餘地があるか、生活は奢侈か否か、等とそれからそれへに判断する。私の知つてゐる人に、二十何年も勤続した村長さんがある。村の家は殆ど台所のすみまで知つてゐる、負債の統計や貯金の統計は知らないが、何誰は負債は何程、あれは家内の怠惰が原因だ、何誰は何程貯蓄をしてゐる、あれは妻女の儉約と働きである。何誰は今息子の放蕩に困つてゐる、この部落で何誰の家は妻女が中心だ、妻が得心せねばならぬ、又小理窟を言ふのは誰で、この話をまごめる適任者は何誰だ、この部落の經濟振興は何を獎勵するにある。等々夫婦喧嘩の仲裁もすれば、縁談や就職の世話までやる人だ。役場の椅子に坐つて村内の隅々まで一目瞭然と言つてよい。これでこそ眞に徹した村政の運用が出来、村の平和、村の發展が村長を中心に進めらるゝのである。農村の教育はこの村長のもつ村の認識がなければならぬ。それには努めて家庭を知



るこゝである。家庭を知るには村に入り、部落に入り家に入るこゝである。決してそれは短期間に出来るものではない。従つて教師はその農村に居住し、部落民と一緒に生活して行かねばならぬ。デンマークの農村教育者が、十数年間その村に落ちついて、轉動しないといふのも、つまり農村の認識を深くしその土地にじっくりはまつた教育を施すにある。そこで村民の親しみも信頼もできて、家庭のやりくりの相談相手にもなれば、娘の結婚相談にもくる。進學、就職、卒業生の指導、進んでは部落の指導、村の指導ができる譯である。農村調査は統計的、數字的、一時的、部分的に行ふこゝを全然否とするのではない。それも参考としてよろしいが、然しそれを絶對的に信ずるこゝはむしろ危険である。その眼目は農村、部落、家庭の真相を知るために、そのグループに入ることである。そしてその繼續的、多面的、人格的乃至は六感的な調査をなすこゝである。

## 第五章 農村教育の理想

文化教育學は「文化は自然の理想化である。現代人の理想的生活の表現として茲に、科學、宗教、藝術、政治、經濟が生れ、これらの文化戰は、歴史的な文化として、又客觀的精神として、存在すると共に眞善美聖健富等の文化價値は、規範的精神として、又理想的として人間を指導する。此の理想に指導せられ、此の價値を享受し創造するため、伸び行く精神に對して行ふ愛の活動が教育である」といふ。

かゝる意味に於て教育せられたる文化人は、文化財の内包するところの、六つの文化價値の有機的統一體として、築き上げられたる人格體を指すものである。農村教育は、之に従へば農村には、これら六つの文化價値は、歴史的に、人格的に存在し、而して生々發展をなすつゝあるものである。この農村文化を統一的に、認識せしめ、更に高次の文化創造に貢獻する人格的農民の養成が理想でなくてはならない。人格教育學は、物質のみに生きる生物以外に、人類

には精神の世界がある。人が精神的文化に生きんとする點は、きはめて顯著である。此の精神と物質を統一した文化を體驗し之を創造せんとする人格の養成を目標とする。農村教育に於ては、農村文化そのものが、都市に比して物質文化に劣る事多き丈、精神文化に長ずる特質がある。此の精神文化を中心として、更に向上發展せしめんとする人格を陶冶するを理想とせねばならぬ。社會教育學に於ては、個人は社會に依存する。人間は本質的に、共同生活を營む外に生きる途はない。何人も今日の經濟組織の下に於て、自己の物質的生活の資料を、自給し得るこゝは考へられなうであらう。精神生活に於ても同様である。われらの思想は全く社會的のものである。孤獨生活は許されない。人間も個體としては、生物としての進化は殆ど望まれない。獨自の生存に堪へず、團體としてのみ生存し得る域に達した。教育は人間共同生活を全うせしめ、より進んだ文化で満たさんために、共同生活、共同社會性の涵養をし、社會人としての全き人の養成を目標とする。

農村教育に於ては、農村社會理想の立場から、教育の理想實現を期せねばならぬ。農村社會は都市の利益社會なるに對し、同情社會である。隣保相愛の觀念が強く、共同團結の力が強い。併しこれは精神的のもので、農業といふ業態から經濟的利害の上に於ては、都市よりも個人主義的であることがこの特質である。又社會觀念の上よりみても、感情的、傳統的のもので、理性的、積極的な社會觀念に至つては貧弱である。従つて、農村社會のもつ同情社會の美点を助長し、理性的、發展的な社會觀念の涵養につとめ、將來複雜化せんとする農村社會に立つて、民衆的な社會實現のために貢獻する農村社會人の養成を理想とすべきである。以上は、教育思潮について、農村教育の普遍的理想をのべたのであるが、更に農村を云つても、單なる農村ではない、わが日本國家に屬する農村である。農民といつてもそれは日本人としての農民であると同時に幾千年來の民族的な流れを掬む、大和民族としての農村であり、農民である。茲に於て農村教育理想は、一層明確にされなければならぬ。即ち農村民人格教育といつても、その人格は



日本國民として 陛下の赤子としての農民人格でなければならぬ。従つて、農民人格は、自己の生命内容として、家  
を入れ、隣人を容れ、社會を容れ、國家を容れ、民族を容れるのである。換言すれば、個人的には人格主義に、國家  
の一員としては、民族精神にたちかへつて、そこに深き信念と哲學とを探つて、日本人としての眞精神を發揮する人  
格の養成を理想とすべきである。此の國家的、民族的理想は更に、郷土農村によつて、特殊な理想も生れる譯である。  
農村といつても、氣候風土を異にし、人情風俗や農村社會の生因、生活状態が同じでない山村もあれば、都會に接近  
した農村もある。夫々特質を異にする丈、自ら山村には、山村の理想があり、他の農村には、亦内容の異なる理想が  
ある。同じ日本國家内に於ても、部分的には夫々、独自の教育理想を有する事は當然である。併し究極に於てその農  
村の郷土理想實現は、國家民族の理想實現と一致するのではなくてはならぬ。それは郷土農村の發展は、總和に於て國  
家の發展となるが故である。かく考へてくるに、農村教育理想は、その農村郷土の農民各個の理想を總括し具體化し  
たものであり、かくて形式化された農村理想は、即ちその農村の教育理想であると言ひ得る。以上普通特殊の上に立  
つて、農村教育理想を要約すれば、農村と言ふ自然的環境と、農村生活といふ人爲的環境の裡に、歴史的、人格的に  
存在する陶冶財を活用し、國民道德、道德教育の徹底を期し、人格的に圓滿であつて、農民たるの自覺を有し、土地  
の勞働の神聖なるを知り、科學的研究と、眞理を愛する熱情とに燃え、大地をふまへて動ぜず、自ら額に汗して耕し  
以て天地の化育に參するといふ崇高な農の使命を了得し、政治的にも、社會的にも、經濟的にも、優越せる實力を有  
し、郷土にありては、郷土農村の更生に、出でては植民拓殖に、自己の職分を通して、祖國日本の興業に貢献し得る  
全人教育である。此の理想實現のために、農村教育は建設され、あらゆる活動が始まらなければならぬと確信する  
ものである。

## 第六章 農村教育建設の指導精神

### 第一節 農民人格教育の徹底

申すまでもなく、農村教育の指導的精神は農民人格教育の徹底にある、何よりもまづ農民の魂をこりかへさねばな  
らぬ。人はまづ自己でなければならぬ。個人に徹底しなければならぬ。ある人は十九世紀は個人を發見し、二十世紀  
は社會を發見したと云ふた。しかし現代人は眞實の意味に於て自己を忘れ社會を見出してゐない感がある。農民には  
農民魂といふものがある。農村教育の指導的精神はこの農民魂をよび起すにある。農民魂は農業といふ業態に應じ土  
に愛着し建國以來幾千年育みきたつた崇高なる精神力である。農民魂は農民生活の各方面に表現されて、脈々として  
生氣を發し農村を保ち、都市を救ひ、純朴清新なる日本文化の精粹を形成し、その主動となつて發展してきたもの  
である。この農民魂の表現の一つは強い弾力性を有することである。この弾力性は特殊な農業的業態から自然に養は  
れたものである。農民の業務は性質上自然の力に左右さるゝことが頗る多い。旱魃、水害、暴風、と三、四年間には  
一度は遭遇することを覺悟せねばならぬ。従つてその間に於ける計畫をたて、善處する決心が必要である。故に豊作  
なりしして奢ることは出来ない。凶作であるからと申して餓死する様では勿論いけない。だが幸に農民はその生活に  
於て實にねばり強い弾力性がある。草根本にかづりついても尙生活を得てゐるといふ事實もある。従つて獨立心のつ  
よいといふことも此處から養はれたものであらう。農民生活の向上と緊縮は作物の豊凶や一家の災禍によつてのびも  
し亦縮みもする弾力のある生活でなければならぬ。

それが歐洲戦後の好景氣にうかれ上つた農民生活は、その後に来たつた不景氣に一向緊縮することが出来ず、やれ  
免税だ、匡救事業だ、補助だと叫んで悲鳴をあげてゐる、中には自棄的な行爲をなす、義理も人情も忘れて争鬭を好



みために争闘のたえないといった有様は、何としても弾力性を失なつた證左で、依頼心がつよく獨立の精神が衰へた結果である。農民魂の表はれは亦正直なこゝである。農業の一特質は決して偽りを許さないこゝである。他の業務の様には表面を糊塗し、胡麗化し去る事が出来ない。田の草を二度三度三つたのこゝでは、結果に於て必ず優劣が明かになる。肥料もその他の耕作も必ず收穫に表はれてくる、自然は實に正しい。この自然を相手とする農民の性質は正直で表裏がない。なすべきはなし勤むべきは勤むるのである。言行の一致や約束を重んずることも農民魂の特質である。然るに現時の農民にはかうした正直の精神約束を重んじ義理を尊ぶ精神が漸次消磨し、虚偽虚榮の精神は現在の農村民の心に深く食ひこんで、詐欺横領といった事件も可成多く信用の置けない百姓がだん／＼多くなつてきてゐる。その他鈍重ではあるが、人情のゆたかなこゝ、粗野ではあるが親切なこゝ、固陋ではあるが、義理固く責任を重んずること、質素勤勉であること、なきこゝといった農民魂の表現である農民の人格的要素が、今得んとして得られない、みじめな状態に置かれつゝある。情誼の温味はきえ去つて、浮華輕佻の風がすさまじい精神は没して、物質的萬能の弊風が滔々と流れてゐる有様である。現代の農民は實に本來の美しい道徳からぬけ出して排外的利己主義か、さもなくば機械的社會主義である。何れも農村生活を破壊に導く危険思想であると思はれる。人格觀念の徹底には、社會對個人の關係を明確にすることが必須條件である。現在に於ては、個人は社會に依存する、然も獨自の主體でなければならぬ。太古未開の時代ならいざ知らず農民も本性的に共同生活を營む外に生きる道はない。如何に生活物の原料を生産する農業も、今日の經濟組織の下に於ては自己の物質的生活の資料を自給しうることは考へ得ない。又精神生活に於ても同様である。我等の思想は悉く社會的なものである。如何に散在的、分割的特相はあるにしても孤獨生活は許されない。禽獸に於ても群棲によつて、草木に於ても簇生によつて種族保存の途を辿つてゐる。ある生物學者は次の様なことをいつてゐる。

「すべて生物は進化の道程にある。無限の進化の希求は個體の上に於ては達せられない。個體は常に團體を通して更に進化する外はない、進化の沈滞し行詰つた原始的個體の域を蟬脱して新生命ある團體の境地に甦るのである。蟻蜜蜂の如きは生殖作用まで分業的である、個體としては生存機能を全然缺如して不具の状態にある。然も團體として高き生命の途をたぎつてゐる、人類も亦個體としては生物としての進化は殆んど望まれない。獨自の生存にたへず團體としてのみ生存しうる域に達した。現在に於て最も大なる團體である國家も已に行詰りの状態にあるかの様に思はれる。更に一步をふみ出さねばならぬ期に達してゐる。われは此の説を肯定する。しかし個體は個體として獨自の存在である事は勿論である。社會有機體説—個人を獨立人格なき細胞、大建築の一個の煉瓦と同視するは元より賛意を表せられない。自己はさこゝまでも自己であり農民はさこゝまでも農民である。自己は自己のための存在である。一個の人格である。人格であればこそ家のためを思ひ、農村を憂ひ國家を愛し、社會の人類の上を思ふのである。農村民が勤勞中に勤勞の愉快を感じて天地の化育に參畫して靈妙玄幽なる心情にうたれ自己の生命をその中に見出し、それと融合する境地にたつたの人格者たらしめねばならぬ。われらの主義は周圍を人格化するにある。自己の生命内容として家を容れ、隣人を容れ、農村郷土を容れ、社會國家をいれ、全人類をいれ、のである。更に進んで禽獸に及び、非情の草木にも及ぶべきである。所謂天地の化育に參すべきである。農村民の人格を高め之を充實する方途は唯一である。農村郷土を農民の生活化するこゝである。それ以外には道はない筈である。人格の大は農村に通じ、農國日本と合し、大は宇宙に等しいのである。この崇高なる農民人格を涵養し陶冶することが農村教育の第一精神であらねばならぬ。即ち農村に存在し生じて發展しつゝある眞、善、美、聖、健、富の文化價値を人格的に認識せしめるこゝである。この人格の充實せる極致は神である。「眼に見えぬ神の心に通ふこゝこそ賤が心の誠なりけり」である。此の崇高なる而も森嚴なる事實こそ、吾人の最も意を用ひ之が達成には全幅の努力を拂ふべきであるとあるこゝ信するものである。



## 第二節 建國の精神に復歸せよ

現今の疲弊荒廢せる國勢を恢復し、時局匡救の根本精神として、衰微しかけた日本文化を再建設し、民族精神を暢達して、わが國建國の大精神に甦れといふことは朝野舉つての一大警聲である。今やわが國民は明治以來歐米の物質文明に心酔して、今日の行詰りを生じた結果について、精神的に猛省一番せねばならぬ時だと思ふ。「國民はこの際「われ」は日本國民であると」最も強く意識せねばならぬ。此の堅き強き精神こそ眞個に意義あり且つ日本國民一様に固く握つて置くべき事だと思ふものである。而して又我々が組織して居る國家は、國民精神作興御詔書の中にも「模倣を戒め、創造に昂め」を仰せられてある事を肝に銘じ、明治維新以來六十餘年間の長きに亘つて日本は西洋模倣に一貫して來たが、今日になつては、その行つまりを生じた事に思ひあたつて、歐米模倣からぬけて、日本文化の創造に努力せねばならぬ時となつた。即ちわれは日本人である、我々の國家は三千年來嚴として、東亞に輝ききたつた日本國である」といふ内容のある認識に出發して、新しい日本文化の創造に邁進せねばならぬ。これが、昭和維新の國是であり九千萬同胞の遵奉精進せねばならぬ大理想である。この大御心を、おし擴めて更に、遡つて考へて見るならば、今日の行詰りを根本的に切開し、その病源も言ふべきものを除去し、農村振興を期するといふ事は、即ち前にのべた、日本のすべてのもの、就中、農民をして、建國の大精神に甦らすといふ事である。それ以外に今日の重大危機を匡救する途はないと信ずる。然らば、建國の大精神とは何か、

我が國の建國の大業を完成された御方は神武天皇である。神武天皇ははじめ日向の高千穂の國を御出發あそばされ、大和の國に都を御奠められた。その建國の目標は何處にあつたのであるか。神武天皇御東遷の御動機については、記紀二典の傳ふる所、多少の異同はあるが、要するに神勅を奉じ、天業の恢弘を以てその目標とせられた事に至つては、炳として動かぬ事實である。書記には次の如くのべられてゐる。

昔我が天神、高皇產靈尊、大日靈、此の豐葦原瑞穗國をのたまひ、あけて、我が天祖、彥火瓊杵尊に授けたまへり、是に於て彥火瓊杵尊、天關をひらきて雲路をおし分け、みさきはらひおいて以ていたります。是の時に運鴻荒にあひ、時草昧に立たれり、故に蒙くして以て正を養ひ、以てこの西の偏を治し給へり。皇祖皇考の神の聖にして慶を積み、暉を重ね、多々年所を経たり。遼遠なる地未だ、王澤に霑はず、函に邑に君有り。村に長あらしめ、各自疆を分ち用ひて、相凌ぎ、幪ぶ、抑又鹽土翁にききしに、曰く東に美地あり。青山四に周れり。その中に亦、天磐船に乗りてさび降れる者有り。さひひき。餘れ謂ふに彼の地は必ず以て、天業を恢弘して以て天下に光宅るに足りぬべし、蓋し六合の中心か。厥のさび降れるものは、謂ふに是れ速日か、何ぞ就きて都をつくらざらん」にある。天業は、天の心を人間文化の中心として營む所の業である。これを今日の言葉で云へば、精神文化の建設である。此の精神文化を單に、日本内地に發達せしむる許りではなく、これを全世界に遍く押し擴めて行つて、世界人類全體の幸福を増進せしめ、眞の世界平和を吾々日本人の手によつて確立するといふ事である。かくの如く、吾々日本民族の建國の大精神は廣大無邊である。精神文化の建設、然もそれを全世界に押し擴めて、全人類の幸福を、全世界の平和を、吾々日本人によつて建設するといふのである。これが我が建國の大精神である。精神文化は、農村を中心とした文化であり。物質文化は、都市を中心とした文化である。この農村を中心とした精神文化が、わが國建國の大精神であるといへる。更にそれを押し擴めて、海外に大いに經綸を行ふと言ふ、所謂農業を中心とした、移植民の策がそこにでくる譯である。かくの如く建國の大精神は、内には農村を飽くまでも保全して、これを中心とした精神文化を建設し、外には農業を中心とした經綸を行つて全人類全世界の幸福と平和を、確立して行くといふ事である。これが神武天皇の大御心であると拜察するのである。この積極的農本の大抱負を有して居たのが、日本民族である。然るに明治維新以來の吾々日本民族は、久しい鎖國の迷夢からさめて見ると、全く落伍者の如くに感じ、歐米の物質文明に



眩惑せられ、日本民族の大理想を忘れてしまった。一も二もなく物質文化の模倣に熱中し、日本さういふ吾々の國家そのものを顧る邊なく、日本民族の根本精神を忘失してしまった。ある意味に於ては、それがために、物質文化の大發展をとけたとも言ひうるが、同時にそれが今日の憂ふべき世相を生ぜしめた病根である。今日のあらゆる行詰りの根本原因も、即ち茲にあると言ふてもよい。これをはつきり認識して、この行詰りを一掃し、これを根本的に打開するにはさうしても建國の大精神に魅つて農村を中心とした精神文化を再建設するにあるのである。即ち農國日本を再建するさういふ大抱負をもつてかゝらねばならぬ。故に今日の國難打開の基礎が教育にあるならば、その根本もこの建國の大精神の上に立脚せねばならない。従つて明治維新以後に於ける我が國の教育が、他の諸般の文物制度と同様に、歐米の教育思想を移し、之れが模倣に墮して居た事を明確に認識して、幾多缺陷を是正し、わが建國の大精神を根幹として、教育刷新の大職を押し立て、進まねばならぬ。就中、建國の大精神が農村をあくまで保全し、農業を中心とした經綸を行ふべきについては、その第一は農村に於ける教育のたて直しである。農村そのものが農村独自の崇高な本領を失つて、都市中心の教育に終り、歐米の物質文明に捉はれて、精神文化を顧みなかつた過去六十餘年間の農村教育を清算して、農村を中心とした農民文化の創造發展に邁進する有爲な、農民養成を大眼目とする事に一大精進しなければならぬ。教育當局者、農村教育者、農村教育關係者、農民等も大いに改心努力して、眞の農村教育の向上と、徹底とに、勇往邁進しなければならぬ。

### 第三節 民族精神の顯揚企圖

農民は自己の魂にかへれ、農民魂の輝く農民個人に徹底せよさういふ主張は農村教育指導の精神であるが、これは團體的には必然的に民族の精神にかへれさういふ叫びとなる。個人的には人格主義に國家の一人として民族精神にたちかへつてそこに深い信念と哲學を窺つて、日本人として日本農民としての眞精神を發揮しなければならぬ。民族主

義の精神たる民族の傳統的精神は云ふまでもなく民族の成立、國家の肇造の態様に發源するものである。かのアリアン人種はアジアの中原からでたといはれる。或はバミールの高原からさも或は小アジアからさもいはれてゐる、それからアリアン人種は西へ西へ移住した。さうして何を以て生活したかさういへば、主として牧畜で所謂遊牧の民であつた。牧畜を以て生活し、獸類を養ひつゝ生活を續けて行く間には自然さその獸の肉を己が食用とする習慣が出來、獸の皮を以て着る習慣や、獸の皮を足にはく習慣も出來て、所謂衣食住が大體獸によるの習慣が起つた。さうしてかれらは獸のふえるの牧草が乏しくなるのとて、常に新しい土地を求めねばならぬ。即ちアリアン人種は古代から移住の生活をしたものである。新しい土地に移住して新しい人間さの間には主人さ家來ささういふ様な固定した關係がない。と同時に新しく集まつてきた人達だから、勢ひ何事でも相談してきめる。さういふ習慣が出來てかれらの議會政治は遠くこの時代から出發してゐるのである。さうしてかれらは絶えず移住するから、その間に他の新しい人種との間に時々激しい競争をし遂に強者が弱きを壓してそれを隸屬せしめたる一つの社會が出来る、それが段々發達して所謂隸屬制國家が出來上る。歐洲諸國の如きは概ねそれに屬する如きものであつて、かゝる國家では一階級が他階級を抑壓し搾取るさういふ機關であるといふマルクス流の國家觀も成立する譯である。亦隸屬制國家發達の如き強き制爭奪を行はぬとしても、新しい異種の人種との間に互に譲りあひ一つの約束を設けて國家的な發達をさけて今日に及んだものもある。それは即ち約制國家である。約制國家は米國の如きその好例であつて、地利的關係の利害の計算によつて相互に約束した功利的國家である。かうして發達した國家は、國民間に必然的に內的の團結要素をかくさ共に傳統的な永續的な國民精神が純一に發達する點に於ても大いに弱點がある。歐米諸國の發達の過程は従つてその國民精神は不純であり、不統一であるのである。それに對して東洋人就中日本人は早くから大河の流域や平野の一隅の肥沃の地を求めて定住した。さうしてかれらは農業を以て生活してきたものである。農業は種蒔から收穫に至るまで時



間を要するので、勢ひ定住せざるを得ない。そうして野を開拓し作物を耕作するには、多人數の勞力を必要とするので、親子兄弟は別れないでなるべく一大家族をなして同じ所に集つて生活したのである。大家族が一定の場所に定住して生活するためにはそこに秩序を維持する必要がある。秩序を維持するには誰か中心となる命令者がなければならぬ。そこに於て自然に家長を尊信しその命令に服従するの風習が起つてきた。即ちわが國は族制の國家である。而してその生くる所は農業を初めとしてその中に國家發達が順序よく進んだものである。その本家本元たる皇室を中心として祖孫一體君臣一如、一國一家の倫理思想が生じ悠久な民族精神が養はれ、發達してきたもので實に淵源する所遠しといはねばならぬ。日本民族の成立については移住説と創造説とがある。説の是非は姑く措き吾人の見る所をいへば、その何れをとるにもせよ我が日本民族は皇室を中心として此の日本島を占居して國を肇めたことは測るべからざる悠久の上代であらう。これが論據は人種學上に於て血縁的人種をもたぬこと、言語學上より見て同系語をもたぬ點とに存するのである。吾人はむしろ民族創成説に賛すると共に、建國の態様が族制國家でありその民族の精神は農に育れ農によつて大成して農民精神の精華であると信ずるものである。法律哲學の上では國家を最高道德なりとする。吾は素より之を肯定するものである。而して最高道德たりうるには征服被征服の關係に基く隸屬國家や功利的機會主義の上にたつ約制國家は、到底この最高道德たるの要素を満足せしむることは出来ぬと思ふ。我が國の如きは最も自然的に發生しそれが最も正しき順序をふんで近代國家に發展した族制國家である。農國日本の存在はむしろ世界の誇りでなければならぬ。國家の生命の無窮と皇位の絶對性とは農國日本の悠久に養はれた國民的信仰である。苟も無窮と云ひ絶對といふ、既に理智に超越してゐる。一個の信仰である。こゝに於て我等が祖國日本に對する觀念はいはゞ宗教的である。この宗教的な信仰は矢張り國家發生の根源たる農業精神中から生れたものである。わが國を神制國家であるといふのも亦國民的信仰の上にあるのである。わが國に於ける統治は道德を勵行するにある。人道を蒼生に布く

にある。神の意志を地上に示現するにある、我が神制國家の眞髓は正しくそこに存する。神制國家日本に於てのみ國家が最高道德たりうるのである。以上吾人はわが建國の態様と農業とについてのべたのであるが、實にわが倫理道德の思想、民族精神の根ざす所は遠く農を以て國を肇めたる悠久の上代に發し自然的に純正に發達して近代國家となり國民の國家に對する觀念は宗教的信仰となつて未來永久に發展する世界無比の國家である。此の民族精神の根本たる農業精神の顯揚はわが國民教育の指導精神であると共に農村教育の中心精神であらねばならぬと思ふものである。

#### 第四節 生物愛の長養に意を用ひよ

愛は萬物を育生する。誠に至言である。宇宙の萬物は愛の力によつて育生する。自然の愛と人類の愛とによつて作物は成長し結果するのである。自然の愛は普遍平等であるが人類愛には厚薄がある。愛の厚き程よく育ちよく穰す。農業に於て栽培し飼育する作物、果樹、家畜は一面自然愛の力と農民の作物、家畜に對する愛の力によつて育て得るのである。作物は自生する雜草の中から改良せられ、進化されてきたものは、寒暑風雨に對しても病蟲害に對しても抵抗力が弱く農民の愛によつて保護され培養されて行くのである。農村生産の根本は之の愛情にある。然るに近時農村の一般を通じて段々薄らぎつ、あるものはこの生物に對する愛情ではあるまいか。勤勞を好まず、土地に親しまず、あたら農場の荒廢するに任せ、肥土は瘦地と化し、心は都市に向つて馳せる亡村の傾向の根本はこの生物愛の農民の心底から漸く去らんとするに依るのではあるまいか、誠に痛嘆すべき事である。又思想に於ても輓近わが國體に反し國本を害せんとする危険な赤化思想の浸潤は誠に皇國の將來にとつて一大恨事といはねばならぬが、それは國民中のきはめて少數である事丈はせめてもの幸である。今これを例ふれば赤化思想の浸潤は赤痢や腸窒扶斯の如きもので、全國農民の心底から生物愛の純情が薄らぎつ、あるのは營養不良で一般國民の衰弱性にも比するこゝが出来る。赤痢や腸窒扶斯も恐るべきものではあるが、より以上この國民的衰弱性は警戒を要するといふべきである。この全身



的衰弱症からは結核も出れば各種の病根が発生する。土を離れ農を忌み勤勞を厭ひ社會鬭争に狂奔し都會を讚美する病氣は正にこの全身衰弱症から發して居ると思ふのである。農民が農民独自の生物愛からはなれて打算的な投機的利己的な商人の生活態様に化しさらんとしつゝあることは誠に顯著な一傾向である。勿論今日の農民が經濟的方面に知識と卓見がなくては生活が出來ず、折角の生産も意義がなく、商工業者に壓迫されて仕舞ふがために正しき經濟觀念と經濟的經營の技能がなければならぬ事は言ふまでもないが、それは第二段の要素であつて、第一は經濟をはなれた只一筋に天地自然と協力し生物を育成するに云ふ生産事業である。育成に没頭し生長を祈願しそれを樂しむところの生物愛の崇高な發現が根本である。米がいくらに賣られていくらに賣られて何程の收入が見られるかなき、その結果は第二としてさにかく稻に灌ぎ雜草をとり肥料を與へ病害をのぞいて日々生じて成育する様が嬉しくてたまらない心情朝夕に伸び行く作物の有様や家畜の喜々として日々太り行くを見て己が勞苦を何の苦しみも思はず朝、起きも夕なべも己が培ふ作物の伸び姿と太り行く蠶兒を見て全く慰しつくされるに云ふ心が農民の第一義的な心情でなければならぬ。その第一義的農民魂ともいふべき崇高純真な生物愛が薄れて商人根情に移り行くことが農民をして自ら衰亡に導き窮迫に誘ひつゝあるものである。吾等の最近よく見受ける誠に遺憾に思ふことは、養蠶家が桑葉の相場が高いからこいふて桑葉を賣りとばし折角はきたて、育てつゝある蠶兒を川に流して仕舞ふが如きその一つである。たこひ蟲けらこは言へ今まで育て上げて日々太りゆく蠶兒を見てはたこひ少々の利益あるにすもそれを川に流すなご實に實に忍び得ぬ心地がする筈である。これまで辛抱して育てた蠶兒だもの算用や勘定ではない程是非桑をたべさせねばならぬこいふのが本當の養蠶家である。この愛情あつてこそ毎年良好な成績があけらるゝのだ。桑商人の様に毎日桑相場をききあはせて、安い様ならばき増しをし高いやうならはいた蠶兒をすてようといふ香具師的觀念で蠶兒の育てつはない。かれらはかくして時々意外な儲けをするこもあるが結局不作で失敗する。米麥を作るのも同じである。河

川工事に出れば一日一圓にはなる。田の草こつて芝草伐つて算用すれば米作の工夫賃は一日五、六十錢だこ直ぐにそろばん弾いて、草が生えようがそんな事には頓着なく工事の工夫に出る。如何にもその時はいくらかの金は這入るがさてその金は儲けた金だこ云ふので歸り路の酒代になつたり菓子代になつて結局懐中は淋しい只残るのは田圃の草山だけといふこになる。これも作物愛の癡癡からくる農民病の一つである。かくして農民は段々にかせがずに儲けをするこに腐心する様になり投機相場に手を出し株を語るこいつた風に投機的僥倖心を起して全くゆきづまつてごうすることにもならない農民が至る處にある。農民本來の生物愛の根本精神は何處までも長養して發達せしめて自然愛生物愛の豊かな農民を養成せねばならぬのが農村教育のねらひ所である。この根本精神の上に立つて經濟的にその實際經營の能力を涵養すべきであると思ふ。されば如何にして自然愛生物愛の長養發展を期すべきかこ云ふに、それには自然に接し生物に直接せしめるこである。すべて物に對する愛情は接觸して居る所に自ら湧き出づるものである。愛は獨在的な亦概念的なものではない。愛には必ず相手がある。生命のない一つの物體でも自己の所有として常に愛用して居ると、その物に對する個々の愛が生ずる。常に使ひなれた時計でも一本のペンでも一年、二年こ使つて居る間に一種の愛が生じて他人の時計やペンこは自ら別な存在である。まして生命があり日々に成長發育し人間の働きかけ如何によつて變化刷致する生物に於てをやである。作物に對する愛はそれを栽培するこによつて生じ家畜に對する愛情はかれらを實際に飼育するこによつて湧き出てくる、一見いやな感じがする作物でも、それを栽培して見るこ根を出し芽を出し葉がのび美しい花を開いて自然こ可愛いものこなる。豚小屋の中に見る豚は如何にも嫌らしく手を出す氣になれないがさて事實それを飼育して見ると實に可愛らしいものである。鼻をならし乍ら柵にこびついて餌を求める様なきを見れば見るほこ接すれば接する程愛情は増して行く。狎を愛する人を見てよい道樂だこ笑ふものがあるが事實その人として丈でなければ狎に對する愛は分らぬ。すべて作物でも家畜でもみな夫々獨自な本能が



あつて、一つの靈質とでも言ふべきものがあつて親しく接觸すればする程その靈的特質が味はれて自然と尊敬な觀念も生じてくる。只愛するこいふ丈ではなくそれに敬虔な態度で對するやうになつてきて、自身までが純化され、自然力と生物の生活力と云ふものに對して純情化されて行くものである。農村教育に於てこの生物愛の長養は大切な要點でこれためには教育施設の内に是非共兒童に自ら作物を栽培し動物を飼育せしめる方途が講じられなければならぬ。農村學校として一羽の鶏も居らず一頭の兎も飼育されないで實習地に申譯的な稲と茄子等が雜草の中にかすかに生を保つて居るこいふ様なこゝで、眞の農民魂は養成されるものではない。然もその根本理想はこの生物愛の養成に置かねばならぬ。現在小學校に於ては農業科として正式に教科として見られるのは高等科であるが、生物愛の長養にこいふ見地から敢て教科書として取扱はなくとも尋一からその學年の程度に應じて作物、蔬菜、花卉果樹等の栽培、家畜の飼育をせしめてその目的を達しうらるべく努力せねばならぬ。なほ家畜、家禽を飼育してゐる間にかれらを受するこいふ心情陶冶の目的を達する丈でなしに更に更なる道徳的な種々の陶冶に資するこいふまでもないことで、その方面に於ても教育的な幾多の價値を見出すものである。

#### 第五節 生活教育の強調

教育は生活の必要に適應させる事こいへる。従來の農村教育が、抽象的概念の教育で、實際生活に役立つこと少なかつた事は、何人も異論のない事である。教育の理想が高遠で、實際兒童生活、農村生活から、あまりかけはなれて居たために、生活そのものを指導する所がなかつた。したがつて役立つ教育であると罵られたのである。教育の形式に於ても高い理想を仰いで只それを聞かされ、見させられ、所謂詰込主義となつたもので、頭ばかり確かな理窟屋を作つたと言つてもよい。教育はこゝより、理想を見つめて、これに達すべくつとめねばならぬが、その出發は兒童の實際生活にた、ねばならぬ。生活事實の中には幾多の矛盾、撞着があり、進歩への反逆があり、未開への幼稚がある。この事實から理想へ進まねばならぬ。黙々として働く人を作れと叫ぶ。働く人こ自ら辨へ、それを實行に表はして創造する人の謂である。

農村に於ける生活は農業を通じて創造するこゝである。農業は元來、神と、自然と、人こ一緒になつて營む創造であるが、その農業に於ける文化は、多く先人の創造したものでそれを受けついで行く丈では創造ではない。そこに農村の更生も、振興もない。農村の向上發達は祖先の創造したものを認識し之を改善し、より高次なものを作る尊き實踐そのものである。生活こは、必要、興味、満足を充實せんがための繼續的活動である。子供が成人になる過程の推進力は、此の欲求で、此の欲求を價値あるものに變化せしむる事が教育である。活動は單に思惟する丈ではない。思惟のみで實行がないのは、空想であつて、實際生活ではない。生活は知と行との合一體である。由來知と行とを二元に見るこ云ふのは分析の上から論ずるのであつて、眞の知といふものは、必ず行の伴ふものである。今知識を絕對智と見之を理想統一の上から言ふならば、知行は初めから合一したものである。決してはなれたものではない。行によつて知られ知らるゝによつて行はれる。故に實行する事の出来ない知は、眞知とはいへない。抽象的のものであると言はなければならぬ。ヘーゲルは「言明せられざるものは眞知に非ず」と言つたが、我等は實行せられざるが如き知は眞知にあらずと言ひうると思ふ。實際上より見て、知行合一せずと言ふは、之々の事はわがなすべき事であるこ知つても、容易に行ひ難いといふ事である。如何にも人は常に良心の苛責を感じて居る。それは良心の命する通りにならざるべからずと考へても、習慣の力は甚だ大きく、惰性に引かれ、境遇に左右されて、中々實行が出来ない場合が多い事を言ふのである。従來の農村教育が、知こいふ抽象のものに走り、實行と言ふ事を深く顧みなかつたといふ事は、つまり教育が生活そのものこ交渉なく、教へるこいふ事は、單に理法を授けるのでなく、直接生活を指導するこいふ事に注意が拂はれなかつた結果である。換言すれば實踐こいふ事を忘れた教育であつた。今日農村で黙々と



して働く人が少なく、理論に長じた人が多くなりつゝあるのは、一面農村教育の餘弊である。學校で綴方は教はつたが、手紙一本かけない子供や、算術教育を受けたが、米、麥、蔬菜の賣上勘定や、收支計算の碌に出来ない青年や、理科を習つても農場にある草の名一つも知らぬものもある。修身作法を修めても、親に口答へしたり、家庭に於ける禮儀作法、外出の心得、人との應接がてんで物にならぬ娘も多い。家事を習つても、味のよい味噌汁一杯も作れないといふ有様では、役立たない教育であるといはれても、正に文句はない譯である。農村の發展に學理に通ずる指導者は勿論必要である。然しそれは少數で足りる。それよりか多數の實行力に富む實踐的農民を作ることこそ専念しなければならぬ。教育の實際化といふ事が叫ばれてから既に久しい。然かも抽象概念の教育から脱し得ない現在の農村教育は、何としても再建設を要する。教育は實行によつて生きる。生きた農村教育は農村の生活教育にある。農村の家庭生活、兒童生活、社會生活を檢討すれば、多くの矛盾、不合理、退嬰の開拓すべきものがある。それを出發して理想に向はねばならぬ。吾人は決して人格教育を疎んずる實業教育偏重の、功利的革新論を叫ぶものではない。茲には現在生活遊離の傾向を訂正せんことを力説すると共に陶冶の方法に於ても、生活に即してその目的の徹底を期したい。内に敬虔なる農民精神を持し、外に之を實行に表はす力の教育が、必ずなくてはならない魂と力の並、進がなくてはならぬ。農村教育指導精神として、實力の教育、實行の教育、それには、生活教育を高唱するものである。

#### 第六節 意志教育の高唱

從來農村の振興を圖る方法として當面直接の對策たる農業及農村に關する法令とか制度の改正、補助政策の實施に重きを置く傾向がある。その根本たる農民の意志教育、農村民の自立自營の精神教育には充分に意を用ふることがなかつた様である。それは農村民の經濟生活上に困難の度が加はれば加はる程その急場をしのがんとする欲求が増大するので、之に對應する直接的な政策又は一時的の救済策が施されるのも無理なきことで、一概に之を非難する譯では

ない。わが國に於ける封建時代の農民が人間的自由を剝奪され、強壓の下に蠢動する奴隸の如きものであつて、生産機關以外何物でもなかつた。當時の財政經濟は米であつたので、支配階級は自らの生活を支持向上させるために農民大衆の生活向上を阻止壓迫したと言つてもよいのである。それが明治となり、大正となつて制度が布かれ、文化は進んで來たのであるが、依然として農民の生活は他のものに比して下層位にあつた。即ち農民は實に粗食野衣只々忠實に納税の道を守つてきたのであるが、その農村民の知識が増し經濟組織に通ずるに至つて不公平な分配に甘んじて居らなくなり、幾度か法令制度の改廢となり歐洲戦後に於けるデモクラシーの思想と共に各種の農村問題、社會問題も生じてきたのである。かゝる人として享有すべき公平普遍な天恵を妥當になすための法令制度の改善に合理的穩健なる方法によつて進むことは勿論結構ではあるが、もろく農業は天然自然を對手としての職業である。天變地異の自然的災害は何時來たらんも知るべからず。而して之に對して自ら耐へうる平素の準備をなすべきが職業上本質的な覺悟である。即ち之等の災害に對しては自己の生活に彈性を有して向上もし緊縮もして自然の惡戯にたへる丈の彈力的生活をなさねばならぬのである。然るに歐洲大戰後の好景氣はいやが上にも農村民の懷を肥やした。かれらはあるがまゝに衣に食に住に娛樂を振まつたのである。半麥の飯は七分となり已に白米食となつて生活は天非知らずに向上了した。従つて金のありがたさも何時か忘れて有頂天になつて奢侈淫蕩の風が出じた。株の賣買や思惑や取引が盛になつて、投機的な氣風は流れ堅實な農業經營は影をひそめ、誠に憂慮すべき世態とはなつた折、經濟界は俄然急轉直下今回の不景氣が招來したのである。然し一度なめた味は忘るゝ事はできない。生活の緊縮、經濟の低下も中々出来ない。やれ救済だ保護だ叫んだのである。農村が荒廢し農民が窮迫して居ることは如何にも事實である。然し内面的に於て生活は如何と言ふにそれ程低下してゐない。好景氣に入る前よりもはるかに高い生活をして居るのである。農村の窮狀を何さかして保護し之を匡救せん考へるかは政治家の役目であり、之がために匡救豫算の臨時議會まで



開いて確定された事は正に政治家の責任であらう。然し考ふべきは與へらるゝもの、心である。現在の農民は省みて不甲斐ない處はないか、自ら制し自ら節し愈々萬策つきての窮乏であるか。もこより中には事實食ふに食へぬ眞實の窮乏者もあるにはある。それはいつの世にも異つたものではなく都會も農村も同じである。それが多少増加したにすぎぬ、その他の大衆の農民は決してさうではない。まだく制する餘地があり節があり箇所が澤山にある。衣に於て食に於て住に於て交際に於て然りである。収入を圖る上に於ても同様に儲け口が愈々ないのではない、稼ぐに追ひつく貧乏なしの言は未だ金言たるを失はない。かれらは利潤が減れば遊んで居つても、馬鹿らしいとか何とか理窟をつけてしないのである。繩一丸は六、七十錢から直下的に三十錢臺に落ちた時に農民はさうした、馬鹿らしい云ふてなはないで夜は早く寝、晝はあそんだものだ。ねたりあそんだりしてゐては一文にもならないと考へた末、金策にかけまはり、漸くお慈悲で借りた金の金利も拂へぬとい口實を設けて、一方は税金の滞納の理由として店借の借金迄支拂はず、一方ではやれ負擔軽減とか、補助だとかやれ匡救だとかの請願陳情に奔命したのである。借りた金を支拂はないのが一つの自慢である様に考へるものもあるに至つたことは何としても實に大問題であるといはねばならぬ。惟ふに古來わが國民道德の健全なる維持者として立つてきた農村に於て斯様な破廉恥な道義的頹廢は國家的の重大問題である。赤化思想の異端者が近來世間をさはがせて誠に憂慮されてゐるのであるが、之は正により以上の大問題であるといはねばならぬ。

社會主義者は何さしても一局部で局部的手術で治すべきか知れぬが、之は全身的衰弱性と言つた程度のもので根本的に治療の方法を見出さねばならぬ問題である。眞の慈悲を與へらるゝ者が生かされなくてはならぬ。匡救補助の政策も眞に生かされなくては反つて害有つて益なきことである。匡救補助によつて反つて農民の依頼心を助長し、奢侈の風を強め一時的の倫安をむさほらす結果になると、恰度全身衰弱性の患者にカンフル注射を施す様なもので一時

意識はたもつても後に苦痛をますのこ等しいものである。節する事を知らず制する力なきものに與ふるは結果に於てかれらを亡ぼすことになる。與ふるものよりも與へらるゝ者の心の改善が何ものよりも先になされなければならぬ。此の意味からして今次の不況はむしろ世界大戦争後の好況によつて馴致され遊蕩的國民思想、投機的、射倖的な風潮、義務と責任感の漸く地を拂はんさするに方り好箇の覺醒劑である。思ふにこれは畢竟農民精神に弾力がなく、意志の薄弱さいふことがその根本をなすもので、これを以て見るもその根柢をなす意志の陶冶を中心とする教育を念願せずには居られぬ。更に人には夫々天職といふものがある。その天職を全うする事によつて眞に人としてこの世に生れ甲斐のある生を全うし得ることができるのである。即ち吾々個人の使命は個性によつて決定され、天職によつてこそ全うし得るものである。従つて天職を完全に果し得るといふ事は眞にその人の個性に即したものでなければならぬのであるから、その人の個性といふものを研究調査しなければ個人の陶冶は出来ない。個々人の陶冶が出来ないのであるの集りである學校その他團體の指導が出来る筈はない。そこでさうしても教育には個性といふものを尊重してその研究を徹底する必要がある。近時教育界に於て個性尊重の教育が叫ばれてゐるのは實に茲に存する。従來の教育が劃一的機械的に流れて眞に個人を陶冶する事を忘れてゐた所に對する反動も加はつて個性の研究は教育界をあけていつてもよい位にさかんになつてゐる。けれども個性は實に千態萬様であつて現代科學で説明するには餘りに神秘すぎる程深くもあり亦廣くもある。個性の前には現代科學も未だ力が足りない。否科學の力丈では永久に解決出来ないかも知れぬと申してもよい。併しこの困難な個性も現代科學の範圍に於てやつと眞剣な態度を以つて個性研究を行ふ様に努力されてゐることは誠に結構な事である。その手段方法としては、性能検査(智能測定、遺傳の研究、血液型の研究、環境の調査) 神靈研究、病理研究、猶ひいては教育學、心理學等のあらゆる科學に於ける方法手段を講じ之等の研究を綿密にしその結果に基いて短所性癖の矯正、長所の進歩、適職の發見等に努力を傾注せねばならぬ。然



し乍ら個性は畢竟個人の靈である。靈を知るのには靈である。科學の力のみでは見極める事は出来ぬ部分があるかと思へる。猶一面に於て科學が發達してゐない遠い昔に於てもよく個性を見究めて立派に個人を陶冶した實例も少くはない。孔子、釋迦、基督なきの偉大な業績を考へて見ても、亦わが國に於ける中江藤樹、吉田松陰、山崎闇齋等について見てもその結果に於て立派に個人を陶冶し世を導いてゐる。しかしその陶冶の方法や指導形式は人を見て法を説くと言つた様にその人の個性を尊重してゐるので千人は千人、皆同一の方法や形式でないけれどもそこに大きな共通点があるこゝを見通してはならないと思ふ。それは個性の調査が形式の方面ではなく燃える様な強烈な誠の一字である。此の陶冶し指導するもの、真心が各人の心の中に溶けこんで、各個性そのものが内面に於て淨化されて行くのである。形式的に調査研究が進んでゐたのではなく、内面的に深く喰ひこんだ指導者の刺戟によつて自己の個性を自覺反省しつゝ、自發的に發奮激勵して、自分が自分を鍛練し矯癖する様に努めさせたのである。併しこれは從來大宗教家が衆生を濟度し大教育家が子弟の誘發に對して各個性の長短をはつきり拵み、短所の補足、長所の伸展、性癖の矯正なきを無言の内になしきけてきたのであるが、この至難な大業をすべての教育者にもさめる譯にはゆかない。併しこの至誠にて子弟を導くといふ古來の大教育家の態度即ち内面的に深く喰ひこんで彼等の各個性そのものを淨化し激勵して自奮自勵をなさしめる態度と努力は特に教育者の教育道中の極致であると思ふ。特に設備に於て不完全であり科學的に研究調査して行く点に缺くるもの、多い農村教育に於て雁がとべば鳩がとぶ云つた風に、世の流行に従つてやれ個性だ、智能測定だ、血液型の研究だといつて生半熟なこゝをして見る丈では何もならぬ。反つてその不完全不徹底な調査研究をたよりにするこゝによつて大きな禍が生ずる結果ならぬとも圖られないと同時に悲しいことにはこれらの研究をなしたはよいが、さてその結果を適切に利用して完全に個性を知りその結果として矯癖が完全に行はれたなきといふ様な具體的例が極めて少くないことである。然らば農村教育に於て、さうしたならば眞の個性に

即した生きた教育が出来るかま眞剣に考ふる時、こゝに一つの活路光明を發見することが出来るのである。それは第一に現在教育に最もかけた点を見究める事である。科學は進歩し理論は充實した農村の教育も學問としては随分進んでゐる。教育の設備組織がすべての物質文化に恵まれ來つて如何なる寒村僻地も完備しすぎた感がある。けれどもそこにさうしても不足するものがある事は争はれない。それは何であるか一言にしていへば農村教育者である。人物そのものである。神様の様な完全な人格を具へた大教育家聖人である。併しこれは今日の農村教育者のすべてに求めることはいつの世になつても不可能であらう。そこで私は最も手近に且つ正確にそれを求める方法を以て、所謂「大自然に循ひ」を叫ばねばならない。神の造りませる田園は神の意志そのまゝの表現である。自然の攝理に循つて忠實にこれを遵奉し自然を認識するの態度即ち神への行者ならなければならない。難しい理窟はつけないでもよいのである。只不念不息こつ／＼精力主義に不斷の努力をつゞけてゆくこゝである。大自然の様な寛容で調和で公平無私で、少くも利己的思想を撲滅し、眞理を愛してこれを追求し、浮華輕佻、偽瞞、利己、投機なきを徹底的に撲滅してゆけばよいのである。それには非常に強い意志意力が働かねばならぬことである。そこで意志の鍛練の必要なこゝになつてくる。忍耐するといふ様な消極的な意志では物たりない。さうしても積極的にぎんな苦難をも喜んで迎へるといふ強意志を養はねばならぬ。さうするには先づ第一に爛れ切つた物質文化萬能への憧れを打破して農村精神文化を甦らせて大自然へ思想の轉換を圖らねばならぬ。常に田園村落の大自然を師と仰ぎ友と親しんで一歩づつでもそれに近づかん事に精進しなければならぬ。この大自然の攝理を奉じて農村精神文化の建設につとめるには、徒らに大言壯語して一擧に大を望んではならぬ。日常生活の卑近な事から初めて出来る丈體裁をすて、自惚の假面を破つて眞面目な態度で大自然に接近する様に心掛けねばならぬ。大地を裸足でふみしめ風雨にさらされ日光に親しみ積極的に自然そのまゝの中へ素裸體で躍入する機會を多くするがよい。生活を簡易にし暖衣飽食避苦享樂主義をすて、



粗衣粗食迎苦産樂主義で筋肉勞作を徹底的に實行する様にとめることである。農村教育に於て之等は平凡の凡の部で進んだ教育の様に思はぬ点に現今農村教育の情落不振があるのである。この平凡なる眞理を從來發見し得なかつたのだ。併し之が實行は中々の難事である。それは現時の思想と逆行する進み方である。そこに自然に歸れ、建國創業の精神に廻れよと云ふ大目標を根本的に更生せんとする苦しみがある。すべてのものを創造するには苦がある。この苦の洗禮を受けずに成功はない。さうして苦行し實行するうちに心耳心眼も開けて修養の眞諦も發見されてくるのである。随つて自己の性癖も自覺され眞の個性自覺へのために膏の出る様な迎苦的研鑽も積極的に行はれる様になる。これに伴つて強固な意志が自然に養はれるのである。農村に於ける眞の教育は教員のみの特權ではない。農村教育最良の方法は農村自然に對する最良の奴僕でなければならぬのである。

## 第七章 農村教育建設の特相

### 第一節 教育の家庭化につき

わが國の一特性は家族主義であることである。更に皇室を中心とする一大家族主義としての國柄である。家族主義に於て、わが國の倫理思想は起り、そして培はれて來たと言ふてもよい。忠孝も尊信も慈愛も共同も服従もこの家族主義に根ざして發展培養され、わが民族精神としての光輝を發してゐるのである。長くも雄略天皇は、義は君臣にして情は父子を兼ねし仰せられ、わが國一大家族の宗家として臣を見ること子の如く、國民の君を仰ぐこと父の如き關係に於て、今日に及び亦將來益々大發展をきけんとするものである。凡そ人の至情として親子の關係程切なるものはあるまい。親が子に對するの愛は、愛せんがための愛ではない。子が親を信ずるのは、信ぜんための信ではない。すべてを超越した愛であり信である。亦世の中に圓滿なる家庭を有することは幸福の大なるものはあるまい。如何に富

貴顯門と雖も、その家庭にして和合をかき安住之を得ざれば、何れにか幸福あらんやである。人この世に生れいで、第一に教育を受くるのは家庭である。科學的に系統ある教育こそされぬが所謂驥として、禮儀作法から文字、言語、動作等人としての基本的教育は家庭に於て授けらるゝのである。現在こそ學校といふ教育機關があるが、こんな教育機關のない昔に於ては、家庭に於て父母から教育され、長じては社會にいでて見覚え、聞覚えで一人前に人となつたのである。家庭に於ける教育は、學校に於ける教育の組織立つた系統のある形式の備はつたものではないが、而し人間として誠に貴い多くの教育を受けてゐる。親は子に教へることほゞ眞實なものはない。一日の成長を樂しみ、一日の利發を希ふ母心の教育は、名利を超越した愛情によつて行はれる教育である。今日の學校教育が如何に形式に於て整頓され、組織系統あるものにせよ、眞の人間教育、情味のこもつた感情教育の力に於ては、到底家庭に於ける力に及ばないこと遠しと言つてよい。これは前にものべた通り親心は實に大なる慈悲心である。子を恵み育てるために親は全く犠牲の境地に立つ、實際に於て人間は欺くことがあつても、一番欺かないものは親子の間柄である。親はたゞひ博徒であつても自分の子に賭博をせよとは教へない。自分が間違つてゐれば仕方がないが、子に對して駈け引きするといふことは大體に於てない。欺かざる所にこれに對する信頼、所謂尊信といふことが出てくる。佛は慈悲であり、偽がない、神は愛であり欺かない。そこに家庭に於ける教育の根本が築かれる。それで子は子、親は親で、子は生れながらにして親に對する尊信の念をもつてゐる。親が愛してくれようが、くれまいが兎に角信じてゐる。親心は子供が善からうが悪からうが愛するのである。そこに何等交換的なものはない。尊信し來れば尙更可愛くなる。そしてその信頼に反かないやうにする。そこで家にあつては、その本は父母である。學校の本は何であるかそれは教師である。一は親子の關係、一は師弟の關係である。教師は受持の子供を萬遍に愛する。出来るものも出来ないものも愛する。依怙負はない。出来なければ出来ない程可哀相である。凡て子供に對して駈引がない。言行一致でなければならぬ。



一方生徒は學校に入る時先生に對して尊信の念を持つてゐる。併し親に對する程にないから、骨を折らなければならぬ。又尊信して呉れぬと教師の方も親程の心は起らないが、そこに矢張り人間の意志、人爲いふものがある。親程にはなれないとも、あるべきものとして努めて行くのである。併し家を學校と同じものであるべきだとも云ふのではない。親子の間と師弟の間はいくらか異なつてゐる。家の方は愛する、育てる方が主である。學校の方では主として知識を教へる方である。家にあつてはあまり嚴重にしないが學校では規律を重んじ凡てが嚴肅である、師は嚴であり親は寛であり慈であるといふやうな區別を立てなければならぬ。師弟の情誼とは同一なものとは言へない。然しながら從來の農村に於ける教育の状況を見るに、學校は只字を教へる所である知識を授ける所であるといふ感じが濃厚であつた。法則堅め規律一片で、そこには何等の溫味のない教育であつた。悪くいへば知識の切り賣りと云つた心地がした。教室は教師と生徒の冷たい寄合で一日を終り劃一機會的に細目や教案通り、しやべつて済ますと云つた様子が多かつた。こんなことで眞の教育は出来るものではない。家庭と學校、親と教師、親子の間柄と子弟の間柄は元より同一ではないが、從來の學校教育が家庭教育の美点長所を忘れすぎたといつてもよい。即ち母心の教育が足りなかつた。親は愛し兒を安んじて學校に出し、教師は自分の子として預かつたのだから自然そこに親心としての教育が出来なければならぬ。子供等のために教師は全力をさ、けてつくさねばならぬ。それが親が子に對すると同じであるべきである。親が子を育てるにはなみ大抵の苦心ではない。母の涙が子供の心にくひ入つて不良兒を改心させ、遅鈍兒を發奮させた感激談はいくらでもある。この母のもつ涙を教師はまたねばならぬ。親が家庭に於て子供に教へることは教へんとしての有意的な場合よりも、無意識な感化と家風といふ力によるこゝが主である。親の言語、動作、禮儀、信仰、家業に熱心な姿、質素、儉約等の一々が子供にはたえず強い感化を及ぼし、嚴格な、節制のある戸主を尊敬し、喜愛を共にし、和氣の溢れる家風が如何に子供に刻まれつゝあることか。教師の心の奥底に藏する思想やこれの表はれが

生活に影響するこゝの大なることを旨とし、校風が生徒に與へる教育の力の威大なるこゝに、深く注意しなければならぬ。そして丁度これと反對な悪い感化の偉大なるこゝも勿論で、この家庭の力の根本的な部分を學校教育に於ては今日より以上に取り入れて眞の人格教育、人間らしい人間を作り上げねばならぬ。親が子に教へるのは、子にさせ傍らで監督するといふ立場ではない。自ら先にたつて實行し子に見習はせるのである。子と共にするのである。子は親の仕振りを見て自然に悟り覺えるのである。學校に於ける教育の形式は、この家庭の形をより多く取り入れ、現在の子供にさせて監督の位置に立つ場合をより少くして、自ら生徒と共に行者の地位にあつて行者としての態度によつて生徒を率ひて行く事を多くせねばならぬ。農村に於ける家庭は、都市の家庭よりも、概して家庭的に恵まれてゐる。それは農業といふ職業に對して一家共々に働き年中起居行動を共にすることが出来るからである。都市は職業が分化して上流の階級は別として中以下特に下層の階級にあつては父母各々その業を別にし、中にはその子が幾日もつゝいて父母の顔を見ないといつた家庭がある。然し乍ら農村の家庭は行動苦樂を共にし家庭生活には恵まれて居ても、家庭教育といふ点に於てその熱心に於て、理解に於て、教育力に於て、都市の家庭よりも劣つて居ると云つてもよい。特に經濟的に窮迫せる現下に於ては、父も母も子供の爲めに家庭教育に注意し、行届いた躰や保護も與へる餘力が乏しい。それよりも生活そのものに追はれてゐるのこゝ、一面には教育に對する理解が乏しい。教育は學校がするもの、學校へ出して置けば子供は立派に教育して貰へるものと思へてゐるものが多い。茲に於て農村教育としてはまづこの家庭教育の原理を學校により多分取り入れて母心の教育をすること、他面家庭教育の缺陷を補ふと云ふ一つの部分が生じて來た譯である。従つて家庭的な躰と云つた方面の教育も學校に於て充分なさなければならぬと共に身體の保護衛生上の注意、容儀服裝養護等に於ける家庭に於てなさるべき点にまで及ぼさねばならぬ。かくして學校は嚴格な知識的な教育所でもあるが同時に慈愛に満ちた家庭でもなければならぬ。教師は生徒に對して教師としての獨自の存



在であると共に生みの親でなければならぬ。この意味に於て農村教育はより深く家庭化されねばならないのである。

## 第二節 農村教育建設としての教科經營策

農村に於ける學校教育に於ては、特殊なる經營によつてその効果をあげ得る部分が可成あるが、小學校並に補習學校の前期等に於ては已に定つた教科といふものがある。その教科を通して教育さるゝ部面は蓋し學校教育の大部を領してゐるものである。従つて農村學校に於ける教科の經營といふことは、農村學校教育の死活に關するもの云つてもよい。この教科を通して如何に農村子弟を教育するかと云ふ研究施設は、農村教育に於ける頗る重要な地位を占むるものである。現行の教科並に教科書は大體文部省に於て一定され、何れの地方何れの人間にも共通なる教材が盛られてゐる。勿論國民教育といふ意味から之を見れば、寧ろ當然のこゝであるけれども一面から見るに不適當な教材が少くないから農村に最も適切なる教材を選び、その他のものは割愛して眞に農村生活に即するやう取扱ふべきである。即ち教材の地方化といふこゝである。而して教材に於て夫々教育的使命を有するものであるが、その使命を單に一般的共通的に考へずその教科の有する使命中最も農村民の啓培に必要な事項を重點として經營すべきである。以下農村教育に於て各科經營上特に留意すべき事項をのべてみる事とする。

**修身科** 修身科に於ては國體觀念を明かにし、國民道德の根本精神を會得せしむるこゝは勿論であるが、特に國民思想の徑路を明かにするに努め、國民思想史を取扱ふことが必要であると思ふ。修身科が従來一般的抽象的な規範科學として取扱はれたがため、單に片々たる知識として腦裡に止まるに過ぎず、實踐的人格を陶冶するに貢獻することが微弱であつた事は遺憾である。農村教育に於ては農民生活の現狀の上に立脚し、農民道德の問題、農村社會生活の問題について適切なる指導を加ふるこゝに努めねばならぬ。農村生徒として如何に生活すべきか、如何に環境に處すべきか如何なる農民となるこゝが國家に忠實なる所以か、等の農村独自の人生觀を體驗させるために實踐的科學とし

ての修身科の一面に努力して單に人間の人格を高める丈でなく、農民的に高めるこゝが肝要である。就中感謝、報恩、堅忍、持久、質實剛健、自治等の諸徳について農村生活を通して之が徹底を期せねばならぬ。

**國語科** 國語科教育では自ら二つの使命がある。一つは國民精神の涵養であり、一つは言語陶冶である。丁抹が文學は母國語に分けてゐるのは實にこの精神に基くものである。國語教育に於て國民精神の陶冶を期するこゝもこゝよりであるが、更に一步を進めて國民教育の基調となるべき郷土精神農村精神を涵養することが先決問題である。農民文藝によつて、豊かな且つ活のある郷土精神を培ひ、土に生きるの幸福を了得する精神を育むこゝは、國語教育の重要な任務でなければならぬ。この意味に於て農村用讀本が編纂されてゐるのであるが、實際に全國農村學校の半数以上が未だ使用してゐないといふことは寧ろ不思議でならない。國語に於ては現代語を用ふるこゝ固より異論はないが今日の時局から推して考ふれば、民族精神の顯揚日本精神の復歸よりして古典を重視する必要ありとなすものである。世相の弊害を眞に矯正し、特に崩壊せんとする日本の精神界を救ふは、古典の包藏する精神力によるこゝが必要である、故に現代文に交ふるに古典抄本を以てするこゝは國民精神涵養上大切なこゝ、信するものである。

**算術科** 算術科に於ては數の觀念及び計算能力を養ふことは極めて必要なこゝである。農村生徒の生活に縁遠い思考的難問たるに止まるが如きものは割愛すべきである。農村生活に即したる問題を最も多く課し、例へば丁抹の學校の如く四則問題を最も多く完全に徹底させ而かも農村に關する事實問題を多く取扱ひ農村經濟及び農家會計等について最も堪能なる能力を得しめてゐるが、大いに参考すべきである。

**歴史科** 歴史科に於ては本課は國民精神の涵養上極めて重要な地位を占めることは、事新しく言ふまでもない。従來の國史教育が、主として史實の講演に終り戰爭史の敘述に惰した傾向があつた。國史は民族の傳統的精神の脈打つ生命の記録である。この意味に於て現在の國史よりも一層民族發展史文化史と言つた方面に意を用ふべきである。



特に郷土愛を醸生する郷土史の取扱に充分なる注意を拂ひこれが徹底を期しわが郷土の歴史を知り、わが農村郷土を愛しその向上發展に貢献せんことを志を養ひ進んで愛國心の啓培に發展せしむべきである。特にわが國が農國日本として立國の大本を農に置き古來より皇室と農業には寔に深き關係にあり、日本の精神文化が農より生れいで農に育まれ農に發展し來た理由をよく理解せしめ、農國民としての責務を感ぜしめなくてはならぬ。

地理科 地理科については國史科と互に連絡して郷土史と共に地理を重視し、わが國の産業經濟貿易に對する地理的關係を明かにすると共に農村郷土地理的認識を得しめ愛國心の根底たる愛郷心の啓培に努むべきである。世界列國の國情國勢國際關係等は、わが國そのものを認識せしむる上に於て第一義的に知らしめて置くべきである。

理科 理科教育に於ては一面には農業の科學的素地を與へ、一面には自然を研究して之を知り之に對する愛を培養し、子供や青年と自然とを結合して、偉大なる人生觀を築き上げることが任務でなくてはならぬ。従つて植物の栽培採集、動物の飼育、氣界の觀測等農村の自然に接觸せしめることに努め、自らこれに接觸することに於て不可思議なる機能生活の眞髓にふれしめなくてはならぬ。理科教授が教室の中で知識の傳達に終るるか、直接兒童の生活にもふれないで理論に終るといふが如き理科教授は、農村兒童に益する事は極めて尠ない。亦その設備に於ても主に物理化學に偏してゐる現在の有様はよろしく改善して博物に關する設備の充實を期することに肝要である。

圖畫、唱歌 圖畫唱歌等の藝術的教科に於ては、現在墮してゐる享樂氣分ではならぬ。亦同時に高尚にすぎず農村の藝術的段階とかけはなれてゐるものでも効果は少ない。農村子弟の離村の原因が經濟的方面よりも素よりあるが、一面に於ては農村は興味乾燥であつてかれらの生活に輝きもなく露もなく、寂寞さにたへかねて華かな都會に集中せんとするものも大きな理由の一つである。農村の子弟と雖も本來美に對する感受性は具有してゐる。美しい物美しい音妙なる調子に對しては快美の感を起すものである。たとひ現在美に對して盲目であつてもたえずふれる事によつて

必ず目醒めてくるに相違ない。

目醒めてくれればそれを欲求してくる様になり、欲求に對する努力となるであらう。その努力が必然的に彼等の生活を創造し、かくてかれらのすべてがその生活に適合するやうに改められるであらう。そこに農村生活の藝術化が生ずるのである。今日の農民を救ふ一面はかれらの最も渴してゐる藝術生活をもつて豊富にしてやることである。そこに農村文化の向上發展がある。その意味に於て圖畫唱歌が農村教育の上に有する地位は偉大なものと言はねばならぬ。就中音樂は最も普遍性に富み且つ何人も親しみ易い。これによつてかれらの生活を豊富にすると共に、國民性の陶冶に資し、郷土愛を培ふべく農民音樂としての優れた歌曲を供給せねばならぬ。之と同時に農村独自の環境の内に出來てゐる在來民謡小唄その他の歌曲に對しては大いに之を尊重して、時代の進歩に適應せぬものは適當に改善して行かねばならぬ。従來の學校唱歌が農村に生れた音樂と云ふものも全く離れた學校で歌ふものもが全然別物で其の間何等の關係がないのでは農民音樂の向上發展を期して藝術生活に貢献することが出來ない。故にかれらの聽覺に訴へてその美を味ふ程度のものたること、かれらの心情に相應しい歌詞、歌曲の質にも留意して適するものを供給せなければならぬ。之と同時に、文化的設備をなして子供達にその設備利用一般農民にもこれが恩恵に浴し得るやうに考へらるべきである。例へば音樂室を設けて各種の樂器を彼等の使用に任せ、高尚なる音樂を與へてかれら自らに歌はせる様にして、その趣味を向上させることである。

體操科 體操科の教授に於ては、單なる體育熱にうかされたり競技の流行を追つたりするのではなくて、眞摯なる農民體育向上のために行はるべきである。亦意志の陶冶は肉體の鍛鍊から入るのが最も効果的であるから武士道の精神を傳へた武道と新興の體育は相並んで振興し、共に意志の陶冶に資すべきである。農村に於ける子供は都會の子供の如く運動不足といふ様なことはない。唯かれらの多くは不規律な生活と不健全なる遊戯とに終始してゐる。従つて



不均衡な身體の所有者が可成多い。且つ精神的にも動作が鈍重で敏活な規律にかけてゐる。これらを學校體育に於て矯正して訓練しなくてはならぬ。

手工科 手工科の教授に於て筋肉的な工作練習をなし、兒童の創造性を涵養するのは勿論であるが、一面藝術教育として人格陶冶上の價值を重視すべきである。藝術的の味のない一つの教科から工夫して工作して美しいもの役立つものより價值の高いものを産みだす所の仕事は高められた一つの藝術である。この藝術教育の上に更に一つ農村教育としては製作そのものが單なる創造性を満足させ藝術生活をさせた云ふだけでは足りない。むしろその製作創造は實用的な生産道德の陶冶でありたいものである。農村には手工教材としてはいくらでもある。この農村の手工的副業とよく連絡をとり教育と實用を兼ねるものが教材として適當である。藁細工、竹細工、等その他木工に於ても、金工に於ても農家の小道具簡易なる農具、家具類にしても農家の小道具等その土地々々の産業、自然の狀態に依つて、獨自な細目によつて目的は達し得られる、そして農家經濟に於ける自給自足の素地を養ひ、利用厚生の觀念を強め、農業、産業の改善發達に貢献せんとする精神と技能の基礎を作らなくてはならぬ。その他家事農業等については別に詳説する考である。

### 第三節 實科教科目の尊重

職業的教材が陶冶材として、普通教育に導入され高唱されてから已に數年を経過してゐる。我々が職業的教材を尊重し之を普通教育に導入するにはそれが人間形成の陶冶材として特殊の意味があるからである。蓋し人間形成の一要件は與へられたる材料が教育されるもの、生命感情を直接生動させる力を有つてゐることである。然るに材料が内に一般的なものを含みつゝ、それ自身充分具體性を具へてゐることを要する。今農村に於ける農業科又手工教科裁縫科の如きを見るに、それは社會に於ける人間生活形式を内に包むいふ意味に於て教育上充分一般の意味を有つ上にそ

れ等の職業は決して抽象的な生活様式ではなく、あくまでも具體的な生活形式である。かく一面に具體的の意味を藏し、一面に抽象的一般的陶冶を有つ教育的意味があるのである。農村に於ては多くの場合大多數の者が農業といふ職業に従事して古來日本人の手先の器用といふ點から農業的な又副業的な手工があり、又女子として家事裁縫に従事することは農村女子の通的な生活形式である。職業は生活形式の自己限定として成立するといふことを意味する。恰も櫻の花が花さいふ抽象物の自己限定として具體的に存在する花である如く、農業は人間の生活形式としての職業として農村に於ける一般者の自己限定として具體的に存在する生活形式である。世には單に花といふものはなく必ず櫻の花か菊の花さか存在するものである。之と同様に世に單に生活形式といふものはなく、存在する生活形式は個々特殊の職業である。さうして教育に職業的教材を取り入れてこれを高唱するといふことは、教育が抽象的一般より具體的個物への方向を辿ることによつて、教育に眞の生命を與へることである。惟ふに個々特殊の個物が單なる抽象的一般概念を以てしては計り難きものを具現してゐると同時に、個々特殊の職業は單なる抽象的一般を含み且つ之を自ら統一する。此の意味に於て個物は却つて眞の一般をも考へられる。アリストテレスやフレイベルが、個物を以て眞の一般を考へたのも決して偶然ではない。たゞ個物が一般を含むいふても、その一般は決して抽象的一般であるのではなく、それは反つて抽象的一般を特殊化の方面に向つて最後の進めたものである。生活形式に於ける抽象的一般に對する個物と見るべき職業的教材が陶冶材として生命を有つのもそれが生活形式を特殊化の方向に向つて最後のにすゝめたものであるからである。職業的實科教材が普通教育上に有つ陶冶的意義は以上のぶるが如くであると考へる。然るに世には職業的實科教材が有つ陶冶意義を解して直ちに實用にありとするものが少くない。そこで人々は職業教育に於ける職業的實科教科を普通教育に於ける職業的實科教科との教育的意義を明かにすることを要する。職業教育に於ける職業的實科教科は何よりもまづ經濟的價值を生産する技術であるが、普通教育に於ける職業的實科



教科はあくまでも人間形成の原理でなくてはならぬ。人間形成の原理としての職業的實科教科は已にのべたる如く、職業が抽象的一般としての生活形式の特殊化としての充分具體性を有する。それ故に被教育者の意識の觸發と發展とに對して眞の直觀力と生動性を有つ處にある。我々は同一材料もそれを統一する立場の相違によつて、それが現はしてくる意味の根本的に變容されることを忘れることは出来ない。同じ谷間の水も蛇がのめば毒となり、牛之をのめば乳となることは華嚴經にもある如くである。同じ水が或は毒となり、或は乳となるのもたゞ／＼それを攝取し統一する立場の相違による。もし世に與へられたる客觀的材料が一切を規定するに信するものがあるとするれば、それはヘルバルトも謂ふ如く教育的唯物論がある。材料は決して最後の意味を規定するものではない。同じ職業的實科的教科が經濟的價值を生産する技術でもあれば又人間形成の原理でもある。かく考へて我々が農村教育に於て職業的實科的教科である農業、手工、裁縫、家事などの教科を尊重しこれを強調するのは、教育を口から手へ即効教育たらしめる爲ではなくて、就中まづあまりに抽象的でありあまりに形式的であつたために目的を達することの出来なかつた舊時の農村教育を具體的内容たらしめることによつて生命を附與し、以て人間形成といふ普通教育本來の使命を果さんとするものである。農村普通教育に於ける職業的實科的教科の尊重は實用のためではなくて、人間形成といふ一般的陶冶のためである。然して農村に於ける普通教育に於て生徒各自の職業に對する決定的な自覺を與へ終る農村に於て農業に従事するものを收容指導する補習學校に至らば自ら農業科手工科などに對する立場は變じて漸次職業教育としての取扱ひとなり遂に多大の領域を占むるに至るもので補習教育以後に於ける農村教育として大いに努力さるべき部分である。就中農業は内に一般的なるものを含みつ、それ自身充分具體性を有し、農村に於ける具體的な生活形式である。即ち農村に於ける陶冶財として具體的一般なる内容を有するものであるから之を度外しては農村教育は出来なかつてよい。農村普通教育に於て農業科の有つ意義は誠に重大である。この農業科は各教科の内によく織り込ま

れ獨特な農村生活形式の下に於て本科の有つ陶冶力が遺憾なく發揮されなくてはならぬ。吾人は今後建設さるべき農村教育としては農業科中心の教育でなければならぬと極言するものである。

#### 第四節 農村教育に於ける職業指導

##### 一、職業指導の沿革

わが國職業指導第一期計畫は一昨年度で終つた。その間は職業指導の重要性を宣傳高調する時代で小學校に職業指導をいれることに全力を傾注した時代である。一方又基礎を確立し充分活動し得る準備時代であつた第二期の計畫は一昨年度に始まり中等學校以上の教育に取入れる組織實施の時代として居る。次の計畫は全國的の職業指導網を大成せんとするにあつた。これが國家有識者指導者の共鳴努力の如何によつて一年早ければ早いだけ、國家全體に貢獻する度合をより多く増す所以である。これは資本家と労働者、都市と農村とを問はず國家的の大運動であつて事實は豫定の如く進展して來たのである。職業指導に關する訓令は水野鍊太郎氏が文部大臣たりし時代に發せられ、三萬五千圓の豫算は田中隆三氏が文部大臣なりし時代に制定せられ更に鳩山前文部大臣は貴族院に於ける答辯の中にも最近の學務部長會議に於ける訓辭の始めにも、大いに此の運動の重要性を鼓吹せられ、大日本職業指導協會の資金募集にも援助してゐる。實業界に於ても有力者がこの運動の重要性を認めて來て有形的の援助に努力してゐるので此の運動の將來は前途洋々たるものがある。尙文部省内の職業指導調査委員會に於ては十數回の會合をなし、國策としての指導案を協定しつゝ、あるの現狀である。兒童のみならず青少年並に國民一般の健康指導は職業指導の基礎であるから、關係團體、各協會と力を合せ、青年日本、職業日本建設のため傳統を離れ、習慣を合理化し教育上に經濟上に産業上に貢獻し日本特有の能力を發揮し、より一層合理化せられたる文化を次代に引きつぐため一層の努力をいたしたいものである。由來職業指導は都市たると農村たるとを問はず、此を行ふべきである。然るに我が國職業指導は都市を中心



として發達した關係上、與へられたる實施項目を農村に於て實施することになる。これ都市と農村とに社會上、經濟上種々なる差異が存するからである。従つて農村には農村としての独自の職業指導を要すると共に職業指導が高唱せられ一般に必要性を認めらるゝに従ひ、從來都市に比しておかれて居た農村職業指導は今後益々その重要性を加ふることは言を俟たない。第一農村人口の都市人口に對する割合から見ても、農村の小學校の卒業生は總數の半分以上を占めて居る。この點に於ても重要な地位を有するものと認められる。都市には都市生存競争或は都市的淘汰作用が行はれ、都市は絶えず下層階級に轉落しつゝある。ある見られらるゝが、都市には有能新鮮にして濺刺たる労働力生産力を供給するのが農村人であるから、國家文化の發展産業の發達將又都市の發展といふ点からみても農村職業指導は主要な意義を有するのである。一面農村自體の現状を見るに、その内容の優良人口はさう離村して都市に集中し劣弱者が農村に残りその結果農村自體の文化的發展、産業的興隆に弾力性創造性がなくて農村疲弊の要因をなして居るのであるから、農村の人的資源と農村の實情に應じて職業指導をすることは農村更生の上から見ても重要な價值を有するもので此の後に於ける農村職業指導は指導國家的全體的に實に必要かくべからざるものといはねばならぬと信ずる。

## 二、農村職業問題

農村職業問題は都會地のそれと種々な點に於て異なる。都市と農村とは文化の發展産業の發達の程度が異なる。従つて職業の分岐や職業經營の形態や經濟生活の特徴や職業問題の特色を見るに次の通りである。

第一の特色として農村の經濟生活は都市に比して自給自足主義的な傾向が多い。殊に最近の農村不況の對策として農村を斷然自給自足の經濟に歸さうとする主張はかなりある。即ち「農村に於て自分で作つたものを自分で消費する」といふ原則を實行するがよい。そして生活を豊富にするためには自分で織り豚なぎを飼ふがよい。自分で作つて自分

で食ひ、自分で着自分で飲むことだ、そして自分は錢を出して物を買はぬことである。そうするなら農村は救はれることである」と説く人がある。實際十數年前までは風呂に入るに手拭を使つたり齒磨に鹽を使ひ、粟を喰ひ稗を喰ひ大根飯、芋飯を喰ひ、野良に行くに靴をはかず草鞋をはき、自轉車は愚かテック／＼歩き、巻煙草を喫はずに煙管を使ひ、反物をかはずに自家製の衣物を着、帽子を被らずに編笠を被り西洋料理を食はず採つた魚の煮付で満足し電燈なくランプを使ひ、旅行するにも汽車にのらず自轉車にのらずテック／＼歩いたものだ。嚴密に自給自足經濟とは行かぬが今日の程度に比しては遙かに自給自足の經濟をやつてゐた。農村の自給自足の經濟はきはめて安定で都市經濟に比して非常な強味がある。今日の農村が餘りに都會化しすべて生産を營利化し自分で喰ふべきものまで貨幣化せざるを得ない様な事情が今日の農村不況を馴致した。時には自給自足經濟に對しては他面非常な反對がある。即ち「今日の經濟及び技術の發達して來た段階を無視する時代錯誤の論である。都市には幾十萬幾百萬人の人々が群集して居るが自らは農業を自分で營み得ないではないか、農民が澤山の農産物を作り都會地民に賣ることは農民の社會に對する使命ではないか。又都市が資本の力と秀れた技術により品物を大量に安く生産するのを止めさせて農民が生産するとなればそれは社會的に見ると労働の愚かな浪費ではないか。もし嚴格に自給自足の經濟を強制するならば都市經濟生活は破壊し、農民より文化生活を奪ふことになり、社會をして中世紀に逆轉せしむることになるではないか」と批評する、のである。農村自給自足の經濟に對しては以上の様な批評が存するが、さりとて農民が純然たる營利的觀念のもとに利潤獲得を目的として生産するに於ては市況の變遷によりその生活を脅かされる危険多く、都市の様一つの産業は悪いが他の産業は良いといふ様なことがなく、いざ不作とか過剰生産とかいふことになるや産業が單純なる打撃が強く失業と飢餓に襲はるゝことはむしろ都市労働者よりもいふ場合はあり得る。従つて以上の見解から農村經濟は自給自足でもいけない。營利本位利潤獲得經濟でもいけないといふことになる。惟ふに農村經濟の強



味は自給自足をなし得る處にあるがさりとて交換經濟の中に入りすぎる處にも弱味がある。現代の様に分業の下に社會が動いてゐる以上交換經濟を否定する譯には參らぬ。否定すれば都市産業の破壊である。

従つて農村を維持するには第一に農業經營を利潤獲得本位でなく農村自體の厚生本位で行はるべく、第二に農村經濟には農村生活維持に必要な最少限度の物資は必ず自ら生産し都市生産品を必要とする場合はその生産の餘剰を賣却し得た貨幣量の範圍内で之を獲得するといふ原則を確立せねばなるまい。即ち自分で喰ふ支は必ず自分で作り決して他から買ふ様なことはなく肥料代や衣服代や教育費や文化費はそのあまつた生産物を賣る範圍内で支拂することにし必ず要する場合は買ふことにしないで自分で作ることにせねばなるまい。換言すれば、農村經濟に於ては生存に最少限度の自給自足の經濟を維持し過剰生産物の範圍内で流通經濟と交渉を持つといふ原則を樹立し、都市經濟による影響を出来る丈少くし農村經濟の獨自性を發揮すべきものであらう。従つて農村職業指導に於ては兒童をして此の如き經濟生活の特殊性を都市經濟生活に對する優越性を明白に認識せしめねばなるまい。又兒童をして如此理會の下に農村精神の啓培に努めねばならぬ。第二の特色として農村社會は都市社會に比して協同を要すべき点多く社會的結合力も強い。惟ふに農村社會の人々は生れおちて死ぬまで地域的經濟的公民的にもきはめて關係が深いから社會的拍束力も結合力も都會に比してきはめて強い。従つて農村をして眞に共同社會たらしむるに於ては農村民のあらゆる活動は協同的に行はねばならぬ。否協同なくして農村が存續できぬといふことになる。従つて農村職業指導に於て兒童をして共同社會の一員としての性能も考慮し、盛んなる協力心を兒童の心の中に啓培せねばなるまいと思ふ。

第三の特色として農村の職業は都會のそれに比して同性質に富むのである。従來農村は自給自足の經濟を営んでゐた。此の自給經濟に於ては大體農村が獨立して社會生活を營むのであるから、その中には種々なる職業をもつた人が居ることが必要であつた。今日に比しては職業の種類は少くあつたが、農村といふ獨立な社會を作るためには大體に

於て種々なる職業を營むものが居た。鍛冶屋も居れば桶屋もある。土工もあれば左官もある。呉服屋もある。米屋も酒屋もある八百屋もあるといった様に職業上から見ると農村は可なり複雑なものであつた。ところが都市の發達により農産物が高く販賣せられた。交通の發達により農村と都會とは時間的に非常に近くなつた。都會地に商工業が發達して農村の小工業は亡んで農村から逃避して益々都會に集中した。残つた農村人には分業的に有利な農業にその勞働を集中した。今日でも農村に多少の小工業者はある。鍛冶屋もあれば大工もある併し之はごく少數であり昔の様に賑かものでもない、又その數はごく少數であるが、醫者などの知識階級があるが此等の人々は農村を支配する支の力をもつて居らぬし、それ丈の人數も居らぬ。農村生活に對し主動的な力を有するものは農業に従事してゐる人である。従つて今日の農村の職業生活は昔程複雑ではない。單純になつてきて大部分が農業に従事してゐるものであり都市と異り自營職業が多い。即ち農村の職業關係は同性質にみんでゐるこが見ることが出来る。

更に農村に於ては教育の方から見るに大體は普通教育を受けて居る。中には農學校やその他の中等學校を出たものもあるが高等教育や専門學校を了へた醫者の様な職業を除いては農村にしまらず都會へいつて其地の住民になつてゐる。従つて農村の人々は多少の例外を除いては大體教育程度も同一で都會地の人々に比するに知識技能も略平均してゐる。以上の様に農村の職業は同性質を多分に帯びて居る。従つて農村に留るものに對する職業指導は都市のそれと異なる取扱をせねばならぬ。農業を營むものを主として考慮せねばならぬがそれ丈の点で職業選擇の基準にしてはならぬ。農村も一の社會であるから社會としての必要な性能を發揮せしめねばならぬから農業にも適當であると共に農村共同社會の一員としての性能も有たねばならぬ譯と思ふ。

### 三、農村職業指導原理

農村に於ける兒童生活を如何なる原理の下に指導するかといふことは見地により種々の主張がある。その一として



只兒童の個性ばかりに着目して兒童の個性によりそれに應じて職業指導を施さんとする主張で個性本位主義の指導とも云ふべきものである。職業指導の目標が兒童の個性を尊重し、その個性を伸長せしめて職業にまで結び付けんとする要求である点に於ては儘かに眞理が存する。然しこの個性本位論には又大なる缺点を見出すものである。農村の將來を考へず、國家の平衡的發展を考慮に入れず、唯々兒童の個性丈を見て適職へ指導せんか若し兒童の個性が農業を營むに餘り高い智能を有して居たならば或は精神勞働方面に指導するとか、都會向きの就職口を見出して指導するといった調子になつて、比較的良質の兒童は農村を去つて都會地に吸収され、さなきだに低級無能のもの、み残りんとする傾向を一層助長させ農村の疲弊を倍加させることになる。又他の一面には農村に於ける職業指導といへば農村以外の職業に對する職業を意味するもので、農業に對する職業指導は吾人が已にやり來つた處である。農業技術も農業の知識も農業經營も農業科云ふ教科に於て指導し來つたのである。従つて職業指導といへば農業以外の商工業その他の職業に對する指導であるとなす、これは都會本位の指導論であるが、これも亦大なる缺点があると思ふ。この都會本位の職業指導は現在都市に對して農村から人口を移動せしめ益々農村の荒廢を深めるものであると思はれる。抑も農村教育に於ける職業指導の中樞は小學校並に補習學校であるが此等の學校に於ける職業指導の程度は職業精神の涵養と適職發見の態度を養ふことが、第一要件で補習學校になつてから、職業に對する實質的な指導を要する上から考へて見ても、専門的な職業教育でないものだと思ふ。亦實際農村に於て複雑多岐な都會本位の職業指導が完全に出來る施設と指導者と時間があるであらうか、これに依つて見ても都會本位の職業指導は出來るものではない。然らば農村に於ける職業指導は農村本位の職業指導たるべき結論を得るのである。惟ふに現下我國の農村では人口過剰であることも勿論事實ではある、が又農村の優良分子が都會に去つて指導的な中堅的な分子が不足して居ることも事實である。若し從來と異り優良分子が農村に止まり、農業に従事するならば、農村の開發を計るに共に多角形的な經營によつて

農村に尙一層の人口抱擁力を與ふことも可能であらう。即ち農村自體の繁榮に留意し、まづ農村に農業生活を樹立する様に指導すべきであるといふ考へ方、今一つは農村本位の職業指導に於てはその素材として農業そのものに依る職業指導であるから、指導上に於ける便利と農業の本質から考へて見ても、職業指導の目標とすべきである。職業精神の涵養とか職業趣味とか勤勉力行の心情陶冶とか云つた要素は農業そのものによつて充分に目的を達することができると同時に農業には工業的方面も商業的方面も包含して居るのであるからこれによつて自己の個性を自覺する機会も與へられる可能性があり、適職發見の態度も養ひ得るのである。凡そ農業の出來ないやうなものは殆んど他の職に従事しても成功は出來ない。農業をしたがために、他の職業に妨害になることを考へらるゝ、何物もない。從來農業は都市の從屬のもの、如く考へ農村自體の文化も産業も獨立せずといふ風に見られた感がある。然しながら農村は農村としての一つの社會である。農と云ふ共同社會の發達のための農村に正しい確實な成員を充すことは農村自體の義務であり、更に進んで國家社會に人材を供給することは農村の責務であるから農村の職業指導は農村本位のものたるべきであると思ふ。

#### 四、農村職業指導の特質

農村に農村教育あり、都市に都市教育があつて夫々特質を有するに同様に農村職業指導は農村自體の特質なる性質によつて、都市に於ける職業指導とは種々なる点に於て差異がある。都市に於ける職業指導は、その對象が主として商業自由業等の子弟であるが、農村に於ける夫れは農業者子弟である。従つて兩者の環境、經驗、動作態度知識等皆異なる。次に前者は主として雇傭的職業即ち俸給生活者、資金生活者、智能的生活者に指導する場合が多いが、後者は殆んど大部分は農業を自營するものであり、一部都會地その他に職を求むるものである。従つて前者の指導に際しては職業の特質から身體精神等の部分的特徴を以て職業選擇の要件となり、個性の識別とか技能とか言つた事柄に充分の注



意を要して適職に就かしむるためには更に職業紹介を云つた部分にまで相當進んで指導しなければならず職業の種類も複雑多岐で換言すれば分化的であるといへるが、後者に於ては農村に留るものを主體としての指導であるから自然の支配を受けることが甚しいと共に、農村社會の統制を受けることが多い。従つて季節を考慮し労働の調整をはからねばならないと共に農民と共に共同しつゝ、且つ農村社會の重要な責任である自治的社會的奉仕を果しその分を負擔しつゝ、生活するのであるから自然と土地と氣候と農村社會といつた所謂全人格的統合を圖るにあらざれば正しい農業者として立つことが出来ないものであるから農村に職業生活を樹立するものに對しては單に心身の部分的特徴や特殊技能の如きものを持つて職業指導の要件とするは出来ないものである。綜合的手腕を云はるゝかみにかく人格全體家庭關係等がむしろ重要な要件となつてくるのである。いひかへれば農村に於ける職業指導は都會の分科的なるに對して綜合的であるといひうるのである。もともと農村といふものがその業態について考へるに農民は農業の内に含まれる技術も經驗も一人で處理してゆくものであつて、その内容はかなり複雑多岐なものである。特に近時さへはられる多角形的農法等考へるならば、その内容は一層複雑なもののみならず、この複雑多岐なる内容をある目標の下に彼此聯合せしめ、之を綜合統一して一つの有機的組織體即ち農業組織を作り上げその内に包含せられるきはめて複雑多岐な事項を一人で處理し、その組織體を一人で經營して行くのである點から考へても總體的な指導でなくてはならないと思ふ。更に亦農村にあるものはすべてがそのまゝ、農村に居住して農業を營むもの、みではない。農村の人口は過剰である。農村から都市へ、植民地へと發展せねばならぬから農村の職業指導に於て自ら兩者を別個のものとして指導さるべきであることは言ふまでもないことである。

##### 五、農村職業指導者

抑々職業指導は兒童生活をして職業生活を樹立せしむる様指導することである。これには二つの立場から考慮を要

する。一はたとひ貧乏であつても、日傭稼の子弟であつても、國家社會の成因として各々その處を得しめて彼等の生存を全うせしめるといふ立場、他の一つは自己の職業に對して如何にせば最も有効に訓練し得て、その持つてゐる天分を發揮せしめるかといふ立場に立つて考慮すべきものである。即ち生存權といふ倫理的立場と、勞働力の最大可及的効用化といふ經濟的見地に立つてゆくべきであるが、この目的を達成せしめるには、その根本となる職業精神の陶冶である。職業精神の内容的要素は職業の認識と勞働讚美の心情と共同奉公の精神である。この根本たる觀念を充分涵養せずして技術的、末梢的な職業指導に骨折つて見た處で何の甲斐もないのである。これには指導者たるべき教師がまづ職業精神を體得して居るこゝが先決問題である。指導者そのものが職業に對して貴賤の偏見を有するこゝか、勞働を厭ふ心情があるこゝか、犠牲奉公の至念に乏しいかといふ様なこゝで職業指導は出来るものではない。職業指導は教育である。決して事務や手續のみものではない。農村に於ける職業指導者即ち教育者が、自ら燃ゆる如き職業精神を有してこそ農村生徒は自然に感化を受けて職業を尊び職業を愛するの念慮が湧き出づるのである。わけが農村職業指導者が農業といふ職業に深い理解を有し農業を樂しみ農民生活を體驗するこゝは最も大切なことである。農事を忌み、農作的作業を賤しきものこゝ考へ、勤勞を厭ふと云つた風な指導者の下に立派な職業人の養成さるゝ道理はない。農村職業指導者はまづ忠實なる農民となることである。この信念ある百姓の指導者によつて職業指導といふ重要な教育が期待せらるゝのである。早朝から夕刻まで汗を流して働き、自ら鋤をとつて土地を耕し、終日楽しんで倦まざる精神と努力とは實に強い指導力である。その眞剣なる態度は如何なる職業の従事者に於ても根本となり原則となる職業に對する態度であり精神である。この意味に於て、指導者は自己は第一に善良なる職業人となるこゝであると思ふ。



## 第五節 四位一貫の教育

現在に於ける農村教育の體系はいはゞ誠に混沌たるものであると思ふ。即ち旗幟鮮明な而も一貫した教育方針がきまつてゐない。家庭教育に於ても個々別々で何等農村家庭教育としての色彩も見出すことが出来ない。むしろその多くは家庭教育を顧みない状態である。更に小学校教育に於て見るも全く都市教育所謂外来教育の輸入模倣であつて、一貫した特殊相を見出すことが出来ぬ。如何に國民教育とはいへ農民大衆の子弟を相手とした農村小學校にはその特質の上に立ち、農村兒童の生活に即し將來農民として大成すべき教育の特色が見出されねばならぬ筈である。しかるにある少數の恵まれたる家庭の子弟のために大多數の農家の子弟を犠牲にして上級學校の入學準備に没頭したり、學科目の平均點數を競争したり、徒らに大臣大將の英雄崇拜の教育に専念して、教へれば教へる程農業を嫌悪する子弟を養成してゐるの憾がある。亦農村教育独自の使命を忘れ、形式的規定にとらはれて、農業科が高等科になつて設けられたから、初めて農業教育をするとか、補習學校になつてから公民科があるから初めて公民教育をするものであるとか、補習學校になつて職業的な陶冶をするとか、いつた風に俄に基礎のない上へ家をたてようとする所に一貫した方針のないことが判るのである。

農村に於ける教育體系は何にしてもその大部分を占める農民大衆の子弟を對象として樹立されるべきである。中學校や高等専門の教育を受ける子弟はきはめて少數である。亦此の少數の子弟にしても我等の主張する農村教育によつて何等毒さるゝものではなく、寧ろ人間的な実行力のある弾力性の強い人間として教育さるゝ幸福をうくることになるのである。農村大衆は小學校から補習學校、青年訓練所をへて、更に農村青年として修養を遂げ、將來農業によつて身を立つるのである。然らばこの大衆子弟の進むべき道程を基本體系として經爲さるべきであるを信ずる。

吾人のいはんとする四位とは何か所謂、家庭教育、學校教育、青年教育、成人教育、即ちこれである。此の四位の

教育が一貫した教育理想の下に、心身の發達に應じ境遇の變化に従つて、各々その持前を發揮しなければならぬ。小學校に於ける農業科は、補習學校への過程であり、尋常科に於ける農業的作業や親土的施設はその心情の基礎をきづくものであり、更に家庭に於て家業たる農事に親しませ、作物や家畜愛護の精神を涵養するのはその萌芽を培ふ所以である。兒童初期の印象如何が將來を通して大切な問題である。かくしてこそ農業教育、農業を通しての職業教育が達成され卒業後職業的意識の強い青年として農事の研究改善に努め、農村の更生に貢献しうる有爲な農民たりうるのである。

凡そ首尾一貫した目標を缺く進行は多岐無駄が多くて危険なものはない。此の一貫した教育完成には、第一にその農村にじっくり當はまつた農村教育方針の確立を期さねばならぬ。その方針をよく家庭なり學校なり當局なり青年團、婦女會の各種團體が熟知し協力一致して大方針の實現に努めねばならぬ。學校が叫べば家庭に應じ且つ他は之に和すといふ風に各種の機關が協力するといつた調子の所謂全村教育となるのである。此の全村教育こそ吾人の切望してやまないものである。

## 第六節 全村教育と農村教育是の確立

農村教育に於ける特徴の一つであり且つその重點たるべきものは全村教育であらねばならぬことである。全村教育といふ意味は人によつてその解釋は種々であるが吾人の唱ふる全村教育の中には兩面の意味がふくまつてゐるものであつて、その一つは全農村民を教育の對象として農村全野を教育場と做すものである。即ち全農村民が共同の福利のために全一無限の進展を期するための社會教育施設とも云ひうべく、又農村學校教育の社會進出の施設であるといへるのである。從來の農村教育が學校といふ一樓に閉ぢこもつて門外一步も出ず廣く農村社會そのもの、教育に貢献する事の少かつた事は、大衆を目標とすべき農村教育の今後に於て是非共改訂を要すべき重要點である。その目的



は老も若きも男も女も治者も被治者も富むも貧しきも愛郷愛村の精神にもえて共存偕和の美風を全農村に作興せんことをするもので、その學風は全農民大衆を對象として、郷土に即し計畫的で総合的な教育的施設でなければならぬ。農民の品性を陶冶し智能を啓發し、公共精神を涵養して實生活に之を顯現せしめ、農村自治の發達に貢獻し、地方の産業の振興を期し共同の福利を増進するを目的とするものである。

他の一面は農民就中農村當局、有力者、各種團體の教育化といふことである。教育の本質として四圍の環境によつて陶冶さるゝ力は實に驚くべき力を有するものである。家庭を擔當する戸主並に主婦、農村内に現住する有力者各種團體が無意識の裡に、農民就中農村青年子女に與ふる感化といふものは實に偉大なものである。然るに従來此等の人々は單に自己保全のため一家經營のため或はその團體の事業遂行のための存在であつて、教育的存在であるこの自覺がなかつたのである。従つてかゝる考から中には目的のためには手段を選ばず卑悪な行爲をなし種々な罪惡が醸されて青年子女に見せつけられるといふ様な事が往々にして生じたものである。之は農村の風教、教育上に如何に大きな障害であつたらうか。茲に於て之等のものが單に事業團體とし自己保全のみの存在ではなく教育的存在としての自覺と實力を有することである。換言すれば農村の教育化といふことである。即ち神官、僧侶は單なる祈禱や葬式の司行者ではない。農民の精神的教育者としての有力なる存在たることを自覺することである。又在郷軍人會は單に招魂祭を執行したり軍人慰問救護のみを行ふ事業團體ではない。農民に對して軍人精神、忠君愛國といふ精神教育を擔任してゐるものであるといふ信念の下にすべて行動して行くことである。信用組合は單に利益のみを見て經營する事業組合ではない。組合精神共同の美風、取引の公正商業道德といった方面に於ける教育者たりといふ態度觀念の下に經營することである。一家の戸主や主婦が我が子に對して、教育はすべて學校の先生にまかせ切りで只農事に精々たるのみではなく一言一行がすべて家庭教育者であるを考へるところに家庭教育の實があり全村教育の成績があがるのである。

農村當局者が政治公民の教育者として自任し、消防組員が犧牲奉公の精神教育者なりと自覺して舉措進退することは誠に農村精神文化の發展に大なる力となるものである。かくして教育事業の尊重の念は全農村に漲り教育第一の叫びは起り根本的な精神更生が出来るのである。

然して以上のべた二方面に於ける全村教育の實施にあつては、町村當局、學校當局、農村内教化、修養産業に關する各種團體代表者、議員、區長、神職、宗教家、警官、その他はよく協同し、よく統制を保ち相互に聯絡提携して而も團體独自の使命とその特徴を發揮するに努め、教育と道德と經濟との緊密なる接合を圖つて、所謂道德經濟融合の理想郷を建設せんを努めねばならぬ。

以上のべた如く全村教育は全農民共同の力によつて理想郷の建設に努める教育であるが之が徹底には農村教育の確立と、その實現とにある。農村教育はその農村の實情に照して、傳統、歴史、自然、環境、富力、民情等種々の條件を考慮し國家教育の主旨に即しその農村独自の理想方案が樹立せられねばならぬ。

かくして前にのべた産業と教育との融合を期する教育は當然この教育に基き其の實現に向けられねばならない。従つて形式的な一般的な教育方法を排してあくまで地に即したその土地の精神を體現せる生命を有つて教育を實行せんとするにある。此の教育の樹立について一言附加し置きたい事は、只二、三の者が作製して他の多くの者はこれに引ずられるべきものでないこと、又次に立案にあつては村狀等の詳細な根本調査の下に方針が立てられなければならぬこと、作製されたものは必ず農民一般に充分徹底させて自覺ある能動的な態度でこれが實現を圖るやうにすることである。



學習園は農村教育上かくべからざる環境の一つであると思ふ。教育の思潮は種々に論ぜられてゐるが、つまる處如何にして兒童自らをして自發的に學ばしめんかにある。兒童自らをして學ばしめんためには、學ぶべき何物か、そこにあらねばならぬ。即ちなさねばならぬ様に又なせばいくらでも奥深く出来るやうに環境を作つておく必要がある。兒童の活動はかゝる環境によつ、かゝることから始まるべきである。機械器具、標本、模型、地圖、繪畫等の整備はかうした思潮上の必要條件の一つである。足一歩校の内に、ふみ入れてから、校門を出るまで遊びの時間にも正課の時間中にも、登校下校の際にも接せざらんとして自然に接してゐる校庭は又甚だ大切な環境である。然るに拘はらず從來は場所は教室、教材は教科書と限られてゐた。生きた環境を殆んど認めなかつたことは甚だ遺憾である。如何に大切な環境でもそれが死んでゐては仕方がない。此の農村教育の建設に航する教育者は須く接觸面の多い深みのある而して多様であるべき農村環境を整理創造し教育上最も効果の高い學習場に改造したいものである。茲に於て學習園の經營は新しい重大な使命を帯びてくると思ふのである。吾人の説く學習園とは自然物及び人工物を包含する校地の一園の總稱であつて、運動場も、池も、通路も、農園も、學校園も、すべて學習園内の一部である。

學校園といふ語は從來の慣用によつて花園、學級園とかのやうに校地内の特定の區劃に主として植物を栽培したものを意味したのであるが、時には校地全體をさす者がある。自分は學校園といへば慣例通りの意に解する。又學習園といへば校地全體の意に解するものである。かく言ひ來れば尤も學習園を校地内に限るこゝは學習園の空間的廣さから言ふと決して自然的なものではない。學習舞臺は校の内外によつてさしたる障壁の存するものではない。郷土こゝの環境を活用する場合が多い。そこに儼然たる障壁のあるわけのものではないが、あまりに多岐に亘るおそれもあり、一つには農村郷土そのものは所によつて甚だしく事情を異にするので校地内の施設經營についてのべるつもりである。

校庭の一地域に學習園があるのではなく、學習園の内に校舎があるのが本當であると信ずる。頭の古い持主になるこゝ、雨のもらない校舎があるこゝ教育は出来るものであると考へる向もないではない。校庭を考へるにしても茶室のお庭の様に所謂仙人めいたお庭では兒童の學習のための校庭とはまるで世界が違ふと思ふものである。教材に植物が必要なれば運動場の片隅少し位取らう」との思ひつきは誠に殊勝だがあまりに量見は小さすぎる。そんな狭い所にだけ教材があるのではない。見るものふれるものすべてが學習材料であるべきである。かよい植物は特にふまない所に培ひ、施肥し除草し霜降し株分播種、移植等が必要とするから自然特定の地域にまとめて植栽するこゝになる。之は勿論教材の重要な一局部をなしてゐるには違ひないが之が學習園の教材を考へては少し狭すぎる。吾人は思ふに學習材料といふものは理智に偏した方面だけと考へてゐる所から教材園と觀賞園を全然に別物の様に區別して經營せられるこゝもあるが、學習教材は單に花の數をか切つたり取つたりするものばかりが材料ではないと思ふ。一歩校内に入れば立ちならぶ木立や芝生が校舎の姿と照應して一種嚴肅な靈感を起さしめる態のものでありたい。地域も幽邃な綠蔭も、手入した庭木も亦觀賞植物も全部が好きな材料でなくてはならない。要するに校内の一部に學習園が經營されてゐるのではなく、校地全體が學習園であつてその學習園内に校舎が連つてゐるこゝの考の下に學習園の經營をやつて行きたいものである。

學校園について文部省の訓令に見るもその目的價值を甚だ周到に言ひ表はしてゐる。決して靜的に單に生きたる標本の陳列場の如きものとは見られ得ない。動植物の愛護育成に従事せしめることが基本となる。作業的のものを重視し、理智的にも藝術的にも訓練上にも體育上にも殆んどあらゆる教育の機會をしようとするのである。しかるに實施された多くの學校園を見るに、多くは靜的な實物の陳列場が主目的になつてゐて出て來たら見せようと言つた消極的



な學校園も勿論必要には違ひないが、それは學習園の目的の上から見て、ほんの一小局面にすぎない經營といつてよい。按ずるに生氣あふる、學習の場所であるべき學校園が右の如き有様になるのは、指導者が一見立派に揃つてゐるのを見て成績あがるものと認め、眞に兒童が蒔えたり植ゑたりして其の育成上従事し土に親しみ勞作に熱中してゐる教育場面を知らないで、ある瞬間の結果だけを見て評價する結果主義であるのミ公園の表花壇等と比較して淺はかにも良否を辯じたりするこゝが大きな禍をなしてゐること、思ふ。たとひその結果は上出来でなくとも、又一見同一のものばかり出来てゐなからうとも、そこに生々した生命のこもつてゐることは見逃してはならない。今の學校園の經營にもつと力を入れ、價値を認めねばならぬ事は園地を農園化するこゝである。兒童はぐんぐん生長する自己とその規を等しくする植物を等しくする植物を無上に愛し、時間も苦勞も忘れて熱心に之が保護培養に力めるものである。世の親も教師も此の兒童の自然物愛護熱の熱烈なることを利用し、僅かの指導ミ刺戟とを與へるなら如何に興味を以て事に當るであらうか。その間に自ら進んで種々の計畫考案を立て、愛護培養に努め生きたる自然物に接觸して自然の美を楽しみ、高潔なる情操を養ひ、勤勉忠實の習慣が養成されるのである。家庭に此の精神を移すときは家庭園として同様の目的をさけるもので、幼兒教育上の大切な一施設であらねばならぬと思ふ。この意味に於ける家庭園について米國のクラーク大學のホッゲ氏は

「園は幼兒教育の生命の一部たるのみならず自然の事物に對する趣味に活動せしめ活きたる觀察力をあらゆる方面に發揮せしめる最大中心たる心臓とも見るべきものである」

云々を申してゐるが味ふべきこゝだと思ふ。學習園には教材を直觀せしめる、見本園、藥草園、などの教材園や親土園、近土園、愛土園などの名稱によつて幼學年兒童の土に親しみ自然を味ひ農業的素地を養ひ生物愛護の觀念を涵養する必要がある。亦献茶園、供花園、神撰田を設けて、作りしものを神に祭り佛に供へるに至つては、敬神崇祖の念、

敬虔的な人物乃至人格陶冶上更に効果のあるこゝを疑はない。

高等科に於て農業科を教科として取扱ふに至らば、普通作物、特用作物或は獎勵すべき作物等を育成する實習地が入る。實習地になるこゝ、組織あり系統ある經營を要する。勿論その農村の特質によつて種々特相のあるこゝは言ふまでもない。蔬菜園、苗圃、水田、果樹園、桑園、藥園、花卉園、試験地、温床等必要によつて設置さるべきものである。

動物愛護の精神涵養、清潔整頓、利用厚生陶冶、飼育技術の會得のために、養雞、養兔、養豚、養魚、養蜂、養禽等飼育せしめるこゝも必要である。亦自然に親しみ、郷土農村の自然界を理解せしめるために、氣温、氣壓、雨量、日照、風向その他の氣象觀測をなさしめるこゝも有益である。農業實習に於て共同一致、公德心の涵養は共に見逃すべからざる重點である。

實業補習學校に於ては更に實習地を擴張して部落實習地、共同實習地、委託實習地等農村全野を實習地たらしむる様計畫すべきである。實習地指導の方針としては、家庭並に尋常科に於ける基礎的な時代に於ては結果主義に走らずその過程を重視して、その間に前陳の諸精神を涵養することに眼目をおくべきで、高等科並に補習學校、青年團と進むに従つて、經濟的方面を漸次濃厚にし農業經營の態度、進んで農村産業の開發伸展に資するものでなくてはならぬ。生活の態度はさこまでも眞剣に研究的に、建設的に指導しなくてはならぬ。従つて結果を重視し、利害得失を考へ、生産費の節減ミ販賣の方法の改善に資しなくてはならぬ。最後に一言附加して置くこゝは「教師は兒童の鏡なり」といふ信念の下に兒童生徒に強ひるよりもまづ教師に於て範を示すことにある。如何に勤勉であれ努力せよ、忠實でなければならぬ。勤勉は神聖なり、ミ口にしてもその實教師は「仕事があるのにテニスをやつてゐるそのそばでは言ひつけられて兒童が植物に水をやり、ある生徒は跡片付けや掃除をしてゐる」こんな調子では教育が徹底せぬのも無理がない。教師は教育戦線の第一戦に立ち一致協力し教育に邁進すべきである。教師まづ先頭に立ち兒童と共に手に



鋤をもち或は下肥を擔ひ艱難を共にしてその範を示してこそ眞の教育の目的は達し得られるのである。此の信念から教師自ら耕作する實習地が必要である。教師の實習地はあらゆる意味に於て、兒童の模範たるべきで、世に教師擔當區が兒童のそれよりも劣れるものあるのを見る場合、轉た長歎息を洩さざるを得ない。

#### 第八節 農村の生活改善と家事教育の重視

##### 一、革新すべき家事教育

従來男性の附屬物視されてゐた女性が社會的にも國家的にもその力を期待せられることは、今日より急なるはあるまい。即ち女性としての特殊性を通しての文化への貢献は、實に至大な價値を認めしむるに至つた。特に動搖せる家族制度の建直し、動力となるべきこと、新社會の單位としての家庭の再建を行ふべきことは、女性に要求する時代の大きな問題である故に、女性の特殊性を通しての教育は、きはめて重要な意義をもち、頗る必要な役目を演ずることになり、随つて家政の教育はその眞面目を充分に發揮せねばならぬ時代が到來したのである。特にわが國の大部を占むる農村の家事教育なるものは、個人的に見ても國家的に見ても、決して低迷を許されず皮相的、末梢的の舞臺に止まるを許さるべきではないのである。

現在農村に於ける家庭生活を見るに、太古そのまゝに膠着して何等の教育的勢力の及ばない部面があるかと思へば所謂生活化、現代化の名目の下に、農村の自然も地方の生活事實も無視して、單に都會化し去らしめようとする傾向もあつて全く不具者的な半身不隨的な生活が多い。生活の合理化とか、生活の經濟化とかいふ言葉は已にいひ古されて、新しい刺戟を持たない程宣傳された言葉であるが、事實農村に入つてその現状を見れば、それがされつけ、合理化され經濟化されてゐるか、亦その改善に向つて、されつけ關心を持つて努力されてゐるか、實に前途遠遠といふべきである。農村は荒廢して行きつまつた。やれ救済だ匡救だ叫んでゐるが、なしうる限りをつくしての絶對的窮乏

であるかといふに、そうでもない。まだ改善し合理化し簡易化し切り出す餘地は澤山にあるやうだ。虚飾に終り、禮儀に流れ、傳統にみらはれ、無駄な經費と時間と手間を費してゐることは、數ふるに餘りあるが、就中家事生活に最もその多きを感じるのである。これには家事生活の中心たる農村婦人の無力文盲、只傳統にみらはれて時代の進化に落伍したところによることであるが、その一因は従來此の方面の指導をなすべき家事教育者實際家の罪と申して差支はない。然るに近時こゝに目覺めた家事教育界は俄然色めき立つて、疾風迅雷の勢を以て猛進し初めた事は誠によろこばしいことであるが、その着眼と態度と限界に於て果して眞正で、失する處なき乎を想ふとき、未だ農村女子教育の振興には遺憾乍ら疑問なき能はざる處である。以下農村家事教育革新すべき點についてのべてみよう。

##### 二、農村生活を對象とした家事教育

まづ學校教育としての農村家事教育は之を小學校の高等科に於けるもの、補習學校の家事教育、女學校に於ける家事教育として見ることが出来る。

農村と都市とに於ける生活様式は著しく異つてゐる點に立脚して、今後の家事教育は農村的に實際化して行かねばならぬとする主張は、近來教育者の中心問題として論ぜられ、農村的色彩の濃い學校家事教育が見らるゝ様に至つた事はよろこばしいことである。

成程飯をたくにも洗濯をするにも、子供を育てるのも都會と農村に於て別に變つたところのあるべき筈はないやうに考へられるが、それは一般的の原則だけで、實際について見れば決して同一ではない。飯は一定の水加減と火加減により、洗濯の順序方法に於ても原則は同じである。しかし、一步進んで飯をたく燃料として都會は瓦斯や電氣によるが、農村では薪や炭による、都市は水道の便で洗濯するが農村は小川の流水や井戸水である。

従つて瓦斯、電氣による炊事、薪や炭による炊事は、自ら研究の部面が變つてくる。都市には自己の所有の家



に住むものが少ないが、農村ではこれに反する。農村では裏の畑から大根や葱をこつてきて調理するが都市では葱一本、大根一本も皆現金でもとめねばならぬ。農村では木綿着で田島の間を往來するが、都市では苦面をしても派手なものを着る人が多い。農村には農産物が大抵作られてゐるから、食品は割合に單調であり、變化をつけて、御馳走だといへば主食に工夫して變化あらしめる風があるが、都會では各地の産物が集るから、金さへ出せば何でも買へる、従つて御馳走だといつても、主に副食物に多種多様の珍らしい工夫をする。若しそれが生活感情の如きに至つては、農村の固定的で山河に親しみあるに反して、都會は移動的で住んでゐる丈が、自分の家であるといふ氣がする如きは、蓋し大ない差異である。従つて農村人は一草一木も自分を哺み育て、くれるものであるのに反して、都會人は電車の喧ましい響きと電燈の華かさに神経を尖らせてゐる。その他農村生活の特性は衣に於て住に於て育兒に於て衛生に於てのべつくせるものではないが、要するに特殊な生業の人と、そして自然環境が緊密に結合して、その生活なり人情風俗なりを醸成して、そこに一つの個性を示してゐるものである。

故にその農村社會の家庭生活を農村的に向上せしめるための家事教育であらねばならぬ。交換經濟の發達した現今の如き時勢に於ても猶且つそうである。即ち現金の支出を少なからしむることは、農村生活に於てきはめて大切なことである。その生産を食物とするところに一つの意義があり、現金の支出を少なからしめる處に、一つの特異事情がある。面してかゝる食物生活を合理的に行かうとする指導が、即ち農村に於ける食物教授であらねばならぬ。土地の生産物を食ふ生活も合理的の指導を受けることによつて、向上の一路を辿ることになるのである。

現今の家事教育はたしかにこの点までは改善されて來たこと、思ふが、未だ地方化し、農村化したといふもの、同じく農村といつても亦多種多様の生活差異がある。山村あれば漁村もある、新開地もあれば都市に接近してゐる農村もある。養蠶を主業とするもの、米麥を主業とするもの、畜産をなすもの皆夫々特殊の形態がある。その自然産業

傳統等によつて生活形式の上にも千差萬別である。農村といつても決して一樣ではない。この生活事實に即して取扱をするといふことが、農村家事教育の到達点である。即ちその村の生活事實に立ち、その兒童生活の切實なる日常生活の上立つた指導であらねばならぬ。その生活を合理化し、價値化し向上せしむるために、農村家事教育は儼然たる使命を有するものである。従つてこれには第一にその農村の實情を調査して兒童や生徒が果して、實際家庭に於て如何なる生活をなしつゝあるかを確めて、例へば彼等の卒業後實際家庭に於て生活する實情は如何なるものか、白米の飯か、麥飯か半麥か三分麥か代用食として如何なるものが用ひられるか、米の搗き方は水車搗きか機械搗きか精白か七分か麥の精白か等、その生活實際に付て指導するのてなければならぬ。一つの家事の知識技能を教へるにしても、生活し得ない事項を記憶させたからといつて、それはその生活の充實でもなければ向上でもない、一種の苦痛なる遊戲にすぎない。故に、家事の教育を本當に適切に施さうとするには、その時代の生活、その家庭に於ける生活に適切を期して行けばそれで充分である。而してその以後の教育は處女會か女子青年團か婦人會の指導にまかせてやれば充分であると思ふ。

### 三、家庭調査

農村の家事教育は現在の農村家事生活状態を改善し、よりよきものへの轉向を策し、眞に正しい農村家事文化の建設を目標させねばならぬ。只徒らに都市文化の移入は、反つて農村を害するもので、農村の文化は、農村のあるがまゝ、の中から眞に芽生えを成長し發展したものでなければならぬ。されば何をおいても、其の現状を凝視することを忘れてはならぬ。例へば

飯をたぐこを考察するとしても、白米そのものが如何なる米質のものを用ふるか、精白は如何にしてなされるか、麥の精白は如何、半麥か、三分麥か炊く鍋や竈の形は如何、土竈か、瓦製か、燃料は如何なるものを用ふるかなど、



その農村に於ての大様の有様を知悉してゐなければならぬ。

四季折々に初物として、色々な主食についての變化なき、それが農村の現状である。それを飯といへば銀色燦然たるもののみ考へて得意然として教授した處で何の効果もなさそうだが、掃除一つ考へても決して疊の上ばかりではなく、藁藎や藎を敷いた部屋のごきも考へねばならず、庭園や門先道路の掃除も考へねばならぬ。單に絨氈をのみ對照して考へるから、所謂一片の空虚な教育になつてしまふのである。家事教育の完備せるこいふ學校の家事教室を見るに、ガスストーブやガス七輪、電熱器、水道の設備まで整へ、これが一坪臺所の形式で、それが二坪それが三坪式といつて如何にも寸尺の地も千金の價値として考へられる都會の臺所そのまゝの施設をして、得意でゐるのを見ることがあるが、それも敢へて無理とはいはれないが、一步農村各戸の臺所について見れば、それは可成りに廣い土間に竈もあれば薪を置く處もある、漬物桶もあれば水がめもある。かなりに廣い茶の間、食堂といつた所謂臺所がある。此處で休息もすれば談笑もし、夜なべもするので、如何にも天地雲泥の差で、兒童が一坪臺所で習つたことが、實際生活と如何なる關係を有するものであらうか、農村家事教育に於ける問題は、この臺所を如何に利用し如何に改善し如何に合理化して行くか、問題なのである。この生活を如何に生かして行くかが教育の力を加ふべき處である。その具體的事實に即して行く以外に、農村の家事教育はないのである。故に農村の家事教育はまづその農村に於ける現状を知らねばならぬ。そしてそこに立脚するところがなければならぬ。これが家庭調査の必要とする所以である。之は住居の問題に於ても、衣服の教授に於てもこの調査の必要なることは皆同じであると思ふ。

#### 四、女子としての使命に自覺せしむること

今日學校に於て施す女性教育の終極の目的は、女性としての天分を自覺させ、その使命に向つて生涯を通じて努力精進させるこいふ強き信念を得しむることである。

學校に於ける各教科による教授も學校に於て施さるゝ訓練も、養護も畢竟この信念のもとに將來國民の一員として男性と共に國家社會に貢獻する有爲有能な女性の教養にある。その女性の天分が特に我が國に於ては男女の性によつて受持つべき領域は判然としてゐる。即ち女性は内面的に家政を司り、子女の養育を司り、老養に仕へ男性の外面的生産的の活動に對して後顧の憂なからしむる處の一面を負ふものである。従つて經濟方面から見ると男性の生産に對し女性は消費の方面である。この女性の分擔してゐる消費方面の仕事は極めて内面的であり消極的に見えるこいふ点から、女子は弱きものなりとして自ら己れを卑下し、或は男性を羨むこか、女性の司る家政に付て高次なる意義を見出し得ず、徒らに自己の使命を輕んじ、盲目的に男性に追従して、臺所生活の如きを忌むこいつた風のあるこは誠に歎すべきことである。

教育ある子女が子をそだてる事をせず、家事はこれを女中に任せ、炊事も洗濯も裁縫も子女教養も、之を人に託して、自らなさざる婦人が優れたるもの幸福なるものと考へるが如きを見、高き教育をうければうける程、その著しきを思はしむるは如何にも不思議にたへぬ。これはあやまつた社會意識を利那的思想、有閑至上の思想、勞働倦怠の最も忌むべき拜外思想から來たもので、それには從來の教育も體かにその一面の責を負ふべきだと思ふ。凡そ人生に於て己れの職分に自覺なく無意識に盲目的に餘儀なく生活する位、不幸なものはあるまい。女性には女性としての尊き天分が儼然として存在してゐる。

婦人の使命には凡そ二つの重要な方面がある。その一つは家庭に於て消費さるゝ食物、衣服、家具等、主婦の手を通じて整へらるゝ消費を司る方面と、他の一つは使用によつて生ずる價值創造の方面である、各家庭の消費が集れば一國の消費となり、その消費は生産を左右するものであるから、弱くて強い家庭婦人は實に間接に一國の生産を左右する重要な位置に立つてゐるのであると信ずる。



更にそれを家が國の一細胞である点に思ひ至るならば、女性の力が間接的に國家の進運に貢献してゐることが看破さるゝのであらう。即ち外國貿易の現状を見ては國家經濟の不安を思ひ、更に外國からの輸入品目を顧みては、これが消費を國家的見地に即すべきを考へ、國債の現状を検討しては合理的消費による餘裕剰出の急務を思ひ、人口食糧問題を沈思してはそれが對策を苦慮せざるを得ないであらう。而してかゝる國家の大事も家庭消費の合理化によつて必ず救ひ出さるべき部分の存在するを思へば、かよわき女性の腕は決して弱かるべきでないことが解る。銃劍を執つて戰場にこそ馳驅せぬが内にあつては國勢の振否に重大な關係を持つることはその價値に於て決して男子に劣るものではない。

わが國の女子がこゝに自覺せねばならぬ。而してそれは見地をかへて一個の人間として考へてみても絕對者の化身たる物資を有効に存在させ、その使命を完全に遂行させることであり、自然の恩恵を無にしないことであつて人間として算ぶべき行ひである。此の算ぶべき教育が家事科によつて企圖されねばならぬ。又使用價値の創造に至つては家庭内で創造され、家庭内で消費されるが故に、表面には表はれないが次代國民を生み育て學校へ送る準備をなし、その健康に教育に留意し、夫に後顧の憂なき保證を與へ、食物を調理し、衣服を修繕する外無数の活動を續けて人類の繁榮幸福に貢献するが故に實に尊い使命の遂行である。されば此の尊い使命を果すべき實務に直面する家事科の教育に於てその根本とするこの信念の上に生活すべき態度を養成せねばならぬ。女に生れた悲しさに臺所と針箱の周圍に一生呻吟せねばならぬとする嘆聲は蓋し尊い使命に對する自覺の足らぬ證據である。衣服の補綴も洗濯も食物の調理も食後の跡片付けも、尊き使命が宿る意味が滅められ、一舉一動が一家として社會としても國家としてもその存立を深く強くする所以であることに眞實に自覺めなくてはならぬと思ふ。

##### 五、農村家事教育の到達点

農村家事教育に於て最もその活動の部面が廣く、發展の餘地あるものは實業補習學校以後の家事科指導であらう。小學校に於ける家事科に於ては對者たる兒童が年齢に於て十三、四才で家事に對する實際的生活の部面が狭く、従つて家事に對する關心は乏しく、家庭に對しても基礎教育時代として基礎科學の學習にこそ眞劍であるが、未だ家事の方面に於ては大いした期待をかけてゐないのである。一面小學校に於ては他の教科に於て相當負擔をもつてゐる家庭にあつても復習や豫習に追はれ、農繁期なきには一家の生業たる農事の手傳も課せられ、日常家庭生活として家事の方面に學習する機會もきはめて少ないと同時に、一家經濟的生活に最も深き關係にある家事經濟の方面に就ても未だ適切な生活事實に即して指導して行くといふ点に達してゐないのである。この時代に於ける家事教育は努めて生活の事實に即せんとして、自然に抽象的の一般的な基礎工作を施し、家事に關する學習の態度を養ひ、家事に對する興味を發展的、創造的な心情を陶冶すべきで、眞にその使命を全うすべきは補習學校教育に於ける家事科の指導であらねばならぬと思ふ。

補習學校に於ける生徒は家事に従事しながら教育を受くるものであり、年齢の上から見ても主婦の片腕となつて自ら家事に従事して居るものであり、結婚育児と言つた家庭方面にも關心を有してゐる。父母も亦嫁入りの準備として炊事、裁縫、洗濯、衛生といった方面の知識と技能を要望し、自らなすべきこととして關心を有する。従つて期待と自發の態度を以て學習に従ふといふ有様である。

家事教授としてこの眞面目の發揮に於ける被教育者としての重要な要件は具備してゐるといつてもよい。同時に亦彼等はその村の子女青年會員の一人である。彼等を中心として女子青年團の指導に乗りだすことは、正に學校教育の社會進出の好機であり一面卒業生の指導にすべきは極めて大切な教育である。よく聞く話であるが、補習學校に於て家事教育の設備が不完全であつて、實習をなすことが出来ぬと、如何にも農村の補習學校として完全な設備のあ



るものは至つて少ない。それは經費の關係からであらう。地方の實狀としては、年々増加する小學校兒童のために校舎の増築や學級の増加、教員の増員を餘儀なくされ、町村の經費は補習學校のために充分に手が届かない。従つて家事科の設備の如きも後廻はしとされてゐる。農村に於てあまりに理想的に完備された設備に於ける教育は反つて不完全きはまる生徒の家庭に於ての生活指導としてはむしろ不自然であり不便利ではないかと思はれる節もある。不完全な學校の家事設備の上へ教師の工夫により、創作利用改善を施して教育を施すところに、實際家庭の家事生活に於ける改善、眞理應用の心構へ、利用厚生の眞意義をその中に學ばせることが出来るとも考へらるゝのでそこに深き教育作用の藏することを稽へるに共に學校と云ふ場所のみが教育場所と考へてはならぬ。補習教育は學校に於ける家事教育のみではない。一躍大いに社會にとび出してその村その部落を教育場と考へる点に目をつけねばならぬ。そんな村にも一軒や二軒の改善し新工夫をめぐらした臺所のない所はないと思ふ。その臺所、その家庭を教育場とし、その部落の生徒、女子青年團、婦人會員を生徒として家事教育を施すものでなくてはならぬ。教育者に人手がないと聊つてはならぬ。そんな村でも一人や二人の素人料理、産婆等の師匠株といった風の人は大概ある様である。これを補習教育者とするこも却つてよい事もある。そして補習學校の生徒を橋渡しして女子青年團、婦人會の方面に教育をのばして、地方的な實際的な地味ではあるが適切な指導をなすべきである。農村の生活改善といふことは今日の時勢から言つてきはめて切實な國家的、社會的な問題である。この生活改善なきといふことは、學校の教室で如何に熱心に説明してもそれは至つて反響の微弱なもので女子青年團、婦人會員なき中心として漸次に實行運動を起して行けば必ずや改善の緒につき農村文化の向上に資するこが出来ると確信するものである。婦人會員や女子青年會員等是一家に於ける個としては力の弱いものである。一つの村の又は部落に於ける團體としては有力な力を發揮してゐる。それにはその部落その村の先輩や有力者が後援となるからである。かくしてこれらのものを中心として、部落や村の有力者を背景として改善運動を起せば、中々頑固だつた主人も遂に納得して經費を出して臺所を改造し、衣服、衛生等と面目を一新して生活改善に向つて一步步進むこが出来る。農村家事教育は此處までゆかねば眞實のものではない。それには家事教育者の不撓不屈の熱心と村民の信望を得る人格と卓越した技倆といふこがその根柢をなすものであると信する。

#### 第九節 教育と經濟の歸一上の考慮

##### 一、教育と經濟との對立觀

農村に於ける教育と農村經濟とを兩立的に考へるものがある。特に最近經濟界の不況と農村窮迫の現狀に於て農村經濟生活の維持と教育とは兩立せざるが如き考を有するものが可成りに多いのである。これが結果として不況のため徒らにその費用の大部を占むる教育費に削減を加へたり、きはめて大切な青年教育、社會教育方面の費用をその運用が出来ないまでに減額し、その結果一時休止状態を呈するといつたものさへある。これはまことに農村教育上悲しむべきことであるが、その原因について考へるに、第一に教育といふ仕事が生産的のものであると考へる所にあると思ふ。他の産業上の投資とか設備とかは直ちに生産を増して經濟上農村を潤はしてくるが、教育事業はそれ程に目立たない。亦教育費を削減したからして教育が不可能なる譯でもなく大なる損失はならぬだらうといつた考であらうと思はれる。この考へ方に對しては父兄も村民も共に深く考へねばならぬと思ふ。元より少し位減額したからといつて直ちに教育事業がその運轉を止めるといふ譯のものではないが、その根本の思想は問題である。事實に於て現今の農村の窮迫は教育のため直接的に生じたものではない。また僅かの教育費削減位のことでは救はれる様なものでもない。不況は世界的の原因は影響し生産の過剰、購買力の減退、金輸出解禁等であるからには直接これに對する方策でなければならぬ。如何に窮すればして教育力が削減されるまでに教育費を問題とするこは前陳の



思想から出たのではあるまいか、抑々我々の人生はこれを祖先から受けて子孫に傳ふる永遠不朽の人生である。世の父母たるものは己の食を減じても子に與へ、己の衣をぬいても子を暖めんことに努めてゐる。「銀も黄金も璧も何かせん優れる寶子にしかめやも」の通り我が子有つての自分といふ考で己が子を更によきものにする爲に如何なる犠牲をも惜しまないものである。凡そ世の親が終生心勞し、働き稼ぎ蓄へるものは蓋しわが子のためである。如何に賤しい家を訪れても身に粗衣をまきひやせ細りたる親の側に丸々と肥へたる子を見るのがわが國の常態である。この家にも子の養育のために、親は身を粉にして働いて居るのであるから、この尊い人世觀の上に立つて學校教育は何を忍んでも子の教育を等閑にしてはならないといふ觀念を充分に徹底せしめねばならぬと同時に教育は大なる生産であるといふ考を持たしめたい。人生永久の發展を計るは子を育つにありて、機械や設備は人によつて仕事をするのである。その人を作るといふ仕事は根本的な生産事業で、それが作物に肥料を施した時のやうに十日や二十日で目に見えないが貴重な一義的な事業たることを理會せしめなくてはならぬ。この人生觀、教育觀の下に經濟と教育とは歸一するものである。

次にこの教育と經濟を云々する原因としては從來の教育者並に當路者の態度も一應反省して見る必要がある。今まで教育のために要した施設は眞にこの人物生産上に眞に經濟的に役立つものであるか否うか云ふことである。その施設の悉くがあまり意義をなさなかつたといふのでは勿論ないが、今少し經濟的見地から教育經費をながめたとき反省すべきものがありはしないかと思ふ。農村小學校に於て相當經費を食つた施設が眞に農村教育に役立つよりも、反つて農村を嫌惡する人を養成することになつたり、徒らに教育萬能に馳せて農村に役立つ人を作るには不都合であつたり、都市教育の模倣で農村自體の興隆發展に寄與せず、只形式外觀を飾るものに失費して教育上悪い思想を抱かせた結果になるか、一時の流行に終つてむしろ無きに優るといつたものなき、決して絶無とはいへまい。同じ設備で

もそれほど高價なものでなくても、反つて、教師や兒童の作による方が教育的に見て價值のあるものもある。これを換言すれば教育の經濟化といつた方面を大いに考究せなければならぬ。こんなことが問題になつて經費の減額なきを要求されるといふことは全く教育者の罪といはねばならぬ。如何に貧乏で困つても子供の教育には代へられぬといふ考もそのための經費は最も有用にその價值を發揮して教育的効果を收めうる經濟的のものでなければならぬ。

## 二、使用價値の創造

もの、生産には必ず一面に消費がある。消費なき處に生産なく、生産されても消費なくは無意味な生産である。消費と生産とは相關連し因果をなすことは經濟の原則である。われらが日常飲食するのは生産に對する準備であり、種々の物品や資本も消費するのは、その消費者によつて一つの價値を創造するのである。この何等の價値も創造しない消費は徒費である。我々はこの使用價値の創造といふことに深い考をもつべきである。

この考の上に於て初めて無意味な徒費を浪費をさけうるのである。教育は教育のために費さるる消費によつて、大なる價値の創造事業である。女子は此の世に於て生産事業にはあまり關與せず消費者であるとされてゐる。しかし此の女子の擔任する消費は、一家生産の上に必要な消費であつて、この消費によつて價値は創造されつゝ、あるのであるから、見方によれば儼かに女子も生産者である。價値は單に之を經濟的な手段價値のみを指す一部のものではない。人間生活の全部に亘る價値であつて、この中には知識も道德も藝術も宗教もすべて包含する、ものであると考へる。この價値創造に參與し主宰する女子が自己の責任を自覺し、強い信念の下に日々の消費に向つて努力することは今日の經濟難局を正しい方面に打開せしめる上に大切である。徒らに萎縮せしめては却つて退歩になつて眞の打開ではない。農村教育者や農民が今日の農村經濟の上に立つて、この使用價値の創造といふことに充分の理會を有するにあらざれば、農村教育は萎縮沈滞して生氣を失ふに至るのである。



### 三、農村教育の經濟的管理

前陳の通り農村教育者は農村經濟の實情に鑑み教育經營上經濟的見地から反省するに共に大いに贅費を省き出来る丈の節約を計らねばならぬが、之については公經濟に於ける根本的觀念即ち村の金であるから少々のことはいふ大ざつばな經濟觀念をとりぞくこころが必要である。自己の事なら五厘でも一錢でもといふきはよいこころでいくが、學校の經費なるに、備品の購入にも、消費の方面でも、價格が高價であつても、豫算内でさへあれば強ひて注意もしないといつたやり方は、結局それは村の人々が汗の努力によつて得た貴重な一錢であるといふ觀念がうすいためである。地方の商人が村の學校の先生は一番樂な相手だといつたこころを聞いたこころがあるが、そうかも知れない。これは校費の支出に大ざつばであるといふ證據である。教育事業そのものは着實で地味なものである。掛引や術策を弄する性質のものではない。教育費の豫算にしても必要なことを必要丈誠意を以て計上すればよいのである。従つて一錢のかけひきもあるべき筈ではない。しかし認められた豫算の運営については公明正大で嚴格なる出納記録をなして、その間些の疑點も起らないやうに處理すべきである。村の有力者やその他のものに響應したり、待合政治の如きに類した行動をとつて豫算の通過を圖るが如きは實に教育の冒瀆であるといはねばならぬ。誠に心すべきこころである。次には學校の自給自足主義である。農村生活が行詰つた原因は農村本來の自給自足主義を忘れた處にある。農村小學校が農村生活の改善を促し、農村産業振興に寄與することまでの責務を帯びてゐる以上、農村生活自體の自給自足主義に立つべきである。もよよりそれは可能な部分丈であるが、例へば家事の實習に供する蔬菜や鶏卵などは自給すること出来る。山間であれば薪もとり炭も焼くべしだと思ふ。教室用の生花材料も栽植すべく、果樹園で果實の自給も出来る。そして料理の屑や、食べ残りは之を鶏なり豚なりに與へ、その糞尿は實習地の肥料にする。農村に於ける利用厚生の觀念もその間に養へるのである。實習地の肥料も、あたりの草原からあつめて堆肥として、金肥による支出を防

ぎ、手工科に於て製作した筈が學校の備品として用ひられ、色々な工夫考案によれば猶自給自足の部面はかなりにあると思ふ。次には設備の運用といふことである。凡そ物は僅かの工夫考案で色々なこころに運用出来るものである。農家の臺所は如何、それは食堂であり、夜なべの仕事場であり、その他色々な使用される。之が農村現在の生活の姿である。學校もこれと同じで何も特別教室がないと理科や手工や唱歌の教授は出来ぬといふこころはない。一寸工作すれば色々な變へたりすることが出来るのであるから、之が使用に際しては充分の考案さへ拂へばあれない、之がないなき、仰つ理由は無い。考案の下には不自由なる敵もない筈だ。かく工夫し運用する處に農村教育の姿はあるのであると信ずる。

### 第十節 所謂綜合教育へ

農村に於ける教育の目標が農民を教養するにある以上農民生活の業態の特異性を充分見きはめねばならぬ。農民生活の業態は他の商工業とちがつて農業の中に含まれる技術も經濟も一人で處理してゐるのであつて、その内容は實に複雑多岐に亘るものである。特に近時唱導さる、多角形式農法、自給自足主義の農業等を考へるならばその内容は一層複雑なるのみならず、此の複雑多岐なる内容がある目標の下に彼我相聯絡せしめ、それを綜合統一して一つの有機的組織體、即ち農業組織を作り上げるといふこころに至つては中々困難なる仕事であるといはねばならぬ。要するに農民はその農業の中にふくまるべきはめて複雑多岐な事項を一人で處理し、その組織體を一人で運營して居るといふ現實の事實を深く認識することが最も肝要なことであると信ずる。之を他の工業なり商業なりについて見るに工業家にして自己經營をしても、會社の技術職工として生活するにしても單に一技術を擔當することによつて容易に生活しうる、様な組織になつて居り、従つて他の知識技能はきはめて常識的な補助的技術及び知識にてもさしたる苦痛を感じないのである。商業について見ても略々同様である。即ち工業、商業は單一的知識技術で立つて行くこころ出来る



ものに對して、農業は総合的技術知識を要することが一つの特徴といふべきものである。しかもわが國の如き集約的大農組織をとるこの出來ぬ國情に於て一層之を痛感するものである。

之を教育上から考へるに工業教育、商業教育に於ては單一技術なり知識の教育を目標として夫々専門的な教師が教授することが或は適當かもしれぬが、農業教育に於ては総合的な教育を目標とせねばならぬのであるから、農村に於ける教育はすべてを総合的に組織し運営することがよいと考へるものである。農村補習教育の如き一人の専任教師が中心になつて生徒を指導しつゝある現狀は甚だわが意を得たるものと思ふものである。従つて此の専任教師は教員自身が此の総合技術を充分に實行し、その組織體をよく運用しうる能力を有し以て自ら農業經營者たるの實力によつて指導して行かなければならぬ。然るに一面に於て文化が進めば進む程すべてが分科的になつて行き、農村に於ける教育の如きも分科的の主潮が高まりつゝある様に思ふ。その實例には現に農村補習學校として數ヶ村の組合立が出來つゝあるが、その組織を見るに或る教師は蔬菜、或る教師は果樹、或る教師は普通作物といった様に分科擔任の制度でやつてゐる。之にも各々その長所に基いて深く指導するといふ特點はあるが、農業の業態をはつきり把握し運用することを教授する方法としては尠なからず缺陷があると思ふ。

之では結局知識の切り賣り主義に流れて、眞實の農民としての人格的陶冶に於ても、農業技術に於ても、農民としての総合的能力を養成することは困難であると思はれる。

更に小學校教育に於ても前述の理由からして學科擔任制の如きは農村教育としては適當な組織とはいへないのである。特に小學校に於てはその教科の程度から言つても専門教育ではなく國民としての基礎教育である以上、さして専門的な知識技能を有しなくとも指導しうるものである。農業科の専科正教員でなくては農業は教授されぬと言ふ様なことでは農村の教育者としての資格はまづないといつてもよい。小學校の本科擔任の教師が農業科の研究授業な

農業については何も經驗がありませんなご、平氣で逃げて居るものなご農村教育を解せぬものなごはねばならぬ。もとより特別困難な事項に於て専門的な技能を必要とする方面に於ては、専科の教員の指導を乞はねばならぬ事もあるが、まづ一般普通の農業に於ては一通り之を心得て指導する熱意と趣味と腕前を持つてゐるものでなくてはならぬ。他の教科に於て算術にしても國語にしても理科にしても農村の兒童の生活を中心として指導して行く上に於ては、その生活は農業といふ生業を通して多くの教材が抽出されるのである。その兒童生活の中心である農業といふものに趣味もなく研究もせず何等指導することが出來ないで農村教育の面目は何處にも求める由はない。

吾人は農村教育が善良なる農民を養成するものであるからには、農村の特異性を充分認識してその上に農村教育の特異性を建設するには此の農業教育を中心とした総合教育を切望し農業科そのもの、指導に於ける教師自らが農業經營の任に當り、それを基礎として生活に総合的指導を與へるのでなかつたならばその組織の微妙さとか農民の氣持とかいつたものは生徒に映るものではないと思ふ。此の點は特に考慮を拂ふべきであると思ふ。

## 第八章 農村教育建設の重點たる農業教育に關し

### 第一節 農業教育の地位

農村はいふまでもなく村民の大多數が農業に従事してゐるのである。従つてその生活様式や文化や經濟活動や道徳觀念も、皆この農業といふ業態の上に啓培され馴致されて發展されるものである。従つて此の特徴の上に立つた教育であらねばならぬ。その特殊の業態を代表するものは、教科目としての農業科であり亦進んでは職業教育としての農業教育である。上述屢々論説して來た如く、農村教育は農村民のすべてを農民たらしめるための教育ではない。農業といふ業態を通して、農業といふ特殊な業態である環境に於て、農業の有する陶冶財を以て、國民一般陶冶を施し、



國家有爲の人材を養成するにあり、更に進んでは農村に止り、將來農村を背負ふて立つ青年に對しては、職業教育として眞に土に立ち、農民としての自覺あり、農村打開の第一線に奮闘する農民の養成にあるのである。それがためには、普通教育としての農業科の地位、職業教育に於ける農業教育の使命を判然と認識して置かねばならぬ。抑々農村普通教育に農業科を取入れるといふことは、農業教育が抽象一般より具體的個物への方向を辿ることによつて、教育の眞の生命を與へんがためである。職業的教科の尊重といふことは、その教科が人間形式のための陶冶財として特殊な意味をもつことである。人間形成の要件は與へられたる材料が教育されるもの、生命感情を直接生動させる力を有して居なければならぬと同時に、それが内に一般的なるものを包みつゝ、それ自身充分具體性を具へることを要する。農業教育は農村に於ける生活形式を内に包むといふ意味に於て、充分一般的陶冶の意味をもつ上に、抽象的生活形式ではなくて、あくまで具體的一般たる處に教育的な深い意義がある。農業科は抽象的一般概念を以てしては計り知るべからざるものを具現すると共に、農業科の内に抽象一般を含み且つそれを統一して居るのである。この意味に於て農業科は眞の一般とも考へられるのである。それを同時に農業科は人間陶冶の財として内容上に幾多の貴重なる特質がある。例へば目標が確乎として居るために努力が生ずる。そのために色々な障害を除去せんとする活動が生じることが教育の過程がきはめて明瞭であるために過程重視の教育觀に立つて頗る重寶である。農業は眞實性が強く決して欺瞞が利かぬことや、生産といふことを體驗の出来る事、口の教育でなく、智行合一の實踐教育の出来ること等皆農業のもつ一般人格陶冶の意義ある點である。郷土教育といひ、教育の地方化實際化といひ、農村に於て農業を中心とした教育のいとなまれる事は、農村教育の要諦であつて、愛農心、愛郷心、愛國心の啓培に資し、忠良なる國民養成の陶冶財として農村独自の環境に於ける農業科の地位は蓋し大なるものがあるといへるのである。

職業教育としての農業教育に於ては農村青年を對照し行ふものであるといふことは今更申すまでもないことである。

る。

## 第二節 農業教育と農村産業の確立

前節に於て、農村教育の地位並びに農業教育は單に職業教育とか、生産教育とかいふ狹義なものではなく、國民教育、全人教育、職業教育、としての農業教育であることを論じたのであるが、然してその被教育者である農民並に農民の子弟についてその心身の發達と、家庭の境遇と、將來の希望とに従つて、國民基礎教育としての農業教育と、已に農業に従事して居る者に對する職業教育とは、自らその内容に於て全人教育としての農業教育を中心とする場合と、職業教育としての農業教育を中心とする場合とに分れる譯である。言葉をかへて申さば、農村小學校時代の農業教育は全人教育としてのもので、それが補習學校、青年訓練所、青年團に進むにつれて段々に職業教育中心となるべきものである。以下その農業教育の徹底についてのべんとするものであるが、農業教育の素材たるべき職業は全國各地に於て夫々自然風土の影響で、特殊な形相を備へて居るから、第一に農業調査をなすことである。農業調査は農村調査中に於ける重要項目の一つで、今茲にその調査上の事は省略するが、調査の結果によつて、産業上の特質が判り従來の方針と方法上の缺陷とが又將來如何に改善發展すべきかも知られるのである。その調査に基づいて全村民は一致協力して實現に努めねばならぬ。それには確乎たる農村産業の方針が樹立されて、指導者も農民もよく之をのみこんで居らねばならぬ。

農業教育者は此の農村産業方針に従つてその農村特殊の個性に立ち系統のある指導が行はねばならぬ。産業方針の樹立に就ては、村當局、村農會、學校職員、篤農家、その他各種團體の幹部等が、中心となつて慎重に調査研究し、更に斯道の權威者の指導を受けて、徒らに理想に走ることなく實現性の豊かなるものを樹立しなければならぬ。之と同時に良く村民に理解せしめ、協同一致の力に俟ち、他の團體若くは組合と連携して一步步堅實に完



全に向はねばならぬ。産業は茲に割愛することとする。

### 第三節 小學校に於ける農業教育

法令による農業科及小學校高等科からの教科目であるが、これは高等科以上の専有物も考へて尋常科の教育は全くかへりみない様ではならぬ。尋常科の児童が農業實習地を見て恰も他人の畑を見る様な態度で如何にして農業教育の基礎が培はれよう。

尋常一年あたりから全學年にわたつて課外になるべく多く土に親しませ自然を愛護する方針のみに農業的作業に従事させることが肝要である。

近土園となづけ又は親土園なご名づけ、乃至は愛土園、學級園なごとなづけ或は勞作園なご名づくるなき色々である。教師が率先して児童と共に一緒になつて學年相當に植物花卉を栽培し尙ほ動物を飼育するのである。柔かな若草に坐し、すみきつた碧空を仰ぎ、小鳥の音を耳にしながら、大自然の清淨な雰圍氣につ、まれて、擔任教師を中心に全學年の児童が汗と泥にまみれつ、葉隠れの艶やかな苺を摘み、或は茄子に灌ぎ、雞に餌をやることにわれを忘れて嬉々として勞作するところに土に親しむの芽生へを生ずるのである。

かうして尋常科を卒へるまでには農業そのものはわからなくても、土に親しむことが好きである。一つのたのしみであるといふ氣持ちに導くところに農業教育の美しい基礎が築ける。この嫩芽を傷つけずに伸ばさねばならぬ。そして高等小學校へはこの芽は伸ばさねばならぬ。即ち農村教育の特相として四位一貫の教育であらねばならぬことである。次に高等科に於ては、尋常科卒業生の内、資産家、地主階級の子弟は多く中等學校に進み勞働者階級の子弟は義務教育修了後多く職人の徒弟に行き、工業に行き、商店に出て行くので、高等小學校に在學してゐる児童の大多數に自作農乃至小作農の子弟で將來農村に止まつて、農業に従事する境遇にあるものが比較的多い。高等科に於て農業を

重視するのは右の當然の結果である。かくして、生徒がよるこんで農業を學習し、良農、良兵、第二の農村を作ることは高等科農業教育の當然な責務である。然るに世の實際を見るに、反對のものを見せつけられることが往々ある。曰く高等小學の農業科は厄介物である。他の教科目にくらべて面白くもない。難かしい理論をならべても児童には何等ひきがない。時には反つて農業はこんなつまらないものかと思はせるものすらある。高等小學校に於ける最も重要な地位にあるべき農業科の、や、もすればその振はざるこそ甚だしきものを見せつけられるのは誠に遺憾なことである。こ、に於て大正十五年の小學校令改正となり愈々重要性を叫ぶるに至つた。これには種々の原因もあるが、第一に教師に農業科を重要視する識見の乏しかつたことである。今日の師範學校の農業科の状況を見て、相當の教育効果を認むるものもあるが、多くはまだ物足りない。かくして卒業生は農業科に對して如何なる識見を有するか一考を要すべき點である。特に専攻科に於ては文部省も非常な期待をもつてゐるらしい。農村小學校に於ては尙更のことである。かゝる先生による指導も一つの不振の原因ではなからうか。次には教師が農業科の生命を履き違ひたこと。換言せば農業は知識を授けるもの、技術を教へるものと思へて農業教育の重要な目的の農村愛好の精神、農村的情操、勤勉利用の訓練を忘れてゐたのではあるまいか。次は農業科教授の設備の行届いてゐないことである。農業科を他の教科目と同等以上に價値を認むるならば、理科に於ける特別教室、生徒の實驗器具の如き、地理、歴史に於ける圖表、參考書の如きものに相當すべき、むしろそれ以上に農業實驗の設備、標本等を備へつくべきである。農村小學校の施設のあまりに農村的特徴に乏しく、この點農村教育者の猛省一番を要する問題である。次は實習地の不完全なことである。農業科の生命は實習であり、實習なき農業科は空論である。近代勞作主義の教育が叫ばれ、農業實習地の相當に見るべきものも現はれて來たが、まだ大勢に於ては不完全のものといはねばならぬ。次は農業科の功德は理解されてゐないことである。もし村民が農業科の生命である勤勉利用の意志訓練、農民情操の陶冶を度外に置い



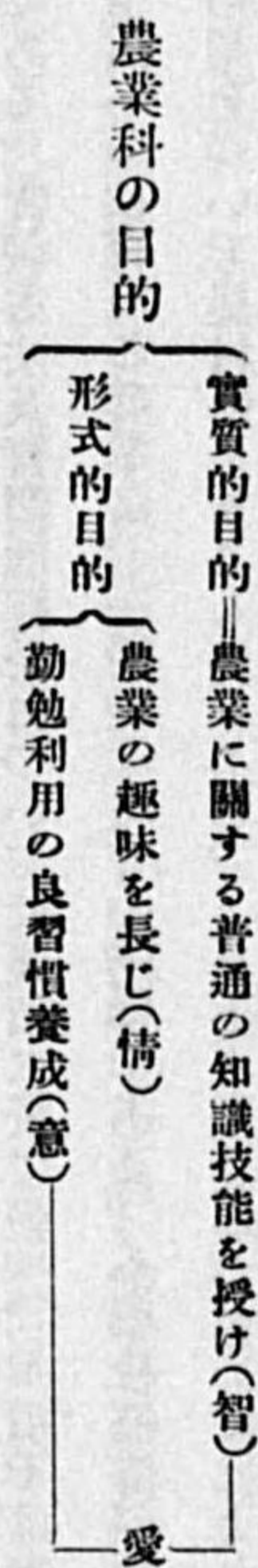
て、教科目としてはさまで必要なものも考へ、又實習地の作物の出来不出来で直ちに農業科の相場をつけるもか、教師自身に定見もなく、村人の言を氣にして作物の出来榮えにさらはれて、利益の上る作物に追はれて一營利農場と化して教育價値を減じてしまふ等の事實も見るのである。これは、父兄會、部落講話會、學校通信等によつて大いにその蒙を啓くべきである。次には町村當局に農業科の眞の意義が充分に認められてゐないことである。大多數の町村は、學校實習地も、一般農家の營利的農場を同一筆法に見てゐる。學校實習地は、どこまでも教育が主で、収入は副である。この點、教育者は、當局に充分の了解を得て、更に施設上に大いに便宜を圖つて貰ふ丈の用意が大切である。勿論實習地の營利的經營を度外視するものでは決してない。その部面も當然考へなければならぬことである。

以上の諸點につき深き留意を以てすれば、例外なく農業科は振興し村民當局も大いに自覺し、時局經濟費節減の折柄でも教師の注文通りの設備が完成をなすに至るであらう。要は教育家自身の見識、力量、熱誠の表現でなくては眞實な發展は望まれない。一口に農業教育といふと農業の學理を教へる教育と聞えるが、實際の農業教育は農民教育であり、農村教育であらねばならぬ。色々の小學農業教育が詰込式な知識教授にのみ追はれ、よし實習を課するとも一様の強制労働を強ひ自由な實驗研究も、すぎな作物もない生徒を酷使して、勤勞の習慣を養ひ得る如く誤解してゐたのである。小學校の農業科は農村に住む少年にその環境を理解せしむることを第一要件としたものである。故に商家の子弟も工業家の子弟も一般の常識として農業を知り、農業の趣味はかれらの人格を淨化し、勤勉利用の意志はかれらの生業に良き影響を與へるのである。國民として人としての教育のため、農業科を教育上の手段としたのである。第二の要件として、うるほひのある人間、清らかなる心の持主、自然の美を味はひ、天然の聲を聞き得る人間は土をはなれては育たないと思ふ。大哲人、詩人、文豪、藝術家として一世を率ゐた人間は皆土の味、土の尊さを知り之を愛した人達である。乃木將軍が那須野の百姓生活をし、トルストイ、ミレーの農村生活は、皆人間としての最上

人格を作りあけてゐる。黄塵萬丈の陋屋、煤煙の生活に追はれ、せち／＼した氣分では到底人間味のある人は生れて來ない。農業科は農民の教育より進んで全人教育であらねばならぬ。

小學校令施行規則第十三條に曰く

農業は農業に關する普通の知識と技能を得しめ農業の趣味を長じ勤勉利用の心を養ふを以て要旨とす。右の條文によれば



となる。これを吟味熟讀すれば紙背には農業國民としての人格教育、人間としての藝術、自ら創造し得る活きた藝術を味はふ人間を作れと暗示してゐる。故に智情意更に愛をなづけて四大眼目としたものである。

まづ(智)に於ては最も普通な農業に關して國民として知らざるべからざる普通基礎的な知識を學習せしむることが第一要件である。換言せば職業を唯一の對象とせる教育ではない。職業を合理化し、經濟化し、生活化する教育は農業補習教育である。従つて小學校農業教授は農業に關する一通りの確實な知識が必要である。小學校農業教師は中等學校農業科の教師の如き深きよりも廣さを必要とするものである。教育の實際、特に教授法の上手なことが必要である。無味乾燥の教材も面白く興味を喚起して學習態度を導く工夫が大切である。農業科教師の教授法の研究を特に望むものである。要するに普通の知識を授けることは高級なむづかしい學理を教へるよりも六ヶ敷いことである。次に(情)に於ては知識の教授よりも農業に對する趣味を長じさせる事を眼目とせなければならぬ。學習といふものは學科に興味をもたなかつた時には起つてくるものではない。教育は多方面の興味を喚起するのだミヘルバルトは唱へたが、



時代が進んでも益々その言の真なるを思はしめる。趣味のない農業は非常に苦しい仕事に感ずるは普通で、こんな單調な平凡な賤しいつまらない仕事はないと思ふであらう。農村を愛し、農業が好きであればこそ尊い仕事面白い仕事は愉快な職業になるのである。農業を好きにする。いひかへれば農業の趣味を起し、助長し將來農村を背負つて立つ農民たる情的な素質を養はねばならぬ。次に教師は平凡な單調な教材をも趣味化して教授するの技能と修養とを怠らないことが大切である。同じ教科目でも教師によつて成績に良否の出来るのは受持教師の學力は元より教法の工夫如何によることが多い。教師にして純眞な淨化された農業趣味を持ち趣味化された、洗煉された授業振り、實習振りがあつたらば、農業科の趣味は如何にして養ふか等々研究會で度々問題にする必要もなくなるであらう。次に意に於ては、普通の農業知識を授け農業趣味を涵養した丈では農業科の目的には頗る遠いのである。勤勉にして勞働を嫌はず、單調平凡な農業をも忍耐して成し遂げ、零細な利益をも輕視せず、一粒の米、一把の藁にも天然の恩惠の加はれるものあるを思ひ、よく利用し生活の安定を得せしむるに足る意思的訓練が最大必要事である。意思的訓練の具體化は實習である。實習方法及實習地經營については後項に於てのべ、本項では實習の教育的價置についてのべる。

生活への教育たる農業は、一面職業教育の階梯である。小學校高等科終了者の大部分は實業補習學校に入學し、父祖の業をついで農村に止まるものである。よりよく生きんがためにはよりよく職業を活かさねばならぬ。勤勞をはなれて職業はなりたない。現代人は必ず職業をもつ。職業は勤勞によりて成り立つ。國民教育として否人間としての教育に勤勞は最も尊い教育である。勤勞は汗の價を知る教育である。又その價を知る人間を作るのである。天然の恩惠を感謝する人を作る。勤勉利用、報恩感謝の諸徳は生れる、農業の實習は勞多くして、利益は割合に少ないものである。農業に熱心な人に奢侈、淫逸な指導者、遊び人の出ない筈である。着實、濃厚、忍耐の諸徳を培ふのは農業である。尊き哉農業。

天然を相手とする農業には偽りはない。よく世話した作物、肥料をやつた作物は直ちに葉に現はれ、花に表はれ且つ收穫に表はれる。美に於ては小學校農業科に對する教則には美育の名辭は表現せず、然れども全體を通じて農業趣味の助長は天然の美を知るにあり。天然の妙なる無音の音楽を聞くにあり、無心なる自然の心を知るにあり。情操の教育、美の教育、藝術の教育は現實生活をして餘裕あらしめ、外面的な物質萬能の生活に潤ひし人間味とを添へるものである。之を要するに今までの農業教育は本來の生命を忘却し徒らに死んだ知識の無理強ひを事し、所謂知識教授に追はれ、その内容も技術的末葉に走り、極端なる功利主義、實益本位の教育に傾きすぎた感がある。小學校農業科は國民教育として文化教育として、全人教育主義を高唱し、智情意併行を望むものである。趣味なき作業無價値のものはない。農業趣味の助長、本科の第一すべき勤勞は、職業の本源である。小學校は基礎教育なるが故に、勤勞を嫌はざる意志の訓練が肝要である。更に美育、藝術教育の思潮を添加し、内面生活を啓發すべき萌芽を本科學習の間に涵養すべきであると信ずる。

#### 第四節 青年教育に於ける農業教育

農村青年教育に於ける農業教育は、實業補習學校及び青年訓練所生徒を中心として男女青年團の農業教育である。農業の不振、農村の疲弊の重要な原因として、見逃すことの出来ないものとしては、農村青年に對する職業教育、農業教育の不徹底なことである。今日の農村を更生せしめる根本は、救済にあらずして自力にある。自力の根柢をなすものは、何れにしても精神の作興にありと信ずる。この精神作興こそ、若き血潮に燃えたつ農村青年への教育によりて眞の効果があがるものであらう。これが農村青年に對する農業教育の根本である。農業教育は上述せる如く、農村小學校より端緒をつけて、實業補習學校及び青年訓練所、青年團に於ていよく最高潮に達し、こゝに於ては純然たる。職業教育をなすものである。農村青年への農業教育はその農村の農業教育の中核をなすものである。農村産業の



振不振は一にか、つて此の教育の如何に支配されるものと申しても過言ではあるまい。かれら青年には既に、小學校の教科を卒へて職業に従事して居る。その職業に關する知識技能を授け、職業に對する趣味と、勤勞を重んずる習性を養ひ、以つて國民生活に須要なる教育をなすのである。現に農業に従事するものに對して行ふ實業教育で、その目的は實業生活への順應を圖り、有爲有能の人物を養成するのである。而して本教育の目的は、健全なる身體を有し、職業に對し充分なる知識技能を與へ、實行力にこむ強固なる意志を養成すべきである。青年教育に於て、農業教育（職業教育）が公民教育と共に二大眼目をなすのは此の點に於てである。職業教育は職業に對する正當なる理解を與へ、經濟能率を高めるために行ふ教育であるが、從來職業教育といへば、單に職業に關する知識技能を授ける教育のみ考へたのは確かに誤りである。農村青年教育に於ける農業科教授の方針は、

第一に、經濟的増收に關する知識技能を授ける事である。

實業補習學校、青年訓練所に於ける農業科は、普通一般農業者の採る農業を教ふるのでは役に立たない。その郷土の基本調査を充分にやつて、郷土に於ける農業上の缺點を考へ、如何にこれを改良すべきかを、遺憾なく調査研究して、その進むべき理想を認め「如何に經濟的増收を行ふべく科學を應用すべきか」といふ一般農業者より一歩進んだ所に眼をつけるべきである。此の點の指導が肝要である。次には、農業經營組織を改良して、從來の單一經營組織から、複式經營組織に移らせる様に指導すべきである。多くの農家が、昔ながらの耕種式一點張り、餘りに單一である、一ヶ年の勞力は季節によつて徒らに過不足を來して居る。生産物の種類は極限されて價格の變動による壓迫を絶えず被りつゝある。此處に於て多角形式經營をこり入れ、耕種、養畜、養蠶、園藝、農産加工品等を縱横に組み入れたる經營組織を指導して、農業のもつ最も強味とする特異性である處の自給自足主義の形態をとる時に、愈々農業經營の妙味が體驗されて、青年は眞の快味を感じ、かれらの研究は益々眞剣になつて來る。此處に於て、教師はたえず生徒に接觸して、これに一層研究心を注ぎこみ、各々その個性を伸ばし一人一研究の獎勵をなす等、日に日に効果が上り、農業改良が具體化して來るのである。次には農業經營を組織化して共同してその生産並びに生活に必要な物質を購入し生産品は共同して之を加工製造し、共同販賣をなす等の施設を整備することは、農業の改善、農村の振興上肝要なこゝである。青年農業教育に於て、注意すべきは、所謂學校の形式に拘泥してはならぬこゝである。かれらは毎日多忙な生業を持つてゐる。教室に於て學ぶ時日はきはめて少いのである。だから此の種の農業教育は、學校の教室のみで出来るものではない。教室内の授業は、ほんの一部である。専任教師は學校の机にかりつゝいて、徒らに事務に追はれるこゝなく、つゝめて餘裕を作り、ゲートル姿で村内を巡視し田園に働ける青年に對し懇切に指導すべきである。町村全體の田園が實習地であり、すべてが教材であるべきである。此の點に此の教育の特徴があり、他に味はひ得ぬ妙味があるのである。次に見逃すことの出来ないことは農村女子青年の農業教育である。現代の農村青年の思想を見る時勤勞を厭ひ、地味な職業を好まず、徒らに外面的に華美に見えて、安樂さうな生活を憧れてゐる傾向がある。之は簡単に片づける問題ではなく、農村將來にまつては眞に由々しき問題である。之に對しては農業教育の力によつて、農業に對する正しき考へ方を指導し、眞に農村生活の樂しかるべき事を了解させる様に指導し「かく農業を經營し農家の生活を改良する時、生き甲斐のある幸福なる田園生活を味はひうるものなり」の強い信念を、希望を與へることが、最も緊要である。最後に、之を一貫するに、農業を愛し農村生活を樂しみ、農業に精勵することを以て、社會國家の進展に貢獻せんとするの信念を涵養することである。即ち、農村女子に農民道を鼓吹することである。農業科教師は學校に於ける農業科指導に於て、又生徒の家庭實習、部落共同實習を通し、又廣く町村全體の農地、農業關係物を教授材料として、青年農業教育に對する深き趣味を、倦まざる研究による深遠にして該博なる知識技能は、鐵をも熔かす如き熱と、斯の道に斃れて後已むの意氣を以て、教室に將又畦畔にて生徒に農民道を鼓吹するこ

徒に接觸して、これに一層研究心を注ぎこみ、各々その個性を伸ばし一人一研究の獎勵をなす等、日に日に効果が上り、農業改良が具體化して來るのである。次には農業經營を組織化して共同してその生産並びに生活に必要な物質を購入し生産品は共同して之を加工製造し、共同販賣をなす等の施設を整備することは、農業の改善、農村の振興上肝要なこゝである。青年農業教育に於て、注意すべきは、所謂學校の形式に拘泥してはならぬこゝである。かれらは毎日多忙な生業を持つてゐる。教室に於て學ぶ時日はきはめて少いのである。だから此の種の農業教育は、學校の教室のみで出来るものではない。教室内の授業は、ほんの一部である。専任教師は學校の机にかりつゝいて、徒らに事務に追はれるこゝなく、つゝめて餘裕を作り、ゲートル姿で村内を巡視し田園に働ける青年に對し懇切に指導すべきである。町村全體の田園が實習地であり、すべてが教材であるべきである。此の點に此の教育の特徴があり、他に味はひ得ぬ妙味があるのである。次に見逃すことの出来ないことは農村女子青年の農業教育である。現代の農村青年の思想を見る時勤勞を厭ひ、地味な職業を好まず、徒らに外面的に華美に見えて、安樂さうな生活を憧れてゐる傾向がある。之は簡単に片づける問題ではなく、農村將來にまつては眞に由々しき問題である。之に對しては農業教育の力によつて、農業に對する正しき考へ方を指導し、眞に農村生活の樂しかるべき事を了解させる様に指導し「かく農業を經營し農家の生活を改良する時、生き甲斐のある幸福なる田園生活を味はひうるものなり」の強い信念を、希望を與へることが、最も緊要である。最後に、之を一貫するに、農業を愛し農村生活を樂しみ、農業に精勵することを以て、社會國家の進展に貢獻せんとするの信念を涵養することである。即ち、農村女子に農民道を鼓吹することである。農業科教師は學校に於ける農業科指導に於て、又生徒の家庭實習、部落共同實習を通し、又廣く町村全體の農地、農業關係物を教授材料として、青年農業教育に對する深き趣味を、倦まざる研究による深遠にして該博なる知識技能は、鐵をも熔かす如き熱と、斯の道に斃れて後已むの意氣を以て、教室に將又畦畔にて生徒に農民道を鼓吹するこ



き、青年は必ずや反應を現はし授けられたる知識技能を農民道の強き信念を確實に把握して此の疲弊し切つたる農村を我々の手によつて挽回せざれば、農村青年の恥辱なりこの自覺を起し青年篤農家は、彼處、此處に良き活模範を示し、全町村青年に復興氣分を横溢せしめて、着々實現され、此處に於て町村の産業は振興して、農村青年教育に於ける農業教育の使命を果しうるものであると確信する。

#### 第五節 農民を對象とした農業教育

わが國は瑞穂國の總合の農村である。悠久三千年以上の歴史を基調とし、畏くも

上、皇室の御示範御保護と、下農民の努力によつて今日に及び、人生と共に不滅の運命を荷つて居る。そして大自然に包まれ天地の力に翼賛して、生命の原泉である富と、健との供給地となり、人類最高の價値たる宇宙の眞、人生の善、自然の美、萬有の聖を最もよく表現する神秘境である。然るに美しかるべき農村は近時あまりに醜惡なる姿を現出し、農民は精神的に萎微收縮し、經濟に於て、逼迫その極に達し、厭はしき問題は頻々として起り、エデンの園であるべきものが、誠に憐れむべきことに至りたるは、眞に遺憾に堪へない。こゝに於て、此の農民に廣く教育をなす、農村の價値を確認せしめ、農業尊重の精神を顯揚し、勇奮心を鼓舞し、農村更生の實をあけしむることは、蓋し農村教育の一使命である。即ち農村へ教育としての農業教育は如何になすべきかは、農村教育上の重要な一生命を有するのである。農民の教育を實施するに當り、二つの大きな困難がある。それは一般農村の文化價値に對する無理解と、經濟の不如意とである。此の文化即ち精神的方面と經濟的物質的方面の打開は最も難事とする所であると共に、又農村振興の鍵が握られてゐるのではあるまいか。農民への農業教育は此の二つのなやみを打開して、向上の一路を辿らねばならぬ。前者は文化の開發であり、後者は經濟の建直しである。文化は常に經濟を内容とするこゝによつて初めて根柢があり、經濟は常に文化の精神的要素を背景とするこゝによつて、安定たるをうるのである。

こゝに於て、此の農業教育の目標は、農村に於ける文化人としての、經濟的生活を營まうとする人格を陶冶するにある。この精神と經濟とは、共に表裏をなすものであるが、その年齢といひ、その基礎知識の差異といひ、精神指導者は決して一律に行くものではないから之を基底に置いて、まづ經濟的の方面から入る方が農民を對象とした場合は、より効果的であるに信する。小學校、補習學校が中心となり、學校は農民道場として、農業上、一大修養所研究所であらねばならぬ。農業教育の社會化はそれである。農村教育者はあらゆる農村の機關を通し或は産業組合を、又農會を又戸主會、婦人會を、男女青年團を通じて、事ある毎に、直接に間接に、農民の教育に力を入れることが肝要である。以上の各種機關と、有機的聯絡をとつて、まづ農業の合理化を指導すべきである。青年教育に於て上述せし如く單一なる農業組織を改めて、複式農業即ち多角形農業を、青年教育を併せて指導することである。農業者は舊習を墨守すること甚だしく、此の指導は頗る困難なることなるも、青年教育と兩々相俟つて進む時は、さほゞ難事と思はれぬ。經濟的増收も亦然りである。次には金融逼迫せる今日、農會、産業組合と聯絡して、販賣、購買に對する統制をこり、組合化せる農村の經濟機構を樹立する様指導すべきである。次に生活の改善を指導することである。不整齊極まる我が農家の生活狀態を改善し、合理的生活を行ふこゝは、むしろ農業の合理化よりも田畑の整理よりも緊急を要する問題である。惟ふに、わが農家に於ける生活の不規律が經濟上の問題よりも農民の體力、心力に一大影響を及ぼし、知らず／＼の間に、天賦の生活力をして衰頹せしめて居る。農民はよろしく之に鑑みて、從來の生活狀態の上に一大斧鉞を下し、大革新を行ひ、以て徒らに消費されつゝある時間と金錢と又より以上に貴重なる精力とを有用に發揮するに努めなければならぬ。而して家族をして常に不斷に快活なる精神と、健全なる體軀とを以て立働らかしめ趣味に生き、不平不満なき充實した生活をなす、簡易と節制の生活は、虛榮に基づく來客本位の設備を改善して家族本位をなし、生活の幸福と、活動能率の増進を期すべく、指導すべきである。最後に農民のために叫びたい「かれ



らに希望を教養に餘裕を與へよ」と。更生の意氣に燃える希望を與へ、農村文化を眞に味はひ得る教養を、最新の農業知識とを與へ、然かも日々の生活を樂しむの餘裕を與へる様に指導すべきである。そして農民に「われらは何しに此の世に生れて來たか」について正しい人生觀を建てしめなくてはならぬ。共存共榮、農村文化開發のために、働くべく生れて來たのである。それが自他共に、幸福に導く正しい進み方ではあるまいか。啄木の歌に「快よく働く仕事あれ、それを仕遂けて死なんと思ふ」と、此の意氣を以て農業に携はらねばならぬ。人は事業を通して文化を創造し、人生の價値を發揮するものこの信念が樹立すれば、農村の振興なき決して六ヶ敷き問題ではない。こゝに於て農民を對象としての、農業教育者の實績はあがり、幸福なる農村理想郷が建設されるのであると確信するものである。

## 第九章 農村青年教育の振作

### 第一節 中等教育の考慮

農村青年教育は何處へ行くか、農村の興廢が人であり、將來農村を擔ふて立つべき青年の思想傾向、經濟活動とその内面に包まれてゐる信念の確否といふことは、蓋し農村を打診する無上のものである。自力更生も農村の改造も農民意識の改造もすべては青年に俟つべきものである。昭和日本の建設の重任はかゝつて農村青年の双肩にありといふべきでこの青年を如何に指導し、誘掖し、陶冶して奮起活躍せしむべきかは農村に課せられたる最も大きな課題である。農本社會實現の最も大きな部面は農村青年教育に歸着するのではあるまいか、否現下の農村問題の解決は農村青年教育の解決にあるといふても大して過言ではないと信するのである。現にわが國の實狀が都市といはず農村といはず極度の生活不安から來る人間全體のこの引きしまりのないは、放漫的精神狀態にあることは實に珍らしい現象

であつて、然も農村に於ける教育がきはめて都會的のものであり、その上にある青年教育は、はつきりした理想も、指導の原理も有たない、いはゞ繼子扱にされてゐる様では現代の青年がこの混亂時代にあつて、茫然自失するのはむしろ當然といつてもよい。凡そ人生の最も尊い時代は青年期である。小學校の時代も勿論大切な教育の時期ではあるが、人生觀、生活の本義等思想的に最も大切な教育の時期は青年期である。然るにも拘はらず現にある青年の大衆は系統的に完成し、施設の充實した底力のある教育を受くる機會を持たないのである。即ち中學校女學校時代の教育を一瞥するにわが國に於ける中等教育は全然分科主義をこつてゐて、その青年の具體的個人的教育即ち人間としての教育といふものは頗る貧弱のやうである。修身の教育もある、地理の教育もある、手藝の教育も體操の教育もある。しかしそれ等全體を統制した人間の教育といふものが行はれてゐないのである。全く個々の知識の切り賣りのに終つてゐるのではないかといふ感じがする。中學校に於ける學級擔任の如きは全く形式的なものが多くて、擔任教師と生徒との間に於ける人格的教育の眞作用は遺憾ながらそれを認むるこゝが出来ないのが事實ではあるまいか。常識的に中等學校の先生といふものが凡そそんなものであるかを考へて見ればうなづかれる節もある。青年を教育するには彼等青年の心理をつかみ熱烈な愛情を眞剣な努力が傾注され感性的の強い青年の心情に深く強い刺戟を與へて、發奮興起せしむる人格的偉大な感化力を有せなくてはならない。現在の中等學校の教育事實の上から人格的接觸の場面と機會を、又その熱意が何れにあるか、勿論中には中等學校であつてもしつかりしたものも勿論あるこゝがあるが、それは一般に知るには足らない。又主知的な現在の教育、高等學校入學準備のための現在の中等教育としては、當然墮する處に墮したまでといへばそれまでだが、現に中等學校の入學者がその目的を完うして卒業し、夫々高等の教育へ進み又社會の一員となつて國民的有用な材として活動するものはまだしもこして、志を得ず中途退學をして、農村にぶらつくものに至つては決して少數ではないが、これらの輩が眞面目な農村青年の中に伍して恐ろしい害毒を流して



あることは憂ふべき事實である。かれらの退學の理由は學業不良か、性行不良とか、學資の缺乏とかであるが、抑々入學試験といふ嚴正な考査の結果入學せしめた以上、學校に父兄生徒の間に結ばれた尊き縁でその卒業に至るまで學校としては重大なる責任がある。只カフエーに行つたとか、成績が不良であるとか、男女の關係があつたとかなき校規を亂した点で退學を命じさへすれば萬事足れりとするが如き學校の態度を耳にすることが多々ある。誠に遺憾なここ、思ふ。教育は教へることであると共に導くことであり、教ふことである。あらん限りの人事をつくし教導を與へて然る後萬策なく、涙を吞んで退學を命ぜざるべからざるものは、蓋し萬人中一にも足るまいと思ふ。然るに實際二割を超えて三割に及ぶと言ふに至つては、眞に親心としての教育魂の教育が置きすてられてゐるのではないかと思はれる。農村に於て修養機關であり事業團體として最も統制あるものは男女青年團である。これらの成績の如何は農村の將來に大なる關係をもつものである。中等學校の中途退學者や、卒業後村に居るものは決して將來農村を託するに足る行動と思想を有するかといふ点に至つては、只心細い處か危険であると思ふ。かれらは中等教育の端つくれを鼻にして態度は尊大であり、青年團の役員をして屁理窟に長じて多くは眞面目でない。煙草を喫かし、酒色に近づき眞面目に農事研究調査なきする他の青年を嘲笑するの態度が多い、如何に現在の農村青年の指導の上に禍をもたらしてゐるかを思ふと寒心に堪へない。子を持つ親は中等學校に行き出してから我が子が何だか人格の統制のとれないものになつて行くのを實感するのである。それを青年の特徴なきと誤解してはならぬ。これは全く教育さるべくして教育されないあるもの、させるわざなのではあるまいか、眞に心すべき事であると信ずる。

## 第二節 實業補習學校と青年訓練所の充實

實業補習教育が青年大衆の教育として、大正九年實業補習教育規程改正以來大いなる進歩發展をとけたことは誠によろこばしいことである。しかし現状で果してかれらの思想は確實に教化されるであらうか、農村の經濟的不況の深

刻化、利己的、利那的、享樂的思想の浸潤等から農村補習教育は、現に強い壓迫も受けやう難い状態である。勿論單なる小學校教科の補習教育や軍事的教練によつて決してかれらがこの混亂時代に處する思想統制は出來ないのである。小學校を出てから徴兵適齡迄の數年間は、人生の十字街頭に自ら立たされた最も危険な時期である。思想上からも生理上からも職業生活の上からも激しい動搖と變化を來すべき最も大切な時代であつて、特にこの時機に於ける青年の大部分は個人から次第に社會人へ關心の頭をもたけかけ、然もその社會に對して燃ゆるが如き熱意を抱いてゐるのである。この危難期に於て確乎たる教育指導がなされると否とは青年將來の運命を左右する原動力となり、國家社會にとつて重大な問題であつて、今更農村青年に對する教育充實の必要が痛感されるのである。現在實業補習學校と青年訓練所が約二百三十萬人の青年を抱擁してその指導に當つてゐるのであるが、その教育内容に於ても指導の方法に於ても改善の餘地は多い。例へば青年訓練に於て生徒も父兄も只在營年限の短縮といふことを目的として居つたり、籍丈において缺席するといふものが多かつたりして、豫期の成績をあげる事が出來ない様である。殊に最も遺憾な点は未入所者が毎年四十萬人の多數に達して居る事實である。文部省の調査によると毎年尋常小學校卒業生は約百三十萬人であつて、この中から高等科入學者が八十萬人、中等學校入學者が十五萬人合計九十五萬人を控除した數約三十五萬人、高等小學校卒業約五十萬人から中學幼年學校入學者七萬人を控除したる數約四十三萬人を合した七十八萬人に、更に高等科半途退學者及び中等學校低學年半途退學者數約二十二萬人を加へたもの、即ち約百萬人は當然青年大衆として青年訓練所か補習學校に入學すべきであるが、實際その中で毎年入學するものはせいぜい六十萬人位で、残る四十萬人の青年は將來自治公民、職業民としての教育を全然放棄してゐるのであつて、實に看過すべからざる由々しき問題なのである。然しこれまでに出席入學の歩合を高める迄には或は家庭訪問をするとか、父兄を招致して懇談するとか有力者の奔走、學務當局の獎勵位な事では、發展どころか現在の成績の維持すら困難になつてゐる



るのではあるまいか、そこで農村青年教育革新の一として、青年教育の義務制を確立してこの多くの未入學者を救はなければならぬ。小學校の義務年限延長といふことは、屢々教育界論議の中心となつたが常に市町村の負擔を増加し、その財政を壓迫するものであるといふ反對論に阻止されて、今日尙實現の機を得ずにあるが、吾人はむしろ小學校義務年限延長の代償として、青年教育機關の義務制を實行せんことを希望するものである。人は直ちにその經營を問題とするであらうが、それよりも青年教育機關は他の教育機關に比べて、はるかに少額であり然も効果の大なることを確信するものである。現に實業補習學校の如きは、一校當り千圓位の年經營で間に合はしてゐる程で殆んど問題にするに足らない程である。勿論義務制とする以上は差し當り教員俸給の半額は國庫負擔すべきで、現在に青年訓練所と實業補習學校とで二百二十一萬圓の國庫補助金を支給されつゝあるから、現在の約倍額位に増加すれば大體全教員俸給の半額に達するから、これとても大した難事ではない。要するに小學校を出て徴兵期直前まで確乎たる教育指導を行ふ青年大衆教育機關を整備し、これを義務制することを主張することは、現在農村青年指導を充實する制度上の重要問題である。たゞ義務制にしないにしても現在の如き、加減な中途半端な青年教育制度では決してこの重要な人生の危機を指導することは出來ないのである。少くも義務制教育程度の眞剣さで社會も青年教育に對して根本的革新の實を示さねばならぬ。現在世人の注目を惹いてゐる愛郷塾は思想的立場が現在社會に對してきはめて過激な方法による革新を企て、あるやうな点に於ては、決して是認されないものであるかも知れない。その形式が私塾として農村青年の精神教育に資しようとしてゐる点では、確かに青年教育の典型を示すものであつて、青年教育もこの程度の熱意を以て、農村改革の中堅人物を養成するための精神教育と、一面勤勞を本位とする教育によつて新しい途が講じられるのでなければならぬ。これには何とせよ第一に教師の問題である。この重任に副ひ得る教師を求むることは、農村青年教育充實の第一歩である。全國に於ける實業補習學校では未だ専任教員の未設置なのが相當

あつてこれらが小學校教員が兼務してお茶を濁して居る方は多い。亦實際小學校教育といふ當面の重荷を負ひ乍ら、更に青年教育まで負擔せしめるといふ事は求むる方が無理である。結局二兎を追ふもの一兎も得ずで、漫談的な教育に終る事は當然だともいへる。ひるがへつて専任教員如何であるが現在の農村青年は昔日の如く質朴從順なものではない。思想的にも輕薄な外國かぶれが相當に浸潤してゐる。片田舎の山村までが都會化して中には赤い思想も入つてゐるのもある様だ。別に理論も信念もあるものではないが、個人的な争鬪的な破壊的な理窟は案外達者である。之は皆皆までとは言はぬが、かれらの心理を強く引付けるものは哀調を帯びたジャズや小唄である。村に出來たカフェーもさきからの歸りがけ、物見や見物から歸る村の娘達を待ちぶせて騒がすのがかれらの實行運動である。「酒はのむべし百藥の長、女あいすべし無上の快樂、酔うてはまくらす美人のひざ、さめては握る天下の政治さ」いつた風の詩吟が、時々いたましい合唱になつて月夜の森から聞えて來る「爆彈三勇士」や中村震太郎の歌は小學校の兒童はよろこんで歌ふが、かれらにはびんこ來ないやうである。かうした頹廢的な氣分が多かれ少なかれあるのは事實だ。この青年を何とかして學校の門をくゞらせて、一時間でもじつこ机に向はせて講義を聞かせようと努めるのである。餘程の熱心努力と識見と愛情がなければ出來るものではない。現在の専任教員に果してそれが出來るか、實に難事の中の難事たらすんば幸な方である。しかも生徒數が少いか、成績があがらぬさかいつては村會でよく問題になるのが専任教員給である。父兄も村の當局も社會も大いに三省すべきである。この至難な教育には大救世主として卓越したる實力を有する専任教員を迎へねばならぬ。村民一致の努力でそれを助けねばならぬ。缺を賣つても給料を増して優遇せねばならぬ。それが意のままにならぬとすればせめては精神的に優遇して、勤續を計らねばならぬ。勿論教師その人を養成すべき上に於ては制度に於て、方法に於て幾多の問題はあらうが、要は教師その人を得ることである。吾人の言ふ充實は實にこの高級な教師の充實にあるのだ。設備や經費等はむしろこれに比較して枝葉の問題である。



## 第十章 農村社會教育の振興

### 第一節 農村社會教育の回顧

修徳の道は生涯を通じてなすも尙達することが出来ない。如何に聖人君子も雖も修徳足れりとするものはなく終生修徳に暮したりもよい。況んや普通の人々は死ぬまで寸時も修徳精神をやめてはならぬ。修養發展のやんだきは死である。時勢は寸刻も同所にとまらない。今日の満足は明日の不足となつてくるのである。茲に於て、社會教育、成人教育は學校教育と同じく人間教育として社會の發展文化の向上を期せねばならぬ。

現在農村に於ける四十才位から以下の人々には已に學制が布かれてから稍々整頓した制度の許に教育を受けた人々であるが、それ以上になるはまだ教育制度の完備しない不完全な教育を経た人々で中には目に一丁字のない人すらある。大體一通りの常識があつても唯經驗と自己の心得から得た知識で系統のある科學的の知識に乏しい人が多いのが農村の現状であるから、それらの人を對象としての教育が必要であると共に一面學校の兒童生活並に農村青年生活の環境整理といふ意味からも共にその教育を進めて行かねばならないのが農村社會教育の使命である。わが國に於ける社會教育は創始より既に十餘年を経過し、その實際成績についても成人教育、勞務者教育、家庭教育等に於て、或は智育、體育、徳育、趣味教育などと學校教育の及ばざる處を徹底せしむべく努力を傾倒し來り國民文化の進展に少なからぬ貢獻をして國民陶冶に偉大なるものを與へてゐることは明かな事實である。又これに従事したものは、朝に夜に晝に或は講演に或は圖書に、或は觀覽施設に體育に日もこれ足らず廣汎なる社會教育の仕事に精勵して來たのである。この節に於ては幾多論すべき事項はあるが割愛して次節に移るこゝとする。

### 第二節 年中行事と社會教育

一年間の内に實行してゆくこゝのある事は申すまでもない。けれども年々同じ様なこゝを繰り返してやつてゐる様なものである。この年々同じやうに習慣としてくりかへしてやつてゐるお祭や會合や儀式こそは、所謂年中行事なのである。行中行事の歴史的價值とか、その農村生活の協同的交際に於けるこゝとして必要かくべからざるこゝなることは申すまでもない。たゞこゝに考へなければならぬものは年中行事の取捨選擇といふこゝである。時代に於てよきもありあしきもあつたのであるから、その点に充分の考慮を拂はなくてはならぬ。此の事についても充分研究すべきことがあるが次の節に移るこゝとする。

### 第三節 將來すべき農村社會教育

農村社會教育に於てはまづ第一に社會教育の本質が何處にあるかを明確にせねばならぬ。社會教育の本質は個人的主義的な教育思潮に立つものではなくて、社會教育はあくまでも社會そのもの、教育でなければならぬ。社會をよくし、住みよき社會を建設するために個人の社會性協同性を涵養するのが社會教育の本質である。この社會本質觀を考へずして、之が教育をなす時に於てや、もすれば個人主義の實際が表はれてくるこゝがある。農村社會教育は農村の實情に即して實施すべきであつて一般的理論によつて之が教育をなすにあつては、何等の得る處なきのみならず、却つて弊害を醸す恐れなきを保せない。農村社會教育の効果をあげるためには實行力のある青年をその第一線に立たしむることである。已に老境に入つた農民には改善奮起の氣象もなくなつて居り、且つ四圍の事情から時には誤解されて反對するものを見ることがある。今後農村社會教育に於て之が成績を期する点から考へて是非共青年女子を指導して立たしめなければならぬと思ふ。この項についてもつゞきもつゞき澤山論すべき事が多い。而してこの項の完成までには紙數の十枚や二十枚ではつきぬ校務多忙あへて充分論じつゞききれないのは終生の遺憾事である。今特に結論的に將來農村教育に於て幾多考ふべく用意すべきものがあるが農村社會の教育上留意すべき事柄だけと思ふ点を列記し



て置くこととする。

記

一、目標として

- (1) 妥當にして可能性ある中正發展的改善的な農村理想(農村是)を確立して農村教育力の總和を以て實現に努むること。
- (2) 農民各個人の個人的レベルを上げることが勿論で一目標に相違はないが、社會そのものを善くすること、すみやき農村、善風美俗の農村郷土そのものを指導することが中心目標でなければならぬ。
- (3) 農民の協同性社會性の涵養に充分努力を拂ふこと。
- (4) 農村独自の歴史的、經濟的、社會的特相をみきはめその上に教育方針を樹立すること。
- (5) 農民が已に有せる常識を基礎として之を科學的系統ある知識たらしむること。
- (6) 輕薄雷同を戒め偏屈固陋を訓へ古來の陋習を破り自己の改造、家庭の善化、部落の改善に努力せしむること。

二、方法として

- (1) 農村各種教化並に産業團體の積極的有意義的な亦人的な連絡を保ち一農村の社會教育上の統制を保ち確乎たる農村理想(農村是)の目標に向つて努力すること。
- (2) 社會教育は機會の教育が多量を占有する故に機會を逸してはならぬ、集合の機會記念日とか宣傳日とか時期に應じての方面を見定め通信により揭示によつて講演により展覽により種々な形式で成果を收めねばならぬ。
- (3) 青年子女を中心とし、或は先驅たらしめその氣運を構成して目的の達成に努むること。
- (4) 時勢に後れず新味ある且つその農村一般民の長短を識別して採長補短に留意し實に於て淺くも廣く大衆に渡

ること。

- (5) 農村教育網を組織してこれが後援の下に統制ある教育を實施すること。

### 第十一章 農村教育者の使命

農村の振興を圖り、以て國本を堅くするには農村教育の充實徹底を期することを措いて他に求むる何物もないことを信ずる。農村教育の如何は農村教育者その人の信念と熱心實力とから發するものである。この意味から申せば、皇國興隆の秘鍵を握るものは、實に農村教育者その人であると思ふ。

農村の衰頹について、吾人の憂とすることは、農村に於てその頹運の挽回に努力すべき人の缺如して居る事であるが、しかし更にその人の缺如そのものよりも、それらの缺如せる人物を將來に於て作り出すべき指導、即ち農村教育者の缺如してゐることを更に一層深憂するものである。言葉をかへていへば複雑なる經濟界の變動に適應して農業の經營方法を改むる學識技能あると共に、缺陷多き農村社會生活を革新する勇氣と抱負とを有し、然も確固と大地を踏んまへて動ぜず自ら顔に汗して耕し、以て天地の化育に參するといふ崇高な「農」の使命を了得し、その天職を樂しんで之を尊重する農民の指導に對して、所謂信念と熱心實力とを有する態の教育者の多く存せぬ事を一層深く憂へざるを得ない感がする。近時農村教育革新の聲に當局の指導獎勵によつて、少數乍ら、そこに、校長の人格を中心とした農村教育機關が夫々の特色を以て生れてきた事はよろこぶ事ではあるが、猶ほ一般全國の農村教育者はまだ舊殼を脱し得ず、信念を把握する事を得ないで、進路に迷ひ暗中に摸索する體である様だ。これが原因とみとめらるゝもの、並びに將來農村教育建設の大業を完ふすべき農村教育者の使命とすべき点は種々あるであらうが、第一教師その人の人生觀である。人の世に在るや決して己一個のための存在ではない。血と肉と而して又精神を祖先にうけ、



之を子孫に傳ふる連鎖の一繋子である。更に同胞民族否全人類と横の繋りに於て相關不離の關係にある。自己は自己のためにあるにあらずして、實に祖先のため、子孫のための存在であり國家のため民族のための存在である。親は子のために殉じ、子は孫のために殉ず。われらの祖先はわれらのために遺し我等は次代にのこさなくてはならぬ。人こいふ字の説明ではないが國家同胞民族人類の間共に捧げの生活である。かくてこそ人生は無限永久の存在であり發展である。親は子を生めども心は産めぬといふ。教師は子弟を産まねど、その心を産むのである。教師のもつ思想は、子弟に傳はり又その次代の無限に宿る。思へば尊く亦恐ろしくもある。親にまつては子は無上の寶である。親が身を粉にして働き心を痛めるのは己がためといふよりも、むしろわが子を受するがためである。教師が精勵努力も亦己がためといふよりは子弟のためである。人の子だと思ふ處に教育は行はれない。我が子として愛する處に教育は光輝を發する。地位や名譽を願ふ教師は己のために教育してゐるのである。子弟のためではない。求むるものに與へらるゝものにあらず、つとめてやまず自己の天職を樂しんで人の道を行ふ者に與へらるゝ神慮である。農村の子弟は貌に於て容儀に於て可愛らしさが少ない。農村は不便で慰安がない。農村にゐる教師は何だか遅れ者の様に考へ上司に媚び權勢にすがり、只管自己の地位向上に奔走し、都市轉勤運動が行はれる。これは時代錯誤の事大思想に囚はれた人生觀で、かゝる教師の存する以上、農村教育の向上充實は、百年清河を待つも猶至らないであらう。

農村教育の建設はまづ教師の持つ人生觀から建設してかゝらねばならぬと思ふ。

次は今日迄の教育の考へ方が少數の指導者なる人々を教育するといふ所から起つて、實際生活をはなれた教育によつて發達し、それが傳統となつて一つの基礎が出来た。即ち教育といふものは、實業といふものを顧みなくてもよろしいと云ふ思想で今日迄行はれて來たのである。それにわが國明治の教育が各方面の指導者を養成する必要にせまられてゐたためにこの考に拍車をかけて指導者中心の教育に流れ、教育が大多數の國民の生活より遠ざかつて之を

怪しむ者もなきまでに社會意識となつて居つたのである。

農村教育者も亦この社會意識の中にあつて一步も出でなかつたのである。然るに今日漸く多數の國民生活に教育の基礎を置かねばならぬといふ思想が高まつて來、その大多數の國民生活は如何なるものであるかといふに、農業の雰囲気生活してゐるものが多數なのである。故に農村の雰囲気居る人に適切なる教育を行ふ様に、農村教育者がまづ社會化された教育を農村独自の立場に於て建設して行くと云ふ、大なる覺悟と努力を要する事になつたのである。つまり今日迄の都會中心主義の教育思潮から脱却して、農村中心主義教育の思想に斷乎として改善する事である。

農村小學校の教員は農村に於て直接の任務としては小學校教育であるが、實際は補習教育、青年訓練所、青年團、少年團の指導、講習會、講演會等成人方面の指導といふ風に、農村全般の教化につくべき位置に置かれてゐることは、わが農村の實情であり又前陳せし如く四位一貫の教育といふ点からも正に當然である。故に農村小學校教員は、學校の門から出て兒童卒業後の將來即ち青年時代まで、尙成人時代までも面倒を見、以て國民教育の完成を期せなければならぬ。

農村の生活の指導者としての農村教育者はまづ農村生活の實情をよく知らねばならぬ。知るは愛するここの初めであり、愛するここのから指導が初まるのである。農村問題が思想問題として亦社會問題として、或は經濟問題として亦政治問題として世に喧傳せられて居るが、農民自身から言はせるに、自身が當面する問題に對して、それ程の關心を有してゐない。唯經濟的に窮迫してゐるここのみを嘆くにすぎない。何故に經濟的に窮迫するかといふ原因、即ち農業の組織經營運用等に關する、根本問題に溯つて研究する處がない。否研究すべく彼等の教養が低きに失してゐる。これらの缺陷については、教育者が充分に理解して通俗的にこゝを考へさせねばならぬ。こゝに於て教育者は常に變動し推移してゆく農村生活の状態を、その内面的な真相に深く通じてゐなければならぬ。故に農村研究と真相調査



といふ課目が生じる譯である。之は常に農民の間に住居してかれらに接觸し、親しく談じ導くことである。即ち教育者の生活の本據を農村に置くことでその農村に職を奉じたならば、その村の向上發展に一生を捧げる決心をも其居村を永住の地と定める覺悟がなくてはならぬ。土曜日から日曜日にかけて都會や郷里に歸り、後五日間は校内に暮し、學校雰囲気から一步も出でないといふ様では農村の生活指導をする資格はない。農村教育者は一面に於て農業者であり又農業教育者でなければならぬ。農業といふ職業に通じ土に親しみ勤勞を愛し、作物を栽培し、動物を飼育する事に對して、同情と趣味を持ち、彼等と共に農村振興に熱意を有してゐなければならぬ。と同時に農業科の専任教員でなければ農業の教授が出来ないといふ様ではない。本科の擔任教師が農業については何も経験がありませんと平氣で當然の事の様に考へてゐる様では農村教育者として資格はまつないといつてもよい。この同情な深い理解と、熱心指導の實力とを併せ有する者にして初めて、農村教育者といふ資格があるものと思ふのである。

又農村教育のかくべからざる條件としては如何なる單調の生活でも、甘んじ得るといふこと、及び困窮と困苦に堪へて、成功を辛抱強く待ち得る者でなくてはならぬ。今日の農民には彈力がない。一つの物に行きつまればすぐに悲鳴をあげる。即ち補助を叫ぶ自暴自棄になつて自失するといふ様に意氣地に乏しい。之を指導し彼等に堅忍不拔の精神を培ひ、困苦缺乏に堪へる訓練を施すには教師自らその線に立つて、かれらと苦勞を共にし、困難に堪へる根氣がなくてはならぬ。農村教育者は宗教的信念を有してをらねばならぬ。教育の仕事は人を作るにある。その功罪は十幾年幾十年の後にいたらねば判らぬ。只眼前の小利に捉はれて、舉措進退を誤つたり、世の毀譽褒貶に心をうばはれてはならぬ。一度農村に職を奉じた以上これはその村その子弟と、自らを結びつけた神の尊き縁である。此の尊き清き縁を清く守つて、村を永住の地として、村の發展と子弟の幸福のために全靈全力をあけて動じない強い信念を有しなくてはならぬ。この信念の存する所は、人格の輝きとなつて農民の信望を受くることとなる。かくして農民の輿

論に對する嚴正批判も歸趨する處に正しき指示と、常に畏敬の中心になつてゐる教育者の言論のみが彼等に承認される。此の立場に立つてこそ眞に人を教へ導くもの、光り喜びが知られ、偉大なる薰陶の力によつて農村の繁榮を期し農村問題も解決し得るのである。

農村教育者は實踐躬行の士であらねばならぬ。從來教育の餘弊は只理想のみをならべて實行にかくる處があり、空虚な口頭禪に終つたことを省み、説くことよりもまづ實行に現はす實踐主義であらねばならぬ。農村教育の建設も決して理論ではなく一つの實行である。たゞひそれが一些事にもせよ着實に行ふてゆく裡に多くの教育が施される。實行主義の教育者の態度は、理窟が多くて實行力の少ない農民に與へる感化も大である。今日の農村に於て最もかくるものは着々と實行して、その頹勢挽回に努むる人士である。此の意氣を養ひ實行を尊ぶ教育として教育者は「行」の遵奉者であらねばならぬ。之を要するに農村教育建設を完ふし、農村振興の根本たる農民を、指導啓培して農民の魂を叫び起し信念を與へ、實力と熱心を持つて農村窮迫打開の戦線に雄々しく立たしむることは、農村教育者の使命である。

過去教育の業績に顧み、景仰すべき農村大教育家たる二宮尊徳翁の至誠、グレントフイヒの信念を鑑みし「我立たずんば」の自信と抱負をもつて斷乎、象牙の塔を出で、然して農村教育の新建設に向つて立たねばならぬ秋である。我が國建國と農村、民族發展の根源たる農業に、民族的、國家的、胸の高鳴りを覺えつゝ所謂抽象教育から——生活の教育へ、普通の教育から——農村独自の教育へ、理論の教育から實行の教育へ、知識の教育から、人格の教育へ、然して農村教育建設の鍵を正しく廻轉せしめて、理想郷農村の扉を開き、農村問題解決へ導きうる勇者、そは吾等の若き農村教育者である。而して亦そは神の與へた尊き使命であると確信するものである。(三元)



農村教育振興論

七ツ館尋常小學校長

工藤金徳



目次

一、はしがき……………一五  
二、農村教育改善の目標……………一五  
三、農村小學校の改善……………一五  
四、農村青年教育の要諦……………一五  
五、農村社會教育の重點……………一五  
六、農村更生の教育……………一五  
七、結 び……………一五

一、はしがき

豊葦原の瑞穂の國と稱へられた我が國は、古來から農を國の基として國家の繁榮を圖られたことは余の贅言を要せぬ所である。殊に國際聯盟退後の我が國は凡ての方面に自力更生を痛感するの時、國防上からも、經濟上からも、思想上からも農村の更生を圖り、農家の健全なる發達を促すは急務中の急務である。

然して農村更生の根本策は農村教育の振興にあるを考へ、職を農村に奉ずる余の強ひて老馬に鞭つた所以である。

二、農村教育改善の目標

一、學校教育の劃一主義を排除し、郷土の環境に基き郷土の生活を通じ、郷土に歸結する農村独自の教育方針を確立し、學校をして農村振興の源泉たらしむること。

二、「土壤親愛」の精神と「農業尊重」の氣風を徹底的に鼓吹し、「農業勞働」の實際的訓練を眞劍に行ふを以て、農村教育の根本方針となすこと。

三、「祖國愛」と「共同的精神」とを基調とし、農業經營上必要なる科學的訓練と、人格的修養を完備し、有力にして實際的なる農民を養成するに努むること。

四、農村の教育機關は凡て形式を棄て、眞劍以上の精神を實現せしむること。

三、農村小學校の改善

米國のフォード博士は、國民獎勵會の招きに應じて、我國の教育を、北は北海道から南は臺灣まで視察せられた。



其の批評には「御國の小學校は何處でも一校拜見すればよい」といつたさうです。これは都市、農村、漁村の教育が或は一種の型にはまつてゐる劃一の弊を諷したこと、思ふのである。次に猶農村の小學校教育に就ては「農村の小學校で市民教育をしてゐるやうに思ふ」此所感をのべられてゐる。

農村の小學校では第一に農具、第二に肥料舎、第三に實習地といふやうに見て歩かれたさうだが、何處の學校でも農具乏しく、肥料舎はないといふやうな有様であつたといふから博士の目から、農村でも市民教育をしてゐるやうに見えたのであらう。他山の石として農村小學校教育の改善に資したいと思ふ。

そこで農村の小學校に對しては少くも次に述べるやうな研究をし、其の改善を必要とする。殊に高等小學校の改善された今後に於て、一層國民生活に即する點に深く注意することが肝要である。今改善すべき重要點をのべるこゝ、

#### 1、農村の社會調査

農村はその構成の主要素たる人と、助要素たる天然さから成立つて居る。故に農村の富源を開發し、自治の實績をあけるには、先づ村の人的要素の状況を、天然の要素の状況の一切を精密周到に調査研究する處がなくてはならない。かく農村の實態を調査するこゝを農村社會調査といふので、社會調査を最初に試みたのは英人チャールス・ブラス氏である。氏はロンドン市にこれを實行して市民生活を改善裨益する處が多かつたといひます。

#### イ、農村社會調査の方法

調査に當つては係員の陣容を整へるの必要がある。學校が中心となつて調査をなす場合には、先づ學校長は町村長に對して町村經營の基調であり、且つ町村教育の根本であるこの社會調査の必要を説述し能く了解を得、更に町村長と共に町村會議員及び區長に對しその目的及び方法を説明して充分なる理解と同情を求め、これに共鳴し援助するの態度に出でしめなくてはならない。若しこれ等の手續をなさずに調査するが如きことあらんか、時に町村民から疑惑の眼を以て眺められ、或は教育事務の範圍を越えて濫りに市町村民生活の内容に立入るの誤解を受け、ために豫期の目的を達し得ないばかりでなく時には町村民の反感を受くるこゝさへあるのである。故に調査に先んじて前述の如き公務に携はる人々の了解を得るは勿論、更に町村及部落の状況に依つては、その他の有力者の了解と援助をも受ける必要がある場合が少くない。以上の手續を終れば愈々調査の陣容を整へなくてはならない。今左にこれが一例を示すこゝ、

總裁 町村長

副總裁 町村助役

會長 學校長

副會長 小學校首席訓導

專務幹事 同上他ノ一人

各部長 小學校教員

各部落調査主任 同上

調査係 兒童及び青年

調査相談役 區長其他長老

總裁、副總裁は別に定つた事務はないが、調査總會、其他調査に關係ある會合等に成るべく出席を乞ふ事とし、調査に關する一切の事務は會長これを總括し、副會長は會長を補佐し、事務の細部に亘る指揮、監督には專務幹事これに當る。各部長は調査の細目を數部に分ち、その各部を分擔するものである。各部落調査主任は、調査係なる青年幹部並に兒童青年を指導して調査をなさしめ、これを取纏めて各部長に報告する。各部長は各部落調査主任から受取つた



報告を纏めて専務幹事に報告し、専務幹事は各部長以下調査員を指揮して全體の調査を統一完成するものである。尙調査相談役は進んで意見を開陳することはないが、各調査員の質問に對して應答し、且つ助言を與へ以て調査員をして圓滑なる調査を行はしめ調査有終の美を收めしめようとするものである。

ロ、農村社會調査の項目

第一 土地

- 一、位置
- 二、地勢
- 三、地目別反別
- 四、土質
- 五、利用狀況
- 六、改善すべき事項
- 七、土地移動の狀態

第二 氣候

- 一、溫度
- 二、初霜晩
- 三、雨雪量
- 四、風

第三 生物

- 一、植物
- 二、動物

第四 人口

- 一、職業別戸數及人口
- 二、自作、小作別戸數
- 三、年々の増加割合

第五 勞力

- 一、年齢別人口調査
- 二、職業同上
- 三、勞力の過不足調査
- 四、雇傭狀態調査
- 五、勞働者の教育調

- 六、勞働賃銀
- 七、休業日

八、勞働の分配調査

九、耕牛馬の狀態

一〇、動力農具

一一、勞力に付改善すべき點

第六 資本

一、資本の種類

二、住宅改善事項

三、其他建物の改善すべき事項

四、農具

1、改善農具

2、動力農具

五、家畜

牛、馬、豚、鶏、其他

改善を要する點

六、肥料

1、自給肥料

第七 金融組織

1、貸借の常習

2、頼母子

3、質屋

4、信用組合

5、農業倉庫

6、銀行

7、金利

8、金融上改善すべき事項

第八 農業經營

一、農家一戸當土地反別

二、農家一戸當家畜

三、農業組織

四、農家經營面積による種別

五、主業

六、副業



- 七、販賣購入の組織
- 八、運送貯蔵
- 九、獎勵事項
- 一〇、經營上改善すべき事項

第九 生産

- 一、農業生産
  - 1、作物收入
  - 2、畜産收入
  - 3、養蠶收入
  - 4、副業收入
  - 5、總額
  - 6、農家一戸當
- 二、林産
  - 1、種別産額
  - 2、總額
  - 3、一戸當
- 三、工業
  - 1、種別産額

- 2、總額
- 3、一戸當
- 四、水産
  - 1、種別産額
  - 2、總額
  - 3、一戸當
- 五、其他
- 六、總計額
- 七、戸數一戸當

第二〇 需給物品調査

- 一、需用品種別、數量、金額
  - 二、同上中輸入數量及金額
  - 三、需給に對する特別の計畫
- 第二一 交通
- 一、道路
  - 二、水運
  - 三、車馬
  - 四、郵便電信

- 五、汽車汽船の運賃
- 六、通運會社の運賃
- 七、各地方に對する距離

第二二 郷土の歴史

- 一、郷土の沿革
- 二、神社
- 三、佛閣
- 四、古跡
- 五、人物
- 六、土地の開拓、運河等
- 七、其他

第二三 風俗習慣

- 一、衣食住
- 二、冠婚葬祭其他儀式
- 三、交際
- 四、年中行事
- 五、祭典等
- 六、民謡

- 七、娛樂
- 八、其他

第二四 自治の状態

- 一、村吏員
- 二、村會議員
- 三、選舉の狀況
- 四、各種團體
- 五、村の事業及施設
- 六、基本財産
- 七、財政狀態
- 八、其他

第二五 教育及宗教

- 一、小學校
- 二、實業補習學校
- 三、社會教育
- 四、宗教
- 五、其他

第二六 保健狀態



- 一、死亡(年齢別)
- 二、疾病、傳染病
- 三、飲料水
- 四、下水
- 五、住宅
- 六、病院
- 七、徴兵検査成績
- 八、體育競技のレコード
- 九、其他

第一七 其他社會的調査

2、實習地の設備

- 一、富力
- 二、救助を受くるもの
- 三、浮浪者
- 四、不具癡疾者
- 五、犯罪人
- 六、自殺者
- 七、婚姻及離婚
- 八、訴訟
- 九、一般的民風
- 一〇、其他

土に親しみ、土を愛し、生物の生長を樂しむ心は人間として最も純真な心で、最も必要なことである。此の習慣を養成するには三つ子の魂百までもて、小學校兒童から學校園、學級園、實習等を設けて大自然の中に於て土に親しみ、生物を愛し、業を勵む習慣を養はなければならぬ。

是等は單に一農村に於ける農民を作る所以ではない。農村を通じて眞の國民を作り、眞の人間を育つる所以である。

1、學校園の經營

學校園は、特に農村の小學校にのみ限つて必要なものではなく、都市の小學校に於ても必要なものであるが、農村の小學校に於ては、農村教育上特に之を必要とする。即ち其の教科書に現れた教材植物は觀賞用樹木、川材、灌木、

喬木、陰樹、陽樹、宿根の花弁等を調査し、學校の空地を利用し、適當に之を配當して植付け、同じく教材作物で、見本のものには作物見本園に栽培し、藥用植物は藥草園に移して兒童の教授上に利用し、又兒童に手入れせしめ、以て之を農村教育の訓練に資するやうにする。

ロ、學級園の施設

尋常一年から六年まで、各學級毎に學級園を設け其の學年の教科書にある作物又は花卉中から、草木であつて、宿根でないもので、兒童の趣味に適したもの二、三種を選び、之を其の學級の受持訓導に兒童の協力により、種子をまき、或は苗を植付け、手入れせしめ、兒童の時から土を理會し、草木を愛し、土地に親しましめ、自然の妙機に接するの機會を與ふるのである。

ハ、實習地の經營

高等小學校の實習地は、少くも一、實驗地 二、苗圃 三、作物見本園 四、生徒擔當實習地の四つのは經營するやうにし、而して其の栽培する作物は、

- 一、播種より收穫に到るまでの手入法の模式的であり、代表的であるものを選定する事。例へば大根、馬鈴薯等。
- 二、性强剛にして随つて、栽培容易なものを選定すること。例へば南瓜、馬鈴薯、花椰菜、玉葱等。
- 三、生長速にして、毎日、又毎週變化ある觀察、實驗をなし得るものを選ぶこと。
- 四、學科に於て授けた理論を應用して、試作し、又學科教授に於ける實驗觀察資料として必要多き作物を選択すること。
- 五、郷土に於て現在重視される作物、及び將來望みある作物を選択すること。

以上を考へ、完全な栽培設計書に基き、なるべく優良な成績をあげるやう努力すべきである。



設備としては、

- 1、唐鍬、普通鍬の小さなものを各一學級兒童の半數位備ふること。
- 2、堆肥舎及肥溜場を設けること。
- 3、肥料桶其他必須なる農具は、共同用のものを數個備付くこと。
- 4、農具舎又は農具置場を設けること。
- 5、實驗用の器具、藥品を備付くこと。
- 6、種子、肥料の標本を備ふること。
- 7、掛圖表類等を備付くこと。

#### ニ、一坪農業の施設

尋常四年或は五年以上の兒童に一坪農業を課し、種子は農會、學校等から供給を受け、同一種類のものを與ふるやうにし、學校では、全職員の一坪農業地を設け、之を兒童一坪農業實施上の指導地とする。

#### ホ、動物飼育

小學校に於て飼育する家畜は兒童心身の發達に適し、飼育經費の少なきもの、飼育の容易なものを選択しなければならぬ。兒童の心理的傾向として自己の好むものを伴侶として、之に親しみ、之を撫育する特性がある。又兒童の一般に愛好するものは形貌溫雅優美で、體質強健、動作活潑なものである。

多數の家畜中で此の標準に近いものは鶏である。山桑の多い地方は養蠶も面白い。この外兎等も一般農家の飼育に適し、且つ兒童心身の發達程度に順應したものである。

以上は尋常五年以上の兒童は容易に行ふことが出来る實習である。是等の實習は學校で兒童に課するばかりでなく

その稚兒を兒童に分つ等各自家庭に飼育せしむる時は、兒童を通じて、家庭の農業を促進し、又郷土生活に價值ある食品を生産して、農村振興に寄與する處も多いのである。

#### ヘ、農業的手工の實習

我が國農村の疲弊を救済する方法多々あるでせうが、適當な副業を選択してこれを大量的に生産せしむることは、最も有力な方策である。然して副業の原料をなすべき物の中で農村に容易に多量に得られるものは藁で、山間地方は木材等である。故に小學校に於て、之等を原料として農業手工を實習せしめることは極めて價值あることである。左に重要なものをあげると、

- 1、藁を原料とする手工
- イ、繩類——大小繩、各種器具に用ふる繩。
- ロ、編物類——草履、馬沓、人沓、各種俵、蓆、蓆、蠶簇、擔架。
- 2、木材を原料とする手工
- 箸、串等。
- 3、廢物を原料とする手工
- 屑繭から眞綿等。

#### 3、品評會の開催

各種實習に於て得たる成績品を一堂に集めて品評會を開催することは最も意義深いもので、是は漸次青年、村民、全體に及ぼすことは農村振興上最も望ましいことである。衆人環視の裡に自己の成績品に等級を附せらるゝことは兒童の名譽心をそゝり該科の振興上多大の効果あるものである。



亦成績品を販賣し、得たる金を貯金せしめたなら、勤儉、貯蓄の習慣を養ふことも出来るのである。其他賞品授與式等に於て生産品に加工して、試食會を催す等は面白い企てである。

#### 四、農村青年教育の要諦

##### 1、農村青年の公民教育

青年教育の方針は全村を教場、教材とし、眞に生活に徹したる教育を施すと共に、工夫、創作の能力を啓培して、新文化の建設に貢献する處あらしめなくてはならぬ。此の方針に基いて公民教育を施さんには、如何なる方法によるべきや、これ教養上重要な問題である。今左にこれが重點をあけてみよう。

##### イ、農村青年の郷土精神陶冶

公民教育の現状をみるに、その教授は、實際生活に即して行ふことは困難で、随つて法令、制度や、組織に關する教授に陥つて、從來の法制、經濟科の教授と何等選を異にしない嫌がある。故に青年はこれに興味を感じず、動もすれば該科の學習を厭ふの傾向がないではない。この缺陷を補つて、眞に公民精神の何であるかを社會人生の根本義から説き導き、これを體驗に訴へて公民生活の理想信念に燃ゆるの人たらしめなくてはならない。而してこれがためには文部省制定の實業補習學校公民科教授要綱に基き適切なる教育をなすべきであるが、それには單なる教授を以てしては決して其の目的を達することが出来ない。必ずや、これに加ふるに公民訓練を重視し、これを適切に行はなければならぬ。以下公民的訓練を中心とする公民教育の實際法案をのべる。

##### ロ、農村青年の團體精神陶冶

眞の自治は「共同の事を共同でする」處に本質があるのである。この眞の意義に於ける自治訓練を徹底させる處に

團體精神の陶冶が行はれ得るのである。故に青年をして自己の屬する團體、即ち家庭、學校、組合、團體に對して強き責任觀を感じしめ、小異を捨て、大同に合する襟度を示し、自己の全心、全力を傾倒して社會に自己を實現し、以て共存共榮の實現に力めしむべきである。この見地に立つて行ふべき訓練の主要なものを擧ぐれば、

##### (一) 家庭生活と訓練

家運の興隆、家族の團欒に力め社會的訓練の第一步を體驗せしめるを要する。

青年はその男子たるも女子たるを問はず、現に家庭生活の中心となつて居る。即ちその勞働力に於て、又その家事に立働くことに於て家庭必須の一員であり、將又家族信賴の中心である。かくの如く、家庭に於ける地位と自己の責任を自覺し、献身的態度を以て一家の興隆に、その團欒に貢献せしむべきである。

家庭に聯絡を圖り、家庭生活を教材とし、次の如く、實際的な教授及訓練を施すべきである。

##### 家庭生活の改善

##### 臺所の改善

農村の家庭生活を改善せんには、先づ臺所から入らねばならない。農村の臺所は、概して光線の透射不充分で陰鬱の感がある。それに衛生上に於て、整理整頓の點に於て、又食物調理法に於て極めて遺憾の状態である。故に青年をしてこれが改善に當らしめなければならぬ。

一家精神生活の淵源は敬神崇祖の生活である。青年をしてこれを體得せしめ、以て家風の根源に培はしめなくてはならない。その方法として臺所に神佛參拜日、祖先命日を記載した掛札を設けて、家族一同と共に參拜、慕參を勵行する等である。

臺所に鏡をおき、草花を挿し、繪畫を飾り、清楚の中に餘裕ある如くし、家庭生活の中心たらしめるのである。



### 豫算生活の勵行

現今我が國家庭生活に於ける一大缺點とする處は、豫算生活の充分に行はれてゐないことである。豫算生活の實行は男子より殊に女子の責任であるから、女子の教員は其の地方の狀況及個性に立脚して適切なる指導をなし、豫算生活を實習せしむべきである。

#### 衣食住の改善

是れはその地方に於ける古來の傳統に係る習慣として定まれるものが多く、容易にこれを行ひ得ざるものであり、急激なる方法に出づることは一一般の反感を招く恐れがある故、徐ろに青年をして研究せしめ、一般の承認を得たる後にこれが實現を圖らしむべきである。

この外女子には手藝、農産製造等

男子には養鶏、養蜂、養魚、養畜、宅地利用等の實習をなさしむべきである。

#### (二) 青年教育の訓練

實業補習學校、青年訓練所及び青年團等の生活に於て協同、自制、正義の觀念を養ひ、以てこれが徹底的訓練を期することは團體精神の陶冶上價値大なるものである。

青年教育に於ては、青年の個性及環境の調査を精密周到に行ひ、教師は全幅の愛を注ぎ身を以てこれを指導し、體育會、品評會、學藝會、講演會、旅行、遠足、共同宿泊による修養會、共同實習、各種の儀式等に於ては、小異を捨て、大同に合し、自己を犠牲にして協同一致事に當らしめ、規律を守り、秩序を尊び、情實を排して正義を重んじ、以て團體精神の陶冶を期すること、すべきである。

これが實際的施設

#### 1、敬神崇祖の施設

郷土に設けられた神饌田に奉仕せしめ、又はその初穂を伊勢大廟、明治神宮へ献穀し、又共同實習地の収益を貯蓄して、兩神宮、御陵等に奉拜するが如き、郷土偉人及び功勞者の記念碑を建立し、又は墓參をなし、その他神社、佛閣への參拜並に奉仕作業をなし、無縁佛の慰靈祭を行ひて、郷土の建設に對し嘗て努力せし人々を敬ぶ等敬神崇祖に關する公民的情操の陶冶を施すのである。

#### 2、經濟的施設

現今に於ける農村の疲弊困憊は實に極度に達して居るのであるから、愛郷心に燃えるの士は何人も先づこの經濟的難局を打開せんことを努むるであらう。而してこれが對策としては先づ勤儉、節約、生活改善、時間勵行等をなし以て個人經濟の充實を計り、擔稅力を培養して農村財政の充實に資し、一方産業組合、頼母子講の振興を圖るべきである。

青年をしてこれ等經濟充實運動に参加せしむることは郷土愛護の精神を培養し、延いて團體的精神を陶冶し得るのである。

#### 3、奉仕的施設

社會奉仕の精神を培養するところは公民教育上極めて重要なものである。其の實際的施設としては道路の修理、標木(追分、里程標等)の設備をなし、又は蠅取デーの實施、其他一般の清潔法、消防、夜警等の如きである。又女子はその手藝、裁縫の成績品を以てバザーを開催するが如きである。

#### 4、村民的施設

青年は村民の福利を増進し、延いて郷土の發展につとめしむるために、各種の講習講話會の開催、風俗刷新運動の



勵行、郷土的記念日の設定、郷土館、圖書館の設置、善行者精勤者の表彰、敬老會等を行ひ、特に敬老會は女子が中心となり主婦會等と提携して老人を慰はるが如きである。

#### 5、團體的施設

青年は男女夫々各村落毎に共同實習地を設け、村落の農事試験場としての職能を發揮せしめ、郷土農業の改善に貢献する。又村民を動かして、村落會、臺所改善講、養鶏組合、各種娛樂會等を組織し、その自治的立憲的行動によつて郷土生活の進展に貢献する如くすべきである。

#### 6、國家的施設

郷土生活の内容には、國家的祝祭日、記念日の訓話、國旗掲揚、國民實行事(國民何々デー)、國產愛用、國家的偉人祭、史蹟保存、國寶並天然記念物、名勝地の愛護等の如き國家的のものが尠くない。かくの如き事項については、各公民教育の立場から教育的の施設を講じ、公民的知識と徳操との涵養に資する處なければならぬ。

#### 7、自治的施設

自治會、村落會等の活動を促進し、又は援助して基本財産の造成、納税の勵行の援助、土木事業の完成を援助し、道路愛護、交通安全運動其他村の事業に對し出來得る限りの援助をなすの態度をとらしむべきである。

#### (三) 農村青年の公民的情操陶冶

郷土生活を基調とする公民教育に於ては、公民的情操の陶冶に留意することが肝要である。之が方法として上述の如き施設を行はしむる間に於ても涵養せらるべきであるが、尙祖國愛、郷土愛を高調せる詩歌の鑑賞をなさしめ、又これを創作せしむるが如き、或は田園生活及びそれを讚美したもので、公民的情操の涵養上價値大なる唱歌を唱はしめ、繪畫を鑑賞せしむるが如き、又は郷土に於ける美談、郷土的偉人の事蹟、郷土史實談等、公民的情操に價値大なる

讀物の編纂、全国各地の農村美術品、手藝品を蒐集し、郷土のそれ等と共に郷土館又は學校、役場等に陳列するが如きである。

#### (四) 農村青年の國家觀念養成

##### 1、皇室尊崇觀念の養成

日常生活に於て家業を興し、家風を作興し、又は郷土の開発に盡瘁或は學業を修め、身心を鍛練し、以て平時に處するの道を修むるに共に一朝有時の秋に備ふるが如きは、何れも大にしては、皇室、國家の鴻恩に報ずる所以であるとの信念を持たしめて、日常修養に勵ましめ、夢寐の間に於ても、皇室國家を忘れしめない方針を以て教育すべきであるが、時に宮城參拜、伊勢大廟、明治神宮、桃山御陵、多摩御陵等の參詣をなして、皇室尊崇の至念を養成し、又陸海軍記念日の訓話、忠君烈士の傳記に關する講話、訓練の徹底等により、忠君愛國の至誠を養ふべきである。

##### ロ、國際的觀念の養成

青年に對しては正義及び人類愛の精神を養ひ、これを基調として國際心の培養に努めなくてはならない。これがためには、文化國民としては先づ正義及び人類愛を高調し、決して國籍の相違、人種の相違によつて差別的觀念を抱くべからざる所以を悟らしめ、更にラヂオ、活動寫眞、繪畫等によつて外國の事情を了解せしめ、以て外國人を親愛するの態度を養ひ、國際心の培養に努めなくてはならない。

##### 2、農村青年の農業教育

青年教育に於て行ふべき職業教育は、職業に關する知識技能を授け、國民の經濟的能力を涵養するに共に、これによつて國民公民としての生活に樞要なる道徳を涵養することを目的とする。

職業に關する知識技能は、農村に於ては實際に農業を經營するに當つて必要な専門的實際的な知識技能でなくては



ならない。従つてこれが學科教授は「間口を狭くし、奥行を深くする」の原則に基き、一時間毎に纏つたもので直ちに實地に應用して、農業の改善に役立たせ得るものでなければならぬ。

次に國民としての經濟的能力を涵養する上には、農業經營に關する識見を養ひ、現今の如き概して單調な組織を多角形式な組織にまで進めしむるに共に、科學的知識を經營上に取入れ、動力機の利用によつて、勞力を節約し、以て農業組織の改善の氣運を起さしめ、又肥料の自給自足、販賣法の改善等に留意するが如き、經濟的能力の啓培に力を盡さなければならぬ。

農村青年をして眞に有爲な國民、公民たらしめんとするには、先づその職業觀を確立して、農業そのもの、中に無限の歡喜と隨喜の泉を發見して、これに全身全靈を傾倒してその經營に努むるに共に、常に學びたる知識を基礎として修養研鑽に努めこれを實務に應用して工夫獨創を凝し、新方法の創作をなすが如き資質を培養し、職業生活を透して其の全人格を社會に實現せしめ、公民的教養と相俟つて郷土の完成に貢獻することが、結局國家社會の完成に貢獻する所以であり、これが人生の理想であることを眞に自覺せしめ、以て人生觀を確立せしめなくてはならない。

#### (一) 農業教育と産業是

青年教育に於ては、青年に對する農業教育は、郷土に於ける産業是に立脚し、郷土農業の開發運動に當らしむることに自體が農業教育たる如く、生きた教育たるを要する。彼の農村教育の基調たらしむべく行はれた郷土調査に立脚して産業是を確立するを要するのである。

#### 1. 産業是の内容

農村の産業是はこれを物質的方面と精神的方面とより考究し確立しなくてはならない。

#### 甲、物質的方面

#### 生産に關する方面

耕種法の改善、施肥の合理化、作物及び家畜の選擇、副業の選擇等による農産物の増收並に勞力の分配等である。農業は一の營業で經濟的利益を重んずべきものであるから、經濟を顧みない單なる生産の増加は、當然無用であつて、飽くまで生産を合理化するに共に目標をおいて策定すべきである。

#### 經濟的方面

産業組合、共同販賣等を設置して、これが振興に就て村民總動員の努力をなし、又農業倉庫を設けて信用組合と共に金融の發達を圖り、以て農業經營の進歩に貢獻せしむべきである。

#### 衛生方面

住宅の清潔、整頓、衣食住の合理化、傳染病の豫防、積極的な農業的體育の奨励、簡易な農民的體操等を奨励して健全な身體と明るい精神を養ひ、以て勞働力の増加を圖るべきである。

#### 乙、知識的方面

#### 團體方面

團體精神の涵養に力を致し、村内農業の經營は出來得る限りこれを協同の力に依つて促進するの方針に出ること、すべきである。

例へば生産物はそれを品質的に統一するに共にその價格をも統一する等協同事業としての色彩を濃厚にして、現今經濟界の潮流に合致せる大量生産の實をあげしめ、又各種品評會、講習、講話會、副業、新しい農業的技術等に關する傳習會等、諸會合を開催して村民一同と共に智徳の修養に努むること。

#### 販路擴張



村農會、産業組合、青年團等は種々の方法に依つて生産品の宣傳に又は華客の誘引等の如き販路擴張運動に努力すること。

#### 視察方面

優良村に於ける、農業計畫の状況、模範産業組合、篤農家、農産市場等、郷土農業經營改善上、直接間接に模範たるべき方面を視察せしめ、以て農業趣味を涵養し經營上の識見を高め、工夫獨創力を啓培する方法に出づること。

#### (二) 實習教授の實際化

青年教育に於ける農業實習の目的は、小學校に於ける一致する處が多いが、特に農業の學理を實地に應用するに當つてこれが換骨脱胎の妙用を發揮し得るに至らしめなくてはならない。そのために原理原則を確實に修得せしむると共に實地應用に對する高能率の熟練を、經驗を養はしめ、一面大地に親しみ筋肉勞働に従事し、その心力、體力を大地に打込み、地力を發現せしむることに深奥な興味を持たしめ以て農業一體なるの境地にまで達せしめなくてはならない。殊に十四、五才から二十才頃までの農業的鍛鍊にして充分でない時は決して有爲な農民になることは出來ない。かくの如く農業實習の青年教育上に於ける獨自的の目的は、學理應用の能力と、農民的精神の涵養にあるのである。

#### 農業實習の方法

農業實習地は、晝間通年制の學校に於ては、小學校と大差ないが、普通の實業補習學校、青年訓練所等に於ては、農繁期は家庭農業に従事し、農閑の晝間學習するものであるから實習地は個人としては家庭に、團體としては各村落に、男女別に設けしめて、其の實習を容易ならしめなくてはならない。又養畜、養蠶、養魚、農業製造等の實習は便宜家庭に於て行はしめ、教師は巡廻指導又は臨時に各村落に集合せしめて指導することとする。

#### (甲) 共同實習地

共同實習の方法としては、先づその經營に責任者を設けなくてはならない。責任者は經營全般の監督をなすと共に専任教師と直接の聯絡をとり、大局に於て指導するのであつて青年團各村落の支部長を以て最も適當とする。又青年の中から管理主任を互選せしめ、前責任者の下に於て、管理上の責任を負擔せしめる。

實習時間は一定せず、家庭作業の状況に鑑み、早朝、晝間、休憩時、休日、農閑日等に於てする。収益金は支部青年の積立金、見學視察費、農具、圖書購入費、試食費及び家事實習費、父兄、母姉招待費等に充てることとする。

#### (乙) 個人實習地

個人實習地には、新に學習せし學理技術を應用し、又は共同實習地に於ける試験研究の結果成績良好と認められた事項を採つて實施せしむると共に、農業趣味を養ひ、技術を深め、農業經營上の信念を養ふにある。

經營の方法としては、先づ第一に教師は父兄會及各村落青年幹部の集合を求めて、實習地經營に關し、充分な了解を得、生きた農業經營を體驗せしめ、父兄を地主とし青年を小作人たらしめ、地面一家の試作地たらしめる方針に基いて經營せしめることとする。

これが指導には、専ら學校職員之に當り、適宜縣郡村の技術員の援助を請ふのである。指導は臨時又は豫定日時に行ひ、青年に於て特に指導を請ふ必要ある時は教師に懇談するのである。

#### (丙) 品評會

小學校に同じ。

#### 3、農村青年訓育上の施設



青年の訓練を實際化せしめんには、先づ村民性の長短を明かにし、次いでその村の青年の特質及び個性とその環境を調査し、これに基いて訓練の綱領を制定し、其の綱領に立脚して實際的施設をなさなくてはならない。

### 五、農村社會教育の重点

農村には、直接間接にその社會教育に關係する種々の組合、團體が多數あつて村民生活の向上を目的とし、健全な思想の養成、生活の改善、産業の振興、安寧秩序の維持増進等に貢献しつゝある。然るにこれ等個々の組合團體が、それ／＼思ひ／＼に行動し、その間に充分な秩序統制が保たれなかつたならば、折角の社會教育運動も眞に其の目的を達するこゝは出來難い。故に諸團體幹部及び村有志を網羅し有機的な組織體となし、以て秩序統制ある教化運動をなさしむべき農村教育網を布設しなくてはならない。

農村教育網を組織すべき人々。

- イ、村長、助役、収入役等の役場員。
- ロ、村會議員其他教化に熱心な人々。
- ハ、學校職員及び男女青年團關係中の有力者。
- ニ、神職、僧侶等。
- ホ、在郷軍人、警察官等の有力者。
- ヘ、社會事業従業者等。

農村社會教育網を中樞とし、青年を活動の中心に立たしめて實行せし事例(熊本市外健軍村の制)左表

村	教育系統	機關	主能者	網目	實施事項
の	小學教育	小學校	小學校職員	教化	<ul style="list-style-type: none"> <li>一、小學教育の徹底</li> <li>二、補習教育の充實</li> <li>三、講話講習</li> <li>四、簡易圖書館：本校、村落公堂</li> <li>五、郷土調査：毎年十月</li> <li>六、印刷物發行：毎月一回</li> <li>七、揭示教育：揭示記録</li> <li>八、就學出席獎勵</li> <li>九、育英、託兒所</li> <li>一〇、隣保事業：救済</li> </ul>
		公民學校	養成所生徒駐在所職員	交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>一、道路改善：新路一線、實施二線</li> <li>二、道路愛護、標木、街燈等の設備、交通宣傳</li> <li>三、道路安全</li> <li>一、大掃除</li> <li>二、臺所其他家庭改善</li> <li>三、服裝改善</li> <li>四、傳染病豫防：ハイトリデー</li> <li>五、衛生講話會、ハイトリ紙製造、堆肥舍設置獎勵</li> </ul>
		高等國民學校	神職	衛生	
		獎學會	役場員		
		神職會	議員		
		寺院	土木委員		

養成所生徒駐在員は農業補習學校教員養成所生徒にして、各大字に駐在し社會教育、産業開發、生活改善、青年教育等に從事し、農村教育者としての修養をなしつゝあるものであつて、恰も師範學校に於て生徒が教生として附屬小學校に實地練習をなすが如きものである。







して居たものであるが、大正十一年九月十日、他の町村同様、現在の少年赤十字團に改稱したものであり、改稱の目的は其の綱領として掲げて居る如く、

一、強健な身體を作れ。二、互に助け合へ。三、仲よく進め。の三つを徹底せしめんためであり、それが少年赤十字團の目的に合致するからであつた。

イ、徒歩及遊技練習

隔週一回、放課後各班(大字別)毎に、學校の運動場で行ひ、毎月一回又班別リレー競走を行つて居る。

ロ、運動會

春秋二回之を行ふ。

ハ、遠足

正團員ばかり(尋五以上)、年一回以上、隣村へ遠足。

ニ、社會奉仕的事項

此の方面に宮村的色彩があらはれて居る。産業少年團式の、又宮村重粘土統制式の精神を發揮する施設が講ぜられて居る。

イ、農繁期托兒所補助

團員は登校前近隣の幼兒を托兒所へ送り届ける。下校の時が来ると、團員は托兒所に行つて幼兒の遊び相手となり、夕方各自の父兄の許まで、其の幼兒を送り届けるのである。

ロ、天氣豫報の揭示

秋の收穫時、冬期の養蠶時には、學校はラヂオの天氣豫報を團員に知悉せしめる。團員は之を持ち歸りて、各大字

數ヶ所の揭示所に掲げる。

ハ、道路愛護

毎日、各班二名づつの輪番で、道路の塵芥、障害物を取り除いて美化を圖り、更に毎月一回、日曜日の午前中に、團員全部出動して全道路の美化作業を行ふこととして居る。

ニ、道路メートル標柱の手入

毎月二回、メートル標柱の汚損したものを或は洗滌し、或は修理し、文字の明示されるやう常に注意を怠らぬのである。メートル法實施の記念日には、ペンキの塗り替へをもするのである。

ハ、交通宣傳

公共道路に對する觀念を幼時より充分に養ふため、ポスターの掲揚なごして、左側通行其他交通道德の宣傳につぎめしめて居る。

ヘ、寺院奉仕

毎月一回、各寺院境内の美化作業を行ふのである。盂蘭盆には、それ／＼寺院に行つて佛具の手入れから、其他の諸整頓にまで奉仕することとして居る。

ニ、國旗宣傳

掲揚日に國旗の出でない家を見つけた場合は此の團員が、其の家を訪ふて掲出を促すのである。

ハ、相互扶助的事項

イ、早起時間勵行

早起と定時格守はもう宣傳の時代でないが、其の勵行と習慣固定のために、適當の方法を施して居る。



ろ、登校下校ミ下級生擁護

協同團結の精神は、斯ういふ時から養はなければならぬとしてゐる。

は、克己週間

農繁にか、つた節一週間を劃して、家業の手傳や子供ミしての仕事で、其の訓練を施さうとして居るのである。

ニ、衛生的事項

イ、食後及就眠前の含嗽獎勵

長い間の習慣だから、朝の含嗽以外は随分其の實行が困難であるけれども、善と信じたら行はずに居らぬ宮村人の道徳性を活かして、幼少年の時から、此の習慣を養はんミ、近頃大いに獎勵を試みて居る。

ろ、寢衣の日光消毒

毎週一回、寢衣の日光消毒をす、めてゐる。

は、驅蟲劑の服用

少年赤十字團ミしては、驅逐劑を毎月定日に服用せしめてゐる。

に、整容検査

毎月一回、團の各班長は、其の班員を集合して、整容の検査を行ふ。検査の重点は頭髮の手入、爪の手入、手拭の清否、鼻紙の適否、衣服着用の正否等である。

2、日曜學校

昭和六年八月、宮村佛敎聯合會が之を創設するに至つたのは、宗教的陶冶を少年教育の一重点として居る。村當事者の希望を實現したのだミいひ得る。

五ヶ寺に第一から第五までの日曜學校をおき、其の住職が主任となつて、靜座、勤行、唱歌、宗教講話、話、

話等の科目によつての教育を勤めて居る。開校は毎月二回、小學校の兒童を全部收容してをる。

3、托兒所

大正十年の五月之を設置したのであつた。佛敎聯合會の事業ミして、春秋農家の最も多忙な時を選び、三才から七才までの幼兒を收容し、五ヶ寺の住職夫妻が其の保姆の任務について居る。經費は佛敎聯合會之を負擔し、村の少年赤十字團が精神的に之を援助して居る。

五、青年處女社會教育

1、青年團

明治三十一年の創立。團員の資格は小學校卒業後から滿二十五才までの在村青年。

修道部、學藝部、體育部、研農部、社會部を設けて、各部に部長一名、部員五名をおき、各々團體の施設を分擔して村の先輩及學校教員の指導をうけて働いてゐる。

イ、施設にあらはれて居る特徴

い、自治的色彩

特徴の第一は、自治的色彩の鮮明なことである。豫算會議は青年團の議會だミいつてよい。提出者も評議者も、最も慎重に且つ最も眞面目に討議すべきである。宮村の青年團は自治の本義に徹し、豫算會議を眞劍の態度で行つて居る。

ろ、施設精神の徹底

宮村の青年團は、施設精神の徹底を忘れて居らぬ。之は何のための施設かの趣旨を明かにし、其の趣旨の貫徹をは



かることを忘れて居らない。それは第二の特徴だ。

は、村の指導方針を服膺す。

第三の特徴は、村の指導方針をよく服膺して居ることだ。治村の方針と村とは、青年團の施設に深く浸み込んで其の中で活潑に生きて動いて居る。

ロ、施設成績の二、三例

い、起床就眠の信號

日々の行事の一到起床就眠の信號がある。毎朝午前四時(冬季は午前五時)、各支部毎に寺鐘又は法螺貝によつて起床の信號をなし、夜は午後十時、同じく就眠の信號をする。

ろ、結婚式改善

大正十二年十一月十日、國民精神作興の詔書が下された。拜戴した宮村青年團は感激おくところを知らず、相共に聖旨拜戴方法を講じねばならぬとして、思ひは結婚式の改善に及んだのである。

式は神前で行ひ、式に列するものは新郎、新婦の雙方より數名を限つて之を定め、披露の賄費も、上(松)五圓、中(竹)三圓、下(梅)二圓、の三種とし、式日が定まるに、婚家から披露宴参列人員を青年團長に報じ、團長は之を神官に通牒し、更に仕出屋に饗膳の注文をするのである。神官への謝禮は青年團から支出する。神前の式が終るに相携へて寺院に参拜し、何事も信仰の土臺の上に築かうとする民情を發揮し、其の後一時間位の披露宴で全部の儀式を終るのである。

は、青年團理髮

各大字なる支部に簡単な理髮所を設け、毎月三回、日を定めて、夕食後法螺貝を吹き立てるのである。理髮を要する人々は、すぐ集り來つて、團員の行ふ丸刈の理髮に満足して歸つて行く。一回の料金は器具損料として金三錢である。

に、道路山林の保護

毎月五日は青年團の道路修繕の出動日である。其の外自転車唧筒の備付、下駄鼻緒箱の設置等。支部毎に團員交代の巡回制を設けて山林の保護に當つてゐる。

ハ、修養系統案

以上は青年團施設成績の只數例に過ぎぬ。其の全展望はさうしても修養系統案によらなければならぬがあまり紙面を要するので割愛する。

2、處女會

大正十年の十二月、主婦の團體と處女の團體とを分離して組織す。會員は義務教育終了後結婚までとす。修學部、文藝部、實業部、體育部、風紀部等の部屬を分ち、之に部長、部員を配し、其の活動を遺憾なからしめて居る。

施設成績

い、入會宣誓式

四月一日に行ふ。氏神の社頭に會員全部参集して、神官の修祓祝詞等行はれた後、新入の會員は堅い宣誓をなし終つて、處女會の綱領、規則、心得について充分の研究をなさしめるのである。

ろ、服制並に處女袋

作業に従事する場合は、一定の白褌、手拭姿とならしめるきめである。運動會なども其の姿で出動するのである。



處女袋といふのは、それに手拭、白褌、會員手牒、心の力、心の泉、其他會の定める一切の書類を收めて居る。

は、修 養 日  
毎月第四日曜を定日とし、會員全部參集の上、左の順序によつて修養會を行つて居る。

修養會の順序

- 一、君が代合唱
  - 一、神宮、皇居遙拜
  - 一、靜座
  - 一、開會の挨拶
  - 一、講話
  - 一、體操(國民體操其他)
  - 一、常識試問
  - 一、運針競技
  - 一、會員意見發表及申合懇談
  - 一、舞踊
  - 一、唱歌、會歌其他
  - 一、閉會の挨拶
- に、作 業 日

毎月第一日曜日を作業日とし、會員全部出勤の上、主に農業に關する作業をするのである。稻刈、除草、茶摘み、

土砂運搬、畑手入、器械繩綯ひ等を主なるものとする。

ほ、支 部 日

第二、第三日曜日を支部の會合日として居る。支部には青年團の支部と共同の修養道場が設けられて居る。支部日には其所に集つて、輪讀會、會員意見の發表、支部農園の手入等を行ふこと、して居る。

へ、常 識 試 問

毎月の修養日を選び、毎會凡そ五題位を限つて提出し、試練に試練を加へて、日常生活上に必要な常識を涵養するの工夫を凝して居る。

こ、他の團體との連絡

他の團體、即ち主婦會、青年團は勿論、農會、農友會などとの連絡を忘れぬことである。

3、實業補習學校及青年訓練所

1、實 習 地

實業補習の教育的重點は精神教育と實業教育である。然して之を達成する手段として、最も必要なるは實習教育の徹底である。本村實補及青訓の實習上注意せる點。

ゝ、設計の確立と個別指導

生徒各自の實習地について經營設計書を作成せしめ、個別指導を適切ならしめんとして居る。家庭實習は水田を一反歩以内とし、その外に養雞、養蠶、園藝、養鯉、養兔を選択實習して居る。

ろ、實 習 日 誌

農業經營上等閑に附せられ易いことは、其の經營の適否、設計の正否、經濟の如何に關する反省である。之れに對



する訓練のため、實習日誌を可成詳細に録せしめて居る。

#### は、家事 實習

家事の實習は二十人位を一組とし、各組の中心一名を主婦と假定し、主婦は材料購入帳を有し、一切の收支計算を録する。當番の主婦は、完全に之を行ひしことを教師より證明されて、次ぎの主婦に引繼ぐのである。材料は生徒持参品と購入品に分ち、購入品は、各自醸出の材料費を信用組合に預入しおき、其中より必要だけを使用する。

實習成績は一般教師を招待して批評を聞き、其の際作法練習を併せ行ひ、之れに關する批評をも受くることゝして居る。

#### に、將來の計畫

農業實習については、生徒の家庭實習地を中心として居るが、卒業生の漸次各戸に配置せらるゝに至らば、全村の耕地を全實習地と見做して、全村統一的指導をなさうと計畫して居る。

#### 六、成人社會教育

##### 1、自治協會

##### イ、組織

民風作興、生活改善、民力涵養をモットーとし、全村戸主協同の下に、共存共榮の實をあげ、理想建設を目ざして進んで居るのである。

村長が會長となり、助役が副會長をつとめる。大字に支部をおき、區長が支部長に當る。各支部は又十戸以内の隣保會に區分せられ、隣保會には組長がおかれて居る。會員は全戸主である。

##### ロ、事業

#### い、總會

毎年一月三十日、産業組合の總會と共に開催せられる。午前は産業組合、午後は戸主會の總會とするのが例となつて居る。

#### ろ、支部總會

毎年三月、九月の二回、各支部毎に開催する。村長、校長、技術員等が主として臨席する。三月には其の年度の施政方針や豫算に關しての懇談を行ひ、九月には法令の改正研究、村治上の意見交換を行ふ。

#### は、隣保會

毎月一回、夕食後組合員集會を催して、治村方針、村是徹底のための施設事項を始め、各種團體の行事、法規の改廢、申合實行事項、産業及教育上の研究事項に至るまで細大漏さず、研究討議を行ふのである。隣保會は組合員中の當番の家に輪番に集合する。

#### に、婚葬等の申合實行

宮村に於ては、自治協會が中心となつて根本の申合を草し、結婚改善は主婦會、青年團、處女會と連絡を講じ、其他は隣保會組長、方面委員等が連絡協議して確實に實行せしめることゝして居る。

#### ほ、農村不況對策

昭和五年十月十日、方面委員、區長、産業組合理事等關係者會合の上、不況に對する善處策を協議し、特別の勤勞と節約によつて、雄々しく難局打開決意を示す案を作成したのであつた。案は五ヶ條よりなつて居た。そして其の案は各戸の臺所に貼り出された。舉村一致、其の勵行を期さうと申合されたのだつた。

#### へ、宗教的信念の涵養



佛教聯合會の活動を促し、若しくは其の援助をなし、或は、各區の會合は概ね寺院を會場として、會合毎に佛前の勤行禮拜をなさしめ、或は、毎年一月一日は神社參拜後寺院に詣で、年賀の交換をなすこととし、十二月二十日は信仰週間を盛んに行ひ、六月十日の時の記念日には各戸打揃つて寺院參拜をなす等のことあり。

三、便所改善

昭和五年度より五ヶ年計畫で、村内全部に改良便所を實行することとしたのである。

2、主婦會

1、事業例

い、修養會

年二回、全會員、集合の總會の外、月一回支部毎に修養會を開催して居る。支部の修養會は寺院を會場とし、午後一時開會、佛前禮拜の後、住職より法話を聞くを例とし、それより年中修養行事表に定むる項目に従つて、其の日の修養をなすのである。此の日は村長、校長、學校職員、農會技術員等も出張して或は講話をなし、或は質問に應じ、又會員の意見發表なども行ふことがある。主婦會の貯金は、此の日凡べて持參し、支部長之をまこめた上、信用組合に預入するのである。

ろ、家庭教育の振興

毎年四月一日、入學兒のある家庭に對しては、主婦會長、副會長が同伴訪問して祝詞をのべることに、之までの教養に對する謝意を表し、更に學校教育との連絡について激勵もし懇談もし、主婦會作成の鞆を贈つて歸ることになつて居る。

は、學校訪問

自ら進んで學校を訪問し、學校の意見も聞けば、自己の希望も陳べるのが、教育に對する自覺ある主婦の態度でなくてはならぬとして居る。

に、乳兒審査會

毎年五月五日、前年中に出生した乳兒全部を集めて審査會を開き、其の成績によつて賞與するのである。此の日種痘も併せ行ふので、主婦は便宜と興味を以て出て来る。審査成績は會員一般に知悉せしめ、村醫は審査感想をのべて育兒上の注意を喚起するのである。

ほ、青年團、處女會の後援

青年團や處女會の施設は絶えず之を注視し、其の會合には必ず出席せしめるやう努力して居る。

各地からの見學者が宿泊するやうな場合には、出来る限りの便宜を圖つて居る。

青訓の記念日や查閱の場合には、時に處女會員を伴ひ、時に主婦會のみで、それに参加見學などもする。

へ、農事改良施設

年々或は講演會を、或は講習會を開催して、婦人農事知識の涵養に資し、理解した所をつとめて實際に應用せんことを奨め來つたのである。

と、苗代品評會

役員巡行審査をなして、等位に相當する賞與をなすこととして居る。

ち、農事精勵者表彰

毎年主婦の努力を之等の方面より觀察調査して、其の優良なものを支部一名づつ表彰することとして居る。

り、耕地愛護週間の参加



八月二十日から一週間を耕地愛護週間と定め、専ら田圃の淨化、雜草を刈取り堆肥を製造するのである。

ぬ、結婚調度幼生産衣葬儀服装申合

結婚調度品は、式服(裾模様を用ひず)の外、外出用羽織一枚、其の他平常用作業用を通じて木綿衣の數量をもちりきめ、従来少からず用ひて居た夏羽織其の他の贅澤と思はれるものは、一切持参せしめぬこととしたのである。結婚がきまれば、處女會は送別會を開きて餞別品を贈り、主婦會は、臺所守則を捺染せし拭布、主婦會規則、申合等を持参して歓迎の意を陳ぶることとして居る。

初生兒の産衣も標準を定めて、簡單なるものに一定す。

葬儀の時は、主婦會は髪を凡べて束髪とし、衣服を黒紋付ときめ、時間を勵行することを主張し、只管、衷心の哀悼を表しうる方法に改良したのである。

る、日常生活改善申合

昭和四年、教化總動員並公私經濟緊縮運動の提唱された際、之に呼應して左の申合をなし、他の團體のそれぐの申合せを併せ實行することとしたのであつた。

- 一、食事に關する申合——炊爨法
- 一、衣服に關する申合——労働服
- 一、住宅に關する申合——火災豫防
- 一、社交に關する申合——來賓の迎接
- を、自家用醬油醸造

昭和二年、講師を聘して醬油醸造法の講習を行つたが、爾來、主婦會は引續き熱心に研究し、其の製品は購入品を

凌駕するの好成绩をおさめるに至つた。

わ、工夫創作及廢物利用展覽會

毎年處女會と聯合して、此の意義深い催しをつけて居る。

か、野菜一品料理競技會

此の村の主婦會は處女會と同じく、季節に合ふ野菜を材料として、最も熱量多く且つ含有養量を失はぬ方法で、しかも有興味な食品の料理につき競技を行ふのである。

よ、臺所改善

改善案の研究、實行、審査、賞與と次々に著しい發展をなして居る。

た、衛生日の設定

毎月十五日が衛生日なのである。當日は早天、青年團の起床合圖に起き出づるや、各自は豫め定められた分擔部分についての清潔法を實行するのである。此の日は食器の煮沸、便所、浴場の特別掃除、寢具の日光消毒をも行ひ、他出して歸り來らば、鹽水含嗽をなさしめる。海人草飲用の勵行も此の日の行事である。

午前九時各隣保會毎に、主婦二名が組合内の實施狀況を視察するのである。視察の場合、海人草服用狀況をも調べ藥品缺乏の家庭には之を供給して行くのである。

3、在郷軍人會

七、一般社會教育

1、農友會

滿二十五才の青年團を退團したもの、十五、六年も村の中堅となつて活動する。農友會は全村一團の組織の下に、



各大字に支部がある。支部は毎月一回例会を開いて、主として農業振興に關する各般の具體的研究を行ふ。仕事は農會を提携呼應して之を行ひ、農會で行ふが便なるものは農會で、農友會で行ふが利なるものは農友會で、全設の農事施設を双方で都合よく分擔する。

#### 2、修養團支部

青年團滿期退團者、農友會關係者等によつて修養團宮村支部が組織されることとなつた。毎年男女各一日の宿泊講習を行つて精神の普及を圖り、毎月若しくは常住の施設として、向上會、總會、團員相互扶助、早起會、國民體操、登山遠足、講演會、家庭及生活改善、職業能率増進の研究、町村振興の研究、公共事業の奉仕、修養文庫設置などを行つて、精神の修養を期して居る。現在の團員數は四十八名で、助役が支部長となつてゐる。

#### 八、社會教育指導機關

##### 1、指導者

村長、助役、役場員、技術員、校長、教員、神官、僧侶

##### 2、機關

1、農會、産業組合

ロ、教化事業委員會

毎月一回定日に委員の參集を求め、各教化事業の聯絡提携、實行事項の協定、實施事項の實狀調査を行つて、全村教化の組織的、系統的振興を劃して居る。

#### 組織

委員長——村長 副委員長——校長

委員——實補教員、青訓指導員、修養團支部長、佛教聯合會副長、在郷軍人分會長、主婦會長、同指導者、青年團

副長及其指導者、農友會長、處女會長、同指導者、禁酒會長等

#### ハ、佛教聯合會

村内の各寺院が一致の態度に出で、又聯合して施設を講ずるために、佛教聯合會を組織して居る。

#### ニ、小學校

學校中心社會教育方案に基く年中行事表を編成し、學校兒童を通じ、學校施設を通じ、進んで各種團體と交渉連絡して、全村の社會教育の統制に對して少からぬ努力をしてゐる。

### 七、結 び

農村の振興は農民自身の覺醒に俟たざるを得ない。「人間の改良は凡ての改善案の出發點にして又到着點なり」云ふ金言は、古くして而も常に新しき真理である。此の意味に於て農民の教化を高め、自覺を促すべき農村教育の振興は我等の最も考究すべき大問題である。而して該問題の解決の鍵は適切なる指導者にあるので、此の指導者には如何なる人物を適當なりとするか。

農村社會學者デレット教授は農村指導者の備ふべき性質として、獨創力、組織的才能、人間の企圖に對する同情、鍛鍊せられたる智力、及び見識を擧げてゐる。

又文部省社會教育官長野長先生は、農村教育者の具備すべき要件として、

- 1、凡そ人を教育する立場にある人の具備すべき第一要件は、純眞熱烈な愛の力である。
- 2、教師の意氣、教師は燃ゆるが如き理想、抱負を有しなくてはならない。



- 3、農村に住み、農業に従事すべき青年並に現に農業に従事せる民衆を教育すべき教育者は、特に土に親しみ、農業を愛好するの至念がなくてはならない。
  - 4、農村青年の指導に當るべき専任教師及び小學校農業擔任教師は、以上の諸要件の外に、特に農業に對する専門の知識、技能を有せなくてはならない。
  - 5、農村青年の指導に當る教育者はその郷土の全部を教場、教材となして、青年を教授し、訓練しなくてはならぬ。
  - 6、農村教育者は健全なる身體の持主でなくてはならない。
- といつてゐる。他山の石以て我が玉を磨くべきである。(完)

## 農村教育振興論

五所川原尋常高等小學校訓導

横 島 英 夫



目次

第一	農村教育の目的	一六
第二	農村教育不振の原因	一八
第三	農村調査	一八
第四	農村教育の理想	一八
第五	農村教育の指導精神	一八
第六	農村教育振興方案	一八
第七	農村家庭教育	一八
第八	農村小學校教育	二〇
第九	農村青年教育	二〇
第十	農村社會教育	二三
第十一	娛樂問題	二六
結語		二九

第一 農村教育の目的

農民本來の自覺を促がし、農民の教化を深くし、其の奮起によつて、農村を繁榮せしめなければならぬ教育に於て、明治、大正の教育を顧みるべき、それは餘りに、都市模倣で、農村振興の意氣と信念を培ふことに力が足れなかつたのではなからうか。勿論當時の社會狀態を考へ、或は時代の姿を回顧するときに、必然的にかくなるべからざる機運にあつたにせよ、一般的に眺めた農村教育は不振の域を脱することは、出来なかつた様に考へられる。而して現下の農村の窮迫、農村の荒廢を見るとき、過去農村に於ける教育を清算して農村独自の實際的教育に目醒め、計畫的に組織的に農村を振興せしめようとする處に、農村教育の意味があるのではないか。

而も農村教育は、單なる學校教育でもなければ農業教育でもない。農民に對する學校及び學校以外に於ける教育の全部を總稱するものであり、所謂農民の全人教育である。

普遍的國家が要求する國民教育の目的は、善良有爲なる國民の養成である。善良有爲なる國民は、各自の職業を通して國家社會に貢献する有爲有能の全人でなければならぬ。

隨つて職業的な勤勞は國家社會の成員としての要素でなければならぬ。

農民は自己の生活する農村に於て農業に従事し、その職業たる農業に目醒め、日々の勤勞、日々の生活を通して、國家社會に貢献することに於て、正に普遍的國家の要求す農村独自の要求とを備へ得たものと言ひ得るのである。

故に農村教育は國民教育の地方化、實際化、郷土化をはかり農村に立脚し、村に適切なる教育の材料をとり入れ、即ち教育方針を農村の實情に即せしむることである。

如何に教育を叫んだ所が結局人の問題である。人間の自覺、農民の自覺は第一である。



寔に幼時から土に親しましめ、青年時代に於て土を愛し農を重んじ成人に及んで自己の田園生活の中に喜を發見し、生活を以て無上の歎喜とする人たらしむべく教育することは、農村教育の本領であらねばならぬ。

## 第二 農村教育不振の原因

農村教育振興を阻害し、不振たらしめた原因は種々あらうが其の根本精神を尋ねるとき、次の如くではなからうか。

### (1) 本來の傳統的精神

我が國古來からの教育は全く儒教的の考へ方に基くものであつて、かの儒教は上流支配階級の教育及び閑人の道樂的教育を言つたものである。

學問教育に志す者は古典による聖賢の道の研究に没頭したもので、何れも皆支配者たらんとし、己の修養によつて人を治むといふ、道德的、政治的兩面の意味を指し、結局治國平天下即ち人を治むることに置いたのである。

我が國の教育も前述の如く此の儒教的影響から實業に就くを賤しいこととし、實業には教育は不必要だと考へたのである。

生活に必要な實用教育はルネッサンス以後に自我の發見と共に漸く主張されるに至つたが、然し古來からの傳統的精神は依然繼續せられてゐるのである。

而も現今農村に於ける一般村民の教育觀なるものは未だ古來の思想を出でざるものが少くない。

百姓の子に學問は不用であるさか、或は又直ぐに目に見えぬ不生産的なものなごと言つて、冷淡視することに現代の教育思想に就ては理解が乏しい。

かくの如き誤れる教育觀の許に於ては實際的效果は望まれぬことで、要するに今日の教育は人間の教育國家社會の

一員として充分に役立つ有爲職業人を作り出すことで、實際農村の死活を制する根本問題であることを明瞭に認識せしむることである。

### (2) 秀才教育に傾きはしないか

自分の子が秀才だからと言つて、月給取りにしようとする子供の性能を考へざる只單なる信念のない教育、果して總てが親の意の如くなるか。はなやかな都會に眩惑され、誘惑されて、不良の仲に入り、或は思想的に將來を誤るものが少いわけではない。

現時又論議されてゐる入學準備教育或は入學率云々の問題を考ふるまき眞に其の子供の生涯延いては農村振興上より考へる場合重大問題だらうと思ふ。

農村の子弟は悉く農村にこいふわけではないが、確固たる信念のない秀才教育も一考すべきだと思ふ。

要するに農村に在つて、農村將來の計畫と、それに參畫する人物の養成である大眼目を考慮せず、兒童に對して生涯の幸福を想定せない秀才教育も如何に兒童を誤らせてゐることであるか。

### (3) 有爲有能なる青年の離村する傾向である。

#### (A) 經濟的原因

數年來に於ける農家恐慌は農業收入をもつて全支出を償ひ得ず、加ふるに多額の負債を負ふ生活から都市又は他地方に生活の樂土を求めんとする經濟的關係はいなめない事實である。

#### (B) 心理的原因

經濟的原因は事實にしても、より多くの有爲なる意氣の旺盛な青年の離村者のあることは心理的原因に基くものではないか。



即ち一般に一攫千金の機会を夢見る者である。實際都會は田舎より企業や就職には便利である。従つて名譽と權勢とが結び付けられてゐる。更に都會には劇場、カフェー等、青年男女を誘惑する者が多い。

(C) 農村教育の影響

山崎延吉氏の言に

「現在の農村に於ての教育は、第一に手間のかゝる教育をし、第二に時間のかゝる教育をし、第三に費用のかゝる教育をしてゐる。其の結果働かぬ人を作り農村を嫌つて都市に出て行く人間を養ひつゝある。手間がかゝればかゝる程、時間と費用をかければかける程、勤勞を厭ひ、農村を忌む人間を作つてゐる」

實に反省すべき警鐘である。

事實程度の高い教育を受ける人程、農村に止まる者が少い。意志の強い力量のある青年はと見ればいつの間にか都會に走つてゐる。

將來農村隆昌の原動力となつて活躍する青年を作るべき目標の下に教育された青年が、農村を去るこいふことは種々原因もあることであるが、慥かに教育も一原因となつてゐる。而し農村青年盡く農村に止めといふのでは勿論ない。軍人も政治家も海外に發展する青年も今日の農村から出て欲しいものである。要は一面有爲有能な青年が地を守り、餘剰の者を他に發展せしめることが原則でなければならぬと思ふ。

(4) 教育費問題である。

村費の四、五割も占める教育費に向つては直ちに教育亡村の聲を耳にするが、近時の農村不況からは無理のない事である。而し全村の子弟が受くる教育機關たる小學校は如何に將來に對する發展性をもつてゐるものであらう。直ぐ目に見

えぬところから生産的呼ばはりをするが、教育は將來に於ける重大なる生産的事實であり、機械等と異り根本的であることを考へたならば、等閑視すべきものではない。就中、農村大衆教育の本尊たる實業補習學校、青年訓練所等の教育に關しては少くも専任教員を設置すべきである。

要は農村の富力である。而して教育は結局經濟に歸すべきものであるを考へ、經費の増額は實績見るべきものあるを信ずる。

### 第三 農村調査

農村教育の基礎としての農村調査である。此の調査の基礎の上に立つこそ農村の認識も深まり農村愛が生ずるものである。

(1) 調査の方法

調査は數量的、統計的、外面的でなく、内面的、因果的で、即ち農村發展の過程、現在の傾向、荒廢の眞因等の調査でなくてはならぬ。

A、歴史的に調査し、現在に及んだ過程を明かにす——將來の指針

B、數量的に終らずして、内面的因果的の考察をすること

C、他方面の調査研究によつて農村の個性を知ること

D、隣接部他地方との比較研究をすること

E、調査は連絡實施して其の正確を期すること

而も之が調査にあたるものは



村當局、學校職員、各種團體代表者、議員、區長、神職、僧侶、警官等よく協同し統制を保ち聯絡提携して之に當るべきである。

その爲には學校職員が主體となり、各部に区分し部員を設置して事實の事務を取ることは最も適當であらう。

(2) 調査要項

- A、土地——位置、地勢、土質、總面積、土地の利用別
- B、戸口——職業別戸數、地主、自作、小作、其の他
- C、人口調査

イ、人口の増減傾向、移動傾向

ロ、職業別人口の如何なる増減傾向があるか

ハ、移動の傾向は、數、何處に、何故に

ニ、人口の移動が部落に及ぼす影響

D、郷土の歴史——神社、佛閣、古蹟、人物、郷土の沿革

E、自治の状態——選挙の状況、各種團體、村の事業施設、村吏員、村會議員

F、教育及宗教——小學校、青年教育、社會教育、宗教

G、風俗習慣——衣食住、冠婚葬祭、年中行事、民謡、娛樂、交際状況、其の他の儀式

H、保健衛生——疾病、傳染病、飲料水、下水、醫院、死亡状態、其の他

I、交通——道路、水運、車馬、荷車、自轉車、リヤカー、郵便電信、時間的距離の變遷等

J、經濟活動調査

イ、部落に於ける既墾地、並に未墾地、林野の其の使用度、農業作業の變遷、新作物又は耕作の新形式の傾向

ロ、農業經營——農業組織、一戸當土地と家畜、主業、副業、販賣、購入の組織、貯藏、農業種別、運送

ハ、生産量——量、價格、販路、それ等の動きと經濟生活の關係(量は各種別、一戸當)

ニ、勞力——家畜、機械器具の利用度、部落内の生産人員、勞力の過不足、雇傭状態、賃銀、其の他勞力に改善すべき點

ホ、資 本——資本の種類、農具、堆肥と金肥との消費の趨勢

ヘ、金融組織——頼母子、信用組合、農業倉庫、金利、其の他の金融組合

ト、社會的結合——共同作業、共同經營、寄合、公有地、共有物、郷藏、農事組合、地主小作關係、其の他種々の結合

チ、負債あらば其の額——内面的調査

リ、現物支出と現金支出との比率の差

K、農村民風の調査

イ、質實剛健の風があるかどうか

ロ、進取の風があるかどうか

ハ、勤儉力行の風があるか否か

L、無駄な生活の調査——生活改善

生活上の無駄な點、時間の勵行、物の取扱ひ方

M、土地所有關係と耕作關係の調査



N、他町村との關係

O、社會的調査——富力、救助を受くるもの、浮浪者、不具癡疾、犯罪人、訴訟等

#### 第四 農村教育の理想

デルタイの文化教育學は「教育とは文化の傳達擴充にあり」といつてゐる。

文化とは自然の理想化である。その理想生活の表現として科學、宗教、藝術、政治、經濟が生れ、之等の文化財は歴史的文化として、又客觀的精神として存在すると共に、眞善美聖健富の文化價値は規範的精神として人間を指導するものである。此の意味に於て教育せられた、文化人は文化財の内包する所の文化價値の有機的統一體としての人格を指すものである。

人格的教育は、物質のみに生きる生物以外に、人類には精神の世界がある。此の精神と物質を統一した文化を體驗し之を創造せんとする人格の養成を目標としてゐる。

社會的教育に於ては個人は社會に依存する。本質的に人間は共同生活を營む外に生きる道はない。精神に於ても同様我等の思想は全く社會的のものである。孤獨生活は許されない。團體としてのみ生存し得るものである。

教育は人間の社會共同生活を全うせしめ、より進んだ文化を満たせんとする全き人の養成が目標である。

農村教育は之等の教育思潮に従へば農村文化を統一的に認識せしめ、更に文化創造に貢献する人格的農民の養成であり、又精神文化を中心とし向上發展せしめんとする人格の陶冶であり、更に農村社會理想の立場から教育の理想實現を期せねばならぬ。

教育思潮による普遍的理想は左の如くである。

更に農民もいつても日本人としての農民である。民族的な流を拘む大和民族としての農村であり農民である。

従つて農民人格は日本民族精神を發揮する上に生命内容として、家を容れ、隣人を容れ、社會を容れ、國家を容れ、民族を容るゝものである。

此の普遍的、國家的理想は郷土農村によつて、特殊な理想も生れて來る。氣候、風土、人情、風俗や農村社會の生因、生活狀態等夫々特質を異にする爲めに独自の教育理想を有するのは當然である。

結局農村教育理想は農民各個の理想を總括し、具體化し、而して形式化されたものが其の農村の教育理想であると云ひ得る。

#### 第五 農村教育の指導精神

(1) 建國の大精神に甦る

現今の疲弊せる國勢を恢復し、時局匡救の根本精神として日本文化を再建し、民族精神を暢達して建國の大精神に甦れといふことは朝野舉つての叫びである。

此の際「我々は日本國民である。三千年來嚴しし輝き來つた日本國である」といふ信念の下に明治以來の歐米の物質文明、模倣から脱け出で日本文化の再建に努力せねばならぬ。

建國の大精神とは何か、書紀に「天業を恢弘して以て、天下に光宅るに足りぬべし」といふ御言葉がある。即ち精神文化の建設である。此の精神文化を日本だけでなく、これを全世界に押し廣め人類全體の幸福と平和を日本人によつて建設するといふのが大精神である。

此の大精神が農村を中心とした精神文化である。斯くの如く建國の大精神は農村を飽くまでも保全してゐる。



然るに明治維新以來の吾々日本民族は歐米の物質文明に眩惑せられ、大理想を忘れてしまつた。或る意味に於ては、それが爲めに、物質文化の大發展を遂げたが同時にそれが今日の憂ふべき世相を生ぜしめた病根である。これをはつきり認識し、行詰りを根本的に打開するにはさうしても、農村を中心とした精神文化を再建するにあるのである。

故に今日の國難打開の基礎が教育にあるならば其の根本も建國の大精神の上に基くべきものである。

#### (2) 勤勞精神の強調

農業の根本たる勤勞精神は近時の不況に相俟つて段々失はれてゐる。

由來農業は天然自然を相手としての職業である。天變地異の自然的災害は何時來らんも知るべからざること之等に對して自ら耐へることは平素の準備、即ち勤勞によることは職業上本質的な覺悟でなければならぬ。

然るに歐洲大戰後の好景氣は農村民を有頂天にし奢侈淫蕩の風を生ぜしめた、其の折經濟界の俄然急轉直下今回の不景氣が見舞つたのである。一度なめた味は忘れることが出來ないで生活の緊縮も經濟の低下も中々出來ない。やれ救済だ保護だこ叫んだものである。

此の農村の窮狀を保護し之を匡救せんしたのは政治家であり、救済事業は至る所に出來たのである。然し與へられる者の心である。

救済だ補助だと言つてそのみに頼り勤勞しようとする精神の消滅である。今年の如く冷害凶作によることは致し方ないが數年來の農村の生活は自ら制し自ら節し萬策盡きての窮乏であらうか。それは勿論好景氣時代に於けるより事實食ふに食へぬ窮乏者も増加したであらう。然しそれは何時の時代にもあること其の他の農村の大衆は必ずしも制する餘地がないわけでない。衣食住に於て、交際に於て、收入を圖る上に於て然りである。未だ「稼ぐに追付く

貧乏なし」の金言は金言たるを失はない。現に今年に於ける篤農家表彰を見ても分ることである。此の精神の強調は子供の時代から充分培ふべきである。

#### (3) 生活即教育の強調

教育は生活に適應させる事とも言ひ得る。理想が餘りに高遠で實際の兒童生活、農村生活から懸け離れてゐる様では生活其のものを指導することは出來ない。

教育は元來理想を見つめて、之に達すべく努力すべきであるが、其の出發は實際の生活に立たねばならぬ。

農村に於ける生活、それは農業を通してのものである。農村の家庭生活、兒童生活、社會的生活を通しての農業生活即教育であらねばならぬ。

#### (4) 農民魂の教育

農民には農民魂といふものがある。農村の指導精神はこの農民魂を呼び起すにある。農民魂は土に愛着し建國以來の育み來つた崇高なる精神である。

この精神の表現として

(A) 強い弾力性を有すること

業務の性質上自然の力に左右されることが非常に多い水害、旱魃、暴風といふ具合とにかく凶作を覺悟せねばならぬ。豊作であるからとて奢ることは出來ない。凶作であるからこゝて至る處に餓死する者もない農民の生活は自然に弾力性が養はれて來てゐる。

近時の農村世相は正に弾力性を失つてゐる證である。

(B) 正直である



決して偽りを許さないことである。他の業務の様に表面を糊塗して誤魔化し去ることは出来ない、肥料も耕作も田の草も必らず收穫に表はれて来る。自然は正しい。この自然を相手とする農民の性質は正直で表裏がない。

(C) 生物愛

生物は悉く愛の力に依つて育生する。作物は自然の愛と人類愛の恵によつて成長する。

作物は雑草の中から改良され進化されて来たのは寒暑風雨に對しても病蟲害に對しても農民の愛によつて保護されて来たので農村生産の根元は總て此の愛情にある。

農村教育に於てこの生物愛の長養は大切な一點で小學校に於ても此の見地から教科として取扱はなくとも尋一からの學年の程度に應じて生物を飼育し目的を達すべく努力すべきである。

## 第六 農村教育振興方案

### (1) 教育の家庭化

人が此の世に生れ出で、第一に教育を受ける所は家庭である。家庭に於ける教育は、學校に於ける教育の様に組織立つた系統のあるものではないが、人間として誠に貴い多くの教育を受けてゐる。母性を中心としたる教育は名利を超越した教育である。故に子は何の理由なくして父母を尊信する。學校に於ける本は教師である。

一は親子の關係、一は師弟の關係である。教師は受持の兒童に對して萬遍なく愛する。出来る者も出来ないものも愛する。そこで生徒は先生に對して尊信の念を持つてゐるが決して父母に對する程ではない。そこで骨を折らなければならぬし、事實親が子に對する如き名利を超越したものでないが、そこは矢張り人間の意志、親程にはなれぬが、さう努むべきである。

而し現在の教育を考へるに學校は字を教へる所、知識を授けるといふ感が濃厚である。

かの母心が不良兒を改心させ、母の涙は遅鈍兒を發奮させた感激談を知るに其の延長である學校教育も如何に偉大であるか。

學校に於ける教育は家庭の形をより多く取入れ家庭化したいものである。

殊に經濟的に窮迫せる現在の農村に於ては父母も子供の爲の家庭教育に心を悩ます餘力が乏しい。それよりも生活に追はれて只學校に出して置けば立派に教育して貰へると考へてゐる者が多い。此處に於て家庭教育を補ふといふ點からも家庭の形を多分に取入れて之が教育の完成を期せんとするものである。

### (2) 計畫的ならしむる

都市の如く世態が煩雜でないため、至つて呑氣になつてゐる。之は農業といふ業態を通しての必然的にそうあらしめたのは勿論であるが、而し現在將來に互つて業務はより以上に總て計畫的でないならぬ。其の都度々々の刹那主義でなく、一つの事業、一つの經營にしても充分な計畫を立て、之に當ることである。

その爲めの日誌、豫算生活、或は百姓曆等と小學校時代から啓培すべきである。

### (3) 學校内外の農村化

勿論經費の關係もあることであるが出来るだけ農村化して自然物に接せしむることである。場所は教室、教材は教科書に限られて生きた環境の少いことは如何に兒童の童心を殺ぐものであらう。學校を一步出れば總ての自然物があると言へばそれまで、あるが家庭に於けるそれとは鶏一羽見るにしても相當異なる點がないだらうか。

出来るだけ環境の自然化をはかり、教材を直觀させ、動物を飼育し作物花卉を栽培し、或は郷土農村の自然を理解せしむる爲に氣温、雨量、風向、其の他の氣象觀測をはかる等幼學年兒童から土に親しみ農業的素地を養ひ生物愛護